

平成 26 年度事業報告書

平成 27 年 5 月

横浜市立みなと赤十字病院

目 次

1	概要	1
1-1	施設概要	
1-2	建物図	
1-3	施設基準取得状況	
2	政策的医療	8
2-1	24時間365日の救急医療及び2次救急医療	
2-2	小児救急医療	
2-3	周産期救急医療	
2-4	精神科救急医療	
2-5	精神科身体合併症医療	
2-6	緩和ケア医療	
2-7	アレルギー疾患医療	
2-8	障害児者合併症医療	
2-9	災害時医療	
2-10	市民の健康危機への対応	
3	指定管理者独自の取組み	30
3-1	がんセンター	
4	地域医療の質の向上に向けた取組み	34
4-1	医療における安全管理	
4-2	医療倫理に基づく医療の提供	
4-3	地域医療機関との連携・支援（医療連携係）	
4-4	地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）	
4-5	市民委員会	
4-6	治験・受託研究	
4-7	患者・市民に対する相談・啓発活動	
4-8	患者サービス	
4-9	医療データベースの構築と情報提供	

5	職員研修	66
5-1	職員研修（総括）	
5-2	職員研修（医師）	
5-3	職員研修（看護部）	
5-4	職員研修（薬剤部）	
5-5	職員研修（医療技術部門）	
5-6	職員研修（事務部）	
6	院外からの研修受入れ	81
6-1	院外からの研修受入れ（看護部）	
6-2	院外からの研修受入れ（薬剤部）	
6-3	院外からの研修受入れ（リハビリテーション科部）	
7	職員	88
7-1	組織図	
7-2	職員配置状況	
7-3	診療科責任体制	
7-4	看護部門責任体制	
7-5	健診部門責任体制	
7-6	医療連携部門責任体制	
7-7	検査・医療技術部門責任体制	
7-8	管理部門責任体制	
8	施設管理	97
8-1	医療機器の整備状況	
8-2	施設設備改修報告	
8-3	施設設備管理報告	
8-4	外部委託	
9	経営報告	104
9-1	稼働状況等報告	
9-2	中央部門業務報告	
9-3	決算書	

1 概要

1-1 施設概要

1 名称

横浜市立みなと赤十字病院

2 開設者

横浜市長（指定管理者として日本赤十字社が運営）

3 開設年月日

平成 17 年 4 月 1 日

4 病床数

634 床（一般 584 床、精神 50 床）

5 標榜科

内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ内科、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

以上 36 科

6 沿革

- ・平成 15 年 3 月 横浜市立病院あり方検討委員会（横浜市長の諮問機関）が新病院を公設民営とする最終答申を提出
- ・平成 15 年 9 月 横浜市議会で新病院運営の公設民営化を決定
- ・平成 15 年 11 月 横浜市が指定管理者評価委員会を設置
日本赤十字社が指定管理者提案申込書を横浜市に提出
- ・平成 16 年 1 月 評価委員会が提案書による競争の結果として、「指定管理者として日本赤十字社がふさわしい」との評価報告書を市長に提出
- ・平成 16 年 2 月 横浜市議会で日本赤十字社を指定管理者として決定
- ・平成 16 年 9 月 横浜市議会で新病院名称を「横浜市立みなと赤十字病院」に決定
- ・平成 17 年 4 月 横浜市立みなと赤十字病院が開院

- ・平成 19 年 3 月 病院機能評価 Ver5.0 取得
- ・平成 21 年 2 月 地域医療支援病院承認
- ・平成 21 年 4 月 救命救急センターの指定
- ・平成 22 年 3 月 神奈川県 DMAT 指定病院
- ・平成 24 年 3 月 病院機能評価 Ver6.0 取得
- ・平成 24 年 4 月 がん診療連携拠点病院の指定
- ・平成 24 年 7 月 地域周産期母子医療センターの認定
- ・平成 25 年 4 月 標榜科を 23 診療科から 36 診療科へ細分化
- ・平成 26 年 3 月 神奈川県 DMAT-L 指定病院
- ・平成 26 年 11 月 海難事故や災害時に、当院ヘリポートの使用を第三管区
海上保安本部と合意

1-2 建物図

8階	病棟
7階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟
6階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟
5階	A病棟 C病棟 D病棟 NICU 透析室 精神科外来 化学療法センター 売店 理容室 図書室
4階	電気室・機械室
3階	救急病棟 ICU HCU CCU 手術室 心臓カテーテル室 医局 看護部 事務部 会議室
2階	健診センター アレルギーセンター 乳腺外来 緩和ケアセンター X線撮影室 血管撮影室 CT室 MRI室 心臓カテーテル室 内視鏡検査室 輸血検査室 病理検査室 細菌検査室 検体検査 SPD ME 調理室
1階	総合相談室 紹介受付 新患受付 再来受付コーナー お薬相談室 自動精算機 薬剤部 証明書発行受付 中央待合ホール 総合内科 消化器科 外科 心臓病センター（循環器科・心臓血管外科）リハビリテーション科 泌尿器科 脳神経センター（神経内科・脳神経外科） 麻酔科 整形外科 形成外科 歯科口腔外科 産婦人科 皮膚科 呼吸器病センター（呼吸器科・呼吸器外科） 眼科 小児科 耳鼻咽喉科 採血室 尿検査 心電図 超音波 筋電図 脳波 救急受付 X線撮影室 CT室 正面入口 レストラン 売店 救命救急センター 救急入口 時間外入口 緩和ケアセンター入口 中央監視防災センター
B1階	RI室 リニアック室 地下出入口 地下駐車場 喫茶 売店

1-3 施設基準取得状況

1 基本診療科

地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算 一般病棟入院基本料（7対1）
総合入院体制加算2 臨床研修病院入院診療加算（医科・歯科）
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算 超急性期脳卒中加算
妊産婦緊急搬送入院加算 診療録管理体制加算1 医師事務作業補助体制加算2
急性期看護補助体制加算 看護配置加算 療養環境加算
重症者等療養環境特別加算 無菌治療室管理加算1 重症皮膚潰瘍管理加算
緩和ケア診療加算 精神科応急入院施設管理加算 がん診療連携拠点病院加算
栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算1 感染防止対策加算1
患者サポート体制充実加算 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算 退院調整加算
救急搬送患者地域連携紹介加算 救急搬送患者地域連携受入加算
精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算 データ提出加算2 地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料1 特定集中治療室管理料1 ハイケアユニット入院医療管理料1
新生児特定集中治療室管理料2 小児入院医療管理料3 緩和ケア病棟入院料
精神科救急・合併症入院料

2 特掲診療料

植込型除細動器移行期加算 高度難聴指導管理料 がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料1 がん患者指導管理料2 がん患者指導管理料3
外来緩和ケア管理料 糖尿病透析予防指導管理料
地域連携小児夜間・休日診療料2 院内トリアージ実施料
外来リハビリテーション診療料 外来放射線照射診療料 ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料 地域連携診療計画管理料（大腿骨・脳卒中）
ハイリスク妊産婦共同管理料（I） がん治療連携計画策定料
がん治療連携管理料 肝炎インターフェロン治療計画料 薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1 医療機器安全管理料2 医療機器安全管理料（歯科）
歯科治療総合医療管理料 持続血糖測定器加算 造血器腫瘍遺伝子検査
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算Ⅰ 検体検査管理加算Ⅱ
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 植込型心電図検査
時間内歩行検査 胎児心エコー法 ヘッドアップティルト検査
皮下連続式グルコース測定 神経学的検査 小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験 センチネルリンパ節生検（併用）
センチネルリンパ節生検（単独） 画像診断管理加算1

ポジトロン断層撮影 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
 CT撮影及びMRI撮影 大腸CT撮影加算 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算1 無菌製剤処理料 心大血管疾患リハビリテーション科（I）
 心大血管疾患リハビリテーション科（II） 脳血管疾患等リハビリテーション料（I）
 運動器リハビリテーション料（I） 呼吸器リハビリテーション料（I）
 がん患者リハビリテーション料 歯科口腔リハビリテーション料2
 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
 医療保護入院等診療料 処置の休日加算1 処置の時間外加算1
 処置の深夜加算1 透析液水質確保加算1 エタノールの局所注入（甲状腺）
 エタノールの局所注入（副甲状腺） CAD/CAM冠
 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
 組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
 脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）
 下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）
 乳がんセンチネルリンパ節加算1 乳がんセンチネルリンパ節加算2
 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後） 経皮的冠動脈形成術
 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの） 経皮的冠動脈ステント留置術
 経皮的中隔心筋焼灼術 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術（レーザー
 シースを用いるもの）
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型
 除細動器交換術
 大動脈バルーンパンピング法（IABP法） 経皮的大動脈遮断術
 ダメージコントロール手術 体外衝撃波胆石破碎術 腹腔鏡下肝切除術
 体外衝撃波膵石破碎術 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
 膀胱水圧拡張術 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
 人工尿道括約筋植込・置換術
 医科点数表第2章第10節手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部手術の通
 則4を含む。）に掲げる手術
 手術の休日加算1 手術の時間外加算1 手術の深夜加算1
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
 輸血管管理料I 輸血適正使用加算 自己生体組織接着剤作成術
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 内視鏡手術用支援機器加算
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 歯周組織再生誘導手術

広範囲顎骨支持型装置埋入手術 麻酔管理料（Ⅰ） 麻酔管理料（Ⅱ）
放射線治療専任加算 外来放射線治療加算 高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算 画像誘導放射線治療加算（IGRT）
体外照射呼吸性移動対策加算 直線加速器による放射線治療（定位放射線治療）
定位放射線治療呼吸性移動対策加算 病理診断管理加算1
クラウン・ブリッジ維持管理料

3 入院時食事療養

入院時食事療養Ⅰ 特別食加算 食堂加算

4 評価療養

先進医療（超音波骨折治療法） 医薬品の治験に係る診療
医療機器の治験に係る診療

5 選定療養

病院の初診 特別の療養環境の提供 入院期間が180日を超える入院

2 政策的医療

2-1 24時間365日の救急医療及び2次救急医療

1 事業概要

- ・「救急車を断らない」ことを第一の目標にする。
- ・初期から三次まで重症度に係わりなく受け入れる。

2 26年度実績

- ・総患者数 23,913 人（入院 5,855 人、入院率 24.5%）
- ・救急車で来院数 12,701 人（※）（入院 3,904 人、入院率 30.7%）
救急車断り数 48 件（断り率 0.4%）
※ドクターヘリ含む

3 目標に対する評価

救急車断り率 1%台維持を年度当初の目標としたが、それを下回る数値を達成することができた。また救急車受入台数は開設以来の最大数を記録した。

4 次年度以降の取組み

救急車断り率 1%台以下の維持をめざし、そのうえで救急車受入数 12,000 台以上を目標としたい。

5 執行体制

救命救急センター長 八木啓一
救急部長 伊藤敏孝、集中治療部長 武居哲洋

6 データ

救急車受入数：H22 年度 9,951 台
 H23 年度 12,167 台
 H24 年度 11,914 台
 H25 年度 11,583 台
 H26 年度 12,701 台
救急車断り率：H22 年度 10.4%
 H23 年度 4.3%
 H24 年度 2.6%
 H25 年度 1.2%
 H26 年度 0.4%

2-2 小児救急医療

1 事業概要

横浜市小児救急制度における「小児拠点病院」としての役割を担っている。
具体的には、準夜間帯における小児二次救急、深夜間帯における小児一次救急の受け入れを行う。

2 26年度実績

小児科救急患者数（夜間・休日）；3,266件
（うち、入院患者数411件、救急車受入件数578件）

3 目標に対する評価

患者数の減少は、新制度での予防接種が普及したためである。小児救急拠点病院としての役割を十分に担っていると考えている。

4 次年度以降の取組み

引き続き小児救急拠点病院としての役割を担っていく。

なお、一部の医師が育児等の理由により当直に入ることができず、当直可能医師が不足している。このため、外部応援も含めた当直体制としている。今後、横浜市とも協議しながら、当直体制のあり方について検討していきたい。

5 人員体制

小児科部長 菊池信行

その他小児科常勤医師11人、非常勤医師12人

2-3 周産期救急医療

1 事業内容

周産期救急医療は主に母体搬送、新生児搬送にかかわることである。また、未受診妊婦のいわゆる飛び込み分娩、自宅分娩、なども含まれる。また、精神疾患、身体疾患合併妊婦の妊娠中期以降、必要時からの受け入れも病病連携または病診連携として行っており、これは広義の周産期救急に当てはまる。

当院の周産期担当（産婦人科、小児科）は「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という目標を掲げ、診療にあたっている。

平成24年7月25日付で当院は地域周産期母子医療センターに指定され、産科と小児科（NICU）の協力のもと、他の産科施設からの母体搬送の受け入れを中心として、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設として横浜市の周産期医療の一翼を担っている。

なお、母体搬送受け入れの基準は妊娠30週以降、推定体重1250g以上としている。

2 26年度実績

- ・母体搬送受け入れ数；23例
- ・飛び込み分娩数；1例
- ・分娩総数；1071例

3 目標に対する評価

分娩総数；1071例と前年度の958例より大幅に増加した。常勤医師7名（うち1名は半年産休）で、月平均90例の分娩を取り扱っている。

産科は24時間365日の体制で当直を組み、緊急手術もいつでも対応できる体制をとっている。これには、産科、小児科のみならず、手術室、麻酔科も協力の上で成り立っている事である。

「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という、事業目標はおおむね達成していると考えている。

4 次年度以降の取り組み

分娩受入数を増加させても、まだ分娩予約を行う必要がある。分娩数を今以上に増加させるには、ハード面、医師数、助産師数、から安全面を考慮し限界がある。次年度以降の取り組みとしては、この点の改善を図り、将来的な分娩数の増加が安全が確保されたうえで可能となるような体制を作る必要がある。

そのためには、産科常勤医師 8～10 名以上、麻酔科当直体制などが必要である。依然として産科常勤医師を安定的に確保する見通しは立っておらず、大学からの派遣と後期研修医の就職とその教育が必要である。

また、無痛分娩、院内助産、などはすでに施行しているが、更に充実させることにより分娩の質の向上、満足度の向上もはかりたい。

5 執行体制

- ・産婦人科部長 多田聖郎
- ・産科常勤医師 7 名（部長を含む）
- ・産科非常勤医師 3 名
- ・助産師 38 名

6 設備

- ・分娩室 1 室
- ・LDR 3 室
- ・陣痛室 3 室
- ・産婦人科病棟 40 床

7 データ

- (1) 別紙「周産期救急医療実績」
- (2) 別紙「母体搬送受入数及び新生児搬送受入数」

2-3「周産期救急医療」実績

平成26年度

様式/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
正常経産	70	56	52	66	64	67	71	67	62	70	58	61	764	70.4%
予定帝切	12	8	12	14	12	16	12	13	15	12	6	13	145	13.4%
緊急帝切	6	4	12	2	5	2	5	5	12	7	6	7	73	6.7%
吸引	9	4	7	2	5	9	5	4	3	8	4	4	64	5.9%
鉗子	3	3	4	4	5	4	3	1	1	3	3	5	39	3.6%
骨盤位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	100	75	87	88	91	98	96	90	93	100	77	90	1085	90.4%

母体搬送(送り)	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	
母体搬送(受け)	4	1	1	5	3	0	3	3	0	1	0	1	22	
院内助産	17	13	16	14	14	13	19	21	12	20	15	15	189	15.8%
無痛出生児数	11	20	19	11	13	23	14	8	13	20	17	15	184	15.3%
正常	9	16	13	8	6	16	10	6	8	14	10	10	126	68.5%
吸引	2	1	2	1	2	3	2	1	0	0	3	2	19	10.3%
帝王切開	0	1	2	1	0	0	1	0	4	3	1	0	13	7.1%
骨盤位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
鉗子	0	2	2	1	5	4	1	1	1	3	3	3	26	14.1%

平成25年度

様式/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
正常経産	42	45	55	50	65	72	60	54	56	58	52	63	672	70.1%
予定帝切	13	11	8	8	15	11	8	10	6	7	5	8	110	11.5%
緊急帝切	7	7	7	6	3	3	9	5	11	6	5	6	75	7.8%
吸引	4	13	1	7	6	5	4	2	8	2	8	10	70	7.3%
鉗子	1	3	1	3	2	1	1	4	0	6	2	6	30	3.1%
骨盤位						1		1		0	0	1	3	0.3%
合計	67	79	72	74	91	92	82	75	81	79	72	94	958	79.8%

母体搬送(送り)									1	0	0	1	2	
母体搬送(受け)	0	5	2	3	1	2	1	1	2	0	2	0	19	
院内助産	18	21	17	14	25	21	24	13	14	20	20	20	227	18.9%
無痛分娩数	5	11	11	17	10	14	10	14	14	11	9	20	146	12.2%
正常	2	6	10	13	7	11	7	8	5	3	7	13	92	63.0%
吸引	1	1	0	2	2	1	0	0	4	0	1	2	14	9.6%
帝王切開	1	2	0	1	0	1	2	2	5	2	0	1	17	11.6%
骨盤位	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1.1%
鉗子	1	2	1	1	1	1	1	3	0	6	1	4	22	9.7%

平成24年度

様式/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
正常経産	42	52	38	49	50	55	49	56	40	40	52	50	573	67.3%
予定帝切	4	13	10	9	12	3	9	12	11	8	7	6	104	12.2%
緊急帝切	1	6	7	3	13	5	3	11	9	12	6	4	80	9.4%
吸引	2	2	6	8	3	7	11	5	5	4	10	6	69	8.1%
鉗子	1	0	2	0	2	2	2	3	1	5	4	4	26	3.1%
骨盤位													0	0.0%
合計	50	73	63	69	80	72	74	87	66	69	79	70	852	71.0%

母体搬送(送り)	0	3	0	1	0	0	0	0	0				4	
母体搬送(受け)	0	0	3	0	0	0	2	3	3	0	4	0	15	
院内助産	16	5	15	25	28	26	18	19	24	20	17	17	230	19.2%
無痛	6	7	8	4	10	9	16	16	5	11	14	21	127	10.6%
正常	4	6	5	3	7	3	8	8	1	4	8	12	69	54.3%
吸引	2	0	0	1	1	2	6	1	0	0	3	3	19	15.0%
帝王切開	0	1	1	0	1	2	0	5	4	3	0	2	19	15.0%
鉗子	0	0	2	0	1	2	2	2	0	4	3	4	20	15.7%

平成23年度～平成26年度の母体搬送受入数及び新生児搬送受入数

母体搬送受入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成24年度	0	0	1	0	0	1	2	3	3	0	4	0	14
平成25年度	0	5	2	3	1	2	1	1	2	0	2	0	19
平成26年度	4	1	1	5	3	0	3	3	0	1	0	2	23

新生児搬送受入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成24年度	4	1	1	3	1	1	0	0	1	0	0	1	13
平成25年度	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4
平成26年度	0	0	2	2	0	0	1	1	1	0	0	0	7

2-4 精神科救急医療

1 事業概要

・4 県市（神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市）が協調して実施している精神科救急医療に、基幹病院の一つとして従事している。

・「神奈川県精神科救急医療に関する実施要綱」の規定に準じ、夜間、休日、深夜輪番日の精神科救急患者（三次、二次）の受入を行っている。そのために、保護室 3 床を確保している。

・受け入れ時間

平日（深夜当番日を除く） 17：00-22：00

休日（深夜当番日を除く） 8：30-22：00

深夜当番日 平日 17：00-翌 8：30 休日 8：30-翌 8：30

2 平成 26 年度実績

	受け入れ数		入院形態			転帰		
	受診数	入院数	措置	医保	任意	転院	退院	その他
3 次救急	26	23	22	1	0	20	3	0
2 次救急	13	13	—	13	0	9	3	1

・平均在院日数：22.8 日（院内後方を除いた平均在院日数：23.6 日）

3 目標に対する評価

・精神科身体合併症・救急入院料を算定するために必要である年間 20 件以上の措置入院を受け入れることができた。

・平均在院日数がやや長い。

4 次年度以降の取り組み

・法律に則り、人権に配慮した医療を行う。

・より多くの患者を受け入れられるよう、速やかな後方転送を目指す。そのために、精神症状のコントロールに努め、円滑な転院に向けての働きかけを行う。

5 執行体制

・部長 嶋津奈、副部長 京野穂集、他医師 5 名。

（うち精神保健指定医 5 名）

・師長 1 人、看護師 26 人（夜勤看護師数 4 人）

・精神保健福祉士数 3 人（専任 2 名）

6 データ

精神科救急受診数の推移（年度別）

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
3次救急	15	37	35	42	39	51	44	26
2次救急	4	7	19	12	9	7	9	13

2-5 精神科身体合併症医療

1 事業概要

- ・ 4 県市（神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市）が協調して実施している精神科身体合併症転院事業に従事している。
- ・ 「神奈川県精神科救急身体合併症転院事業実施要綱」に基づき、神奈川県内の精神病院に入院中の身体合併症患者を平日昼間に受け入れている。
- ・ 神奈川県内の 3 つの病院（当院、横浜市立大学市民総合医療センター、済生会横浜市東部病院）が担当し、当院は、身体合併症を受け入れるための病床を 10 床確保している。

2 平成 26 年度実績

- ・ 受入れ患者数： 66 人
- ・ 受入医療機関数：22 病院
- ・ 入院患者数： 43 人
- ・ 平均在院日数： 24.7 日
- ・ 転帰内訳：依頼元病院への転院 38 人、
依頼元以外の病院への転院 4 人、
直接退院 0 人、
その他 1 人（死亡）

3 目標に対する評価

当院への依頼件数は、当初年間 70 件と想定されていた。平成 20 年度以降は、年間の受け入れ数は約 70～100 件で推移した。これは、身体合併症転院事業の症例の約 7-8 割にあたる。H26 年度は受け入れ数がやや減少したが、実際には、行政を介さずに直接受け入れた症例もあり、当院は十分に役割を担えていると思われる。

4 次年度以降の取り組み

- ・ 身体科と協力し、質の高い医療を目指す。
- ・ より多くの患者に必要な医療を提供できるよう、入院期間ができるだけ短期間となるよう心がける。

5 執行体制

「2-4 精神科救急医療」参照。

6 データ

身体合併症転院事業 受け入れ患者数 推移

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
みなと赤十字	44	71	97	74	70	85	79	66
計	52	87	117	98	91	111	112	89

2-6 緩和ケア医療

1 事業概要

(1) 緩和ケア病棟病床数

25 床	全個室
特別個室	12 床
無料個室	13 床

(2) 入院対象

- ・がんなどの悪性疾患で終末期(余命 6 か月以内)にある方
- ・患者と家族が病名または病状を理解して緩和ケアの入棟を希望する方
- ・病状が悪化し、在宅での生活が困難になった方
- ・入院対象にある疾患でかつ在宅で過ごしている方で、家族の休息のための短期入院を希望する場合

(3) 入院までの手続き

- ・電話で外来の予約(必要書類を自宅へ郵送)
- ・必要書類を準備し、外来受診(家族の代理受診可)
- ・入院希望者に、病棟内での判定会議後、入院順番の調整を図る
- ・入院決定したら連絡

(4) 緩和ケア病棟の役割

- ・横浜市民のための緩和ケアの提供
- ・症状緩和を中心とした医療の提供
- ・在宅生活や介護生活の疲労の軽減
- ・終末期の安心で安寧な生活の提供
- ・地域と連携し在宅療養の支援

(5) 緩和ケアチームの役割

- ・一般病棟で緩和ケアを必要とするがん患者に、がん性疼痛をメインとした症状コントロールと精神的な支援を多職種と協働しながら提供する。

2 平成 26 年度緩和ケア医療実績

(1) 緩和ケア病棟実績

		平成 25 年度	平成 26 年度
入院患者	実数	224 名	231 名
	延べ数	6807 名	6817 名
平均在院日数		31.1 日	30.0 日
患者実数	男	125 名	138 名
	女	99 名	93 名
平均年齢		74.0 歳	73.3 歳
退院内訳	退院	214 名	227 名
	死亡	162 名	197 名
緩和ケア病棟への入院経路	院内転棟	114 件	118 名
	市内医療機関からの紹介	66 件	76 名
入院患者の居住別	市内	223 名	228 名
	県内	1 名	0 名
	県外	0 名	3 名
ボランティア延べ人数		67 名	80 名

(2) 緩和ケアチーム実績

		平成 25 年度	平成 26 年度
緩和ケアチームへの依頼数	新規	145 件	106 件
	継続	3 件	6 件
	延べ件数	2646 件	1513 件

緩和ケアチームへの依頼内容

- 疼痛・嘔気・呼吸困難などの身体ケアが 65%
- せん妄・抑うつ・不眠などの精神的ケアが 21%

3 目標に対する評価

- ・少ないスタッフで、緩和ケア病棟の安定した運営と、緩和ケアチームによる診療を維持できた。
- ・平成 26 年 9 月にみなとセミナー・緩和ケア講演会を開催でき、緩和ケア啓蒙にも貢献できた。
- ・緩和ケア研修会を平成 26 年 5 月に開催し、病院スタッフおよび周辺医療機関での緩和医療の意識の向上に寄与できた。

4 次年度以降の取り組み

- ・スタッフの増員を図り、緩和ケア病棟および緩和ケアチームの安定した診療体制を整えたい。ゆくゆくは、専門医制度での認定施設になれるよう、資格の獲得を狙いたい。
- ・緩和ケア研修会、緩和ケア講演会を定期的を開催し、院内および地域でのさらなる緩和医療の啓蒙活動を進めたい。
- ・がん診療拠点病院としての緩和ケアセンター整備を目指し、各種マニュアルの整備、地域での診療連携を深めたい。
- ・学会や各種研修会・講演会への参加を通して知識のさらなる習得、新規薬剤の導入・安全な利用、他診療施設との協働を図りたい。

5 執行体制

センター長	小尾 芳郎
医師	大谷 洋一(放射線治療科兼任) 藤井 由貴(平成 26 年 9 月に退職)
非常勤医師	2 名
師長	角藤 厚美
常勤看護師	21 名
非常勤看護師	1 名
クラーク	1 名

【緩和ケアチーム体制】

身体緩和ケア医師	2 名(常勤 1 名、非常勤 1 名)
精神科医師	1 名
歯科口腔外科医師	1 名
専従看護師	1 名
専任看護師	1 名
リエゾン看護師	1 名
薬剤師	1 名
歯科衛生士	1 名

2-7 アレルギー疾患医療

1 事業内容

免疫・アレルギー疾患（気管支喘息、アナフィラキシー、食物・薬物アレルギー、花粉症、リウマチ・膠原病など）は国民の2人に1人が罹患しているにもかかわらず、臓器別では対応できない全身性疾患であることや診療点数の不採算性から、我が国では純粹の「アレルギー科」としては存在が不可能とされる。その結果として、診断や治療が困難なアレルギー疾患（特に成人領域）の患者が受診すべき医療機関は極端に数が少なく、根拠のない誤った民間医療に翻弄されている現状である。当院のアレルギーセンターは、この現状に対応すべく、①アレルギー診療：7診療科（アレルギー科、小児科、皮膚科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科、眼科、膠原病・リウマチ内科）による横断的アレルギー診療、②アレルギーの教育と啓発：医療従事者と市民を対象とする講演会、セミナー、市民フォーラム、患者教室等の定期開催、③臨床研究：IT通信機器による遠隔医療や環境危険因子解析などの先進的医療・研究や新規薬剤開発治験などの事業に取り組んでいる。なお、アレルギー科、小児科、皮膚科の3診療科は、一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設に指定されており（3診療科の認定は全国で4施設のみ）、膠原病・リウマチ内科は一般社団法人日本リウマチ学会の認定教育施設に指定されている。

2 26年度実績

- | | |
|--|---------|
| ・外来アレルギー(延べ)患者数 | 16,143人 |
| ・呼気一酸化窒素測定 | 3305件 |
| ・気道過敏性試験 | 71件 |
| ・プリックテスト | 127件 |
| ・エピペン自己注射処方 | 229件 |
| ・7診療科合同カンファレンス（12回） | |
| ・アレルギー科・小児科・看護師による喘息カンファレンス（6回） | |
| ・アレルギー科・小児科・皮膚科・栄養課・看護師による食物アレルギーカンファレンス（6回） | |
| ・講演会（5回）、セミナー（2回）、市民フォーラム（2回） | |
| 患者教室（11回）、小児喘息・アレルギーキャンプ（1回） | |
| ・開発治験（10件）、自主臨床試験（22件） | |

3 目標に対する評価

7診療科による横断的診療であるため、総合評価は困難であるが、中心的存

在であるアレルギー科の外来通院患者数は約 800 名（医師 2 名）と院内診療科別（医師一人あたりの担当数）では第 1 位である。アレルギー疾患専門診療の評価指数とされるアナフィラキシーに対するエピペン自己注射の処方数は横浜市の医療機関では第 1 位である。（社）日本アレルギー学会では常に指導的立場にあり、教育講演などの依頼が多い。

4 次年度以降の取り組み

さらなる「質」の向上をめざし、（研修医を含めて）優れた人材の確保に努めたい。

5 執行体制

・アレルギーセンター長（総合アレルギー内科部長）	1 名（専任）
・喘息アレルギー内科部長	1 名（専任）
・アレルギー小児科医長	1 名（併任）
・アレルギー内科非常勤医師	2 名（週 1 回）
・アレルギー科以外の医師	6 名（併任）
・アレルギーセンター看護師	2 名（交代制）
・アレルギーセンター検査技師	1 名（交代制）
・アレルギーセンター研究補助員	2 名（専任）
・アレルギーセンター事務	1 名（派遣）
・アレルギーセンター受付事務	1 名（派遣）

6 データ（平成 24～26 年比較）

	24 年度	25 年度	26 年度
1) 外来アレルギー患者(延べ)数	16,230 人	16,317 人	16,143 人
2) 講演会	7 回	8 回	5 回
3) セミナー	2 回	3 回	2 回
4) 市民フォーラム	2 回	3 回	2 回
5) 患者教室	10 回	11 回	11 回
6) 小児喘息キャンプ	1 回	1 回	1 回
7) 誌上発表	20 件	15 件	18 件
8) 学会発表	30 件	21 件	25 件
9) 新薬開発治験	6 件	6 件	10 件
10) 自主臨床試験	21 件	20 件	22 件

2-8 障害児者合併症医療

1 事業概要

障害児者合併症医療とは、当院において行われる障害児者への医療提供が円滑に行われることを目的とし、障害児者医療検討委員会を開催し、その内容を検討する。

2 26年度実績

- ・障害児者医療検討委員会 年3回開催
- ・地域活動ホームへの院外研修実施
- ・横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステム 9名受入

3 目標に対する評価

継続医療患者への適切な医療を提供する事ができた。また、院外研修を実施したことで、地域で暮らす障害児者への理解を深める事ができた。横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの協力病院として貢献し、9名の受入を行った。

4 次年度以降の取り組み

- ・継続医療患者への医療提供
- ・職員への研修啓発のため、院内研修を企画、実行
- ・横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムへの協力

5 執行体制

責任医師 小児科部長 菊池信行

連携部署 各診療科担当医 6名、病棟看護師 1名、理学療法士 1名、ソーシャルワーカー 2名、事務 2名

6 データ

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
入院患者述べ人数	234 名	123 名	260 名
入院患者実人数	11 名	9 名	12 名
1 患者当りの入院回数	1～10 回	1～5 回	1～5 回
年齢	6～43 歳	0～36 歳	2～40 歳

2-9 災害時医療

1 事業概要

当院は災害医療拠点病院、神奈川DMA T指定病院としての機能を十分に発揮し、赤十字の使命である災害救護活動を積極的に実践するため、平時から災害救護訓練を積極的に実施し準備している。

2 26年度実績

災害救護に関する訓練・研修会等への実施・参加状況

実施日	会議訓練等名称	主催	参加者
6月11日	赤十字救護班主事研修会 BASIC (救護班主事コース)	日赤神奈川県支部	心理判定員1名、薬剤師2名、主事10名
6月27日	レベルII災害救護コース研修会	みなと赤十字病院	看護師54名
7月11日	救急車・トラック等運転技術研修会	日赤神奈川県支部	臨床検査技師2名、総務・社会係長、主事5名
7月11日	神奈川県衛星電話・MCA無線通信訓練	神奈川県	総務課12名
7月11日	災害時通信訓練	みなと赤十字病院	総務課12名
7月31日	災害時医療救護活動研修会	神奈川県	主事1名
8月11日	神奈川県衛星電話・MCA無線通信訓練	神奈川県	調度課、健診課6名
8月11日	災害時通信訓練	みなと赤十字病院	調度課、健診課6名
8月14,15日	ドラッシュテント設営訓練	みなと赤十字病院	事務系職員20名
8月15日	帰国者・接触者外来訓練	みなと赤十字病院	職員40名
8月28日	レベルII災害救護コース研修会	みなと赤十字病院	看護師53名
8月30日	九都県市合同防災訓練(横浜会場)	横浜市	救護班1個班
8月30日	九都県市合同防災訓練(川崎会場)	川崎市	救護班1個班
8月30日	広域医療搬送訓練	厚生労働省	DMAT隊員3名
8月31日	秦野赤十字病院総合防災訓練	秦野赤十字病院	総務・社会係長
9月11日	神奈川県衛星電話・MCA無線通信訓練	神奈川県	人事課、医療情報課6名
9月11日	災害時通信訓練	みなと赤十字病院	人事課、医療情報課6名
9月13-15日	全国赤十字救護班研修	日本赤十字社	医師1名、看護師3名、薬剤師1名、MSW1名
9月25-28日	福島災害医療セミナー	福島県立医大	救急部副部長
10月7日	レベルII災害救護コース研修会	みなと赤十字病院	看護師54名
10月14日	神奈川県衛星電話・MCA無線通信訓練	神奈川県	総務課3名
10月14日	救護班要員教育訓練I	日赤神奈川県支部	救護班1班

10月15日	合同旅客船事故対応訓練	横須賀海上保安本部	救護班1班
10月16日	航空機事故対処総合訓練	東京国際空港	救護班1班
10月21-22日	救護班要員教育訓練Ⅱ	日赤神奈川県支部	救護班1班
11月5日	日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会	日本赤十字社	医師1名、看護師長1名、総務・社会係長
11月11日	神奈川県衛星電話・MCA無線通信訓練	神奈川県	施設課、医療安全推進課4名
11月11日	災害時通信訓練	みなと赤十字病院	施設課、医療安全推進課4名
11月12,20日	救護看護師養成研修会	日赤神奈川県支部	看護師11名
11月13日	神奈川県災害時医療情報伝達訓練	神奈川県	事務系職員15名
11月13,14 17,19日	EMIS研修	みなと赤十字病院	事務系職員35名
11月16-17日	日本赤十字社第3ブロック支部合同救護訓練	日本赤十字社	救護班1班
11月28-29日	DMAT 関東ブロック訓練	厚生労働省	DMAT 隊員1隊
12月11日	神奈川県衛星電話・MCA無線通信訓練	神奈川県	総務課5名
12月11日	災害時通信訓練	みなと赤十字病院	総務課5名
12月21日	DMORT研修	日赤神奈川県支部	医療社会事業係長
1月10-12日	全国赤十字救護班研修	日本赤十字社	主事1名
1月13日	神奈川県衛星電話・MCA無線通信訓練	神奈川県	調度課、健診課5名
1月13日	災害時通信訓練	みなと赤十字病院	調度課、健診課5名
1月16日	横浜市中区災害時通信訓練	横浜市中区	総務課5名
2月5日	横浜市中区災害時通信訓練	横浜市中区	総務課6名
2月6日	救護員対象こころのケア研修会	日赤神奈川県支部	看護師長1名、看護係長1名、看護師7名、MSW1名、職員係長、主事1名
2月12日	神奈川県衛星電話・MCA無線通信訓練	神奈川県	総務課4名
2月12日	災害時通信訓練	みなと赤十字病院	総務課4名
2月24,25日	ドラッシュテント設営訓練	みなと赤十字病院	事務系職員20名
2月25日	帰国者・接触者外来訓練	みなと赤十字病院	職員40名
3月5日	横浜市中区災害時通信訓練	横浜市中区	総務課4名
3月11日	神奈川県衛星電話・MCA無線通信訓練	神奈川県	入院業務課、外来業務課13名
3月11日	災害時通信訓練	みなと赤十字病院	入院業務課、外来業務

			課 13 名
3 月 15 日	爆発物災害対策担当者養成講習会	NBCR対策推進機構	救急部副部長、医師 1 名

3 目標に対する評価

・【目標①】 訓練、研修への積極的な参加

平成 26 年度は新たな取り組みとして、災害時に情報伝達を確実にを行うため、毎月 1 回、月ごとに事務部内で課を変えて、無線や衛星電話の通信の訓練を実施した。8 月 30 日の九都県市合同防災訓練では、横浜市と川崎市の 2 会場に、救護班を同時派遣して訓練に取り組んだ。海上保安庁との訓練では、海上保安庁のヘリコプターが当院ヘリポートから救護班を沖合の巡視船まで搬送し、船舶事故の救護活動訓練を実施した。

・【目標②】 救護資機材の整備

突発的な救護班、DMAT の派遣に対応できるよう、隊員 1 名 1 日分を予め 1 セットにした初動救護班用非常食を整備した。耐候性に優れたドラッシュェントを導入した。エアコンも付属しているので、年間を通して屋外での救護活動に活用できる。

・【目標③】 DMAT 隊員の養成

当院では以前から DMAT の業務調整員 1 名体制が続き、隊員養成研修に毎回申し込んでいたが、受講できない状況が続いていた。しかし平成 26 年度に業務調整員 1 名が隊員養成研修を受講することができ、業務調整員 2 名となった。ただし、医師、看護師は相変わらず受講できない状況なので、来年度以降も各職種の応募を続けたい。

4 次年度以降の取組み

平成 26 年度から、神奈川県、横浜市との MCA 無線訓練が開始されたが、通信以外の部分でも、平時から行政、近隣医療機関が連携するような取り組みを進めていきたい。また、防災の技術、考え方等は日々進化、変更されているので、当院でも院内の災害対策、救護班、DMAT のブラッシュアップをしたい。

5 26 年度執行体制

(1) 災害対策検討委員会

	職名	氏名
委員長	救急部部長	伊藤 敏孝
副委員長	事務部長	小山田 茂夫
副委員長	看護部長	鈴木 恵子
委員	6 D 病棟看護師長	宮内 まゆみ
委員	手術室看護師長	永井 妙子
委員	総務課長	蔭山 智彦
事務局長	事務副部長兼人事課長事務取扱	三橋 文武
事務局	外来業務課外来係長兼社会係長	高野 雄太

事務局	外来業務課主事	鈴木 直子
-----	---------	-------

※委員会の作業部会としてワーキンググループを設置

(2) 災害救護に関する業務の主管課（平成 26 年 6 月 1 日に組織変更）

- ・ 外来業務課社会係（平成 26 年 5 月 31 日まで）
 - 外来業務課長 津々楽 泰江
 - 外来係長兼社会係長 高野 雄太
 - 外来業務課 主事 鈴木 直子
- ・ 総務課総務・社会係（平成 26 年 6 月 1 日から）
 - 総務課長 蔭山 智彦
 - 総務・社会係長 高野 雄太
 - 総務課主事 鈴木 直子

(3) 救護指導者等

- ・ 救護指導者
 - 救急部部長 伊藤 敏孝
 - 看護師長 永井 妙子
- ・ 救護担当者
 - 看護師 岸野 真由美
 - 総務・社会係長 高野 雄太
 - 総務課主事 鈴木 直子

6 データ

常備救護班 7 班、神奈川DMAT 2 チーム、日本DMAT 隊員 10 名（医師 4 名、看護師 4 名、業務調整員 2 名）、神奈川DMAT-L 1 チーム、神奈川DMAT-L 隊員 5 名（医師 1 名、看護師 2 名、業務調整員 2 名）、救急車 2 台、ドクターカー 1 台、救護班用医療セット 2 式、DMAT 標準医療資機材 1 式、日赤業務無線機等 14 台、衛星電話 1 台（庁舎設置）、衛星携帯電話 2 台（可搬型 1 台、救急車積載 1 台）、簡易ベッド 540 台、NBC 災害除染セット 1 式、ドラッシュテント 1 式、エアーテント 1 式、イージーアップテント 2 式、発動発電機 7 台

2-10 市民の健康危機への対応

1 事業概要

「新型インフルエンザ等感染症」による市民への健康危機へ対応するため、横浜市新型インフルエンザ対策医療関係者協議会の方針に則り、診療体制等を整備する。

2 26年度実績

- ・横浜市新型インフルエンザ対策医療関係者協議会、同専門部会に出席。
- ・新型インフルエンザ等発生時における帰国者・接触者外来の開設に関し、他病院の訓練を視察し情報共有。また、当院独自の訓練も行った。
- ・資器材整備として電動ファン付呼吸用保護具、非接触型体温計、電子聴診器、パルスオキシメーター、ネーザルハイフローを補助金にて購入。医療従事者予防内服用抗インフルエンザ薬備蓄分約 600 人分を循環備蓄。

3 目標に対する評価

協議会、専門部会に出席し関係者との意見交換を行えた。予定通り資器材の購入及び抗インフルエンザ薬の循環備蓄ができた。

4 次年度以降の取組み

横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者協議会等と連携して、資器材・抗インフルエンザ薬の整備・備蓄を進める。

5 執行体制

横浜市新型インフルエンザ対策医療関係者協議会メンバー 四宮病院長。
同専門部会メンバー 膠原病リウマチ内科部長 萩山裕之

3 指定管理者独自の取組み

3-1 がんセンター

1 事業概要

がんなどの悪性腫瘍は我が国の死亡原因の第一位であり、全死亡の3分の1を占めている。このような状況において、「がん対策基本法」が施行され、がん診療体制の一層の整備が進められつつある。

当院では、がん診療の体制を更に充実させ、患者さん一人ひとりに最先端の情報と高度の医療を提供できるように平成23年11月に「がんセンター」を開設した。また、平成26年度は、厚生労働省の新たな指定要件に基づく地域がん診療連携拠点病院としての機能充足を図り、4年間の指定更新を受けることが出来た。

今後も、縦割りの診療ではなく、患者さん中心の全診療科、看護、薬剤、コメディカルなど、それぞれの専門職種による総合的なチーム医療を「がんセンター」において実践する。更に、地域の医師会、訪問看護ステーションなどと協力し、病院から近くのクリニックそして家庭まで、切れ目のない充実したがん診療を提供できる体制を構築していく。

2 平成26年度実績

- ・2013年院内がん登録1,452件
- ・外来化学療法4,853件
- ・緩和ケア病棟在院患者延べ数6,570名
- ・がん相談支援センター相談件数1,904件
- ・がんサポートプログラム「みなとサロン」の運営（延11回87名参加）
- ・がん患者食「みなと食」の提供（229名に5,145食）
- ・がんセンター講演会（延6回、459名参加）
- ・緩和ケア研修会（32名参加）

3 平成26年度取組み

上記2の推進の他、以下の事業に取組み、成果を挙げることができた。

① 院内における取組

- ・地域がん診療連携拠点病院の指定更新
（新指針充足に向けたスタッフ・機器・がん診療機能の充実）
- ・ロボット支援鏡視下手術の運用推進（57件）
- ・がんリハビリテーションの運用開始（2,829単位）
- ・がん看護・心理士外来の運用開始（44件）
- ・苦痛のスクリーニングの運用開始（391件）

- ・がん相談支援センターによるがん患者への就労支援の推進
- ・多職種によるがんセンターボードの開催
- ・口腔ケアサポートチームによる院内における医科、歯科連携の推進
- ・国立がん研究センター等が主催する各種研修への参加による人材育成

② 連携施設との取り組み

- ・横浜（南）がん病病連携会を通じた病病連携推進による地域がん診療機能向上
(横浜市南部、西部医療圏等の 11 施設で情報交換・共有し、講演会 4 回開催)
- ・5 大がんパス等による地域医療連携強化
(新たに前立腺がん地域連携パスの運用開始)
- ・他施設との PET/CT の共同利用推進、がん診療機能拡充
- ・口腔ケアに関する地域連携強化のため「患者フロー」を歯科医師会と作成

4 次年度以降の取組み

① 院内における取組

- ・緩和ケア医療の充実と緩和ケアセンターの整備
- ・IMRT（強度変調放射線治療機器）の設置検討
- ・多施設共同臨床試験（研究）への参加
- ・がん相談支援センターによるがん患者への就労支援の推進
- ・がん患者食「みなと食」の提供推進
- ・がんリハビリテーションの運用推進
- ・多職種によるがんセンターボードの推進
- ・国立がん研究センター等が主催する各種研修等への参加による人材育成

② 連携施設との取り組み

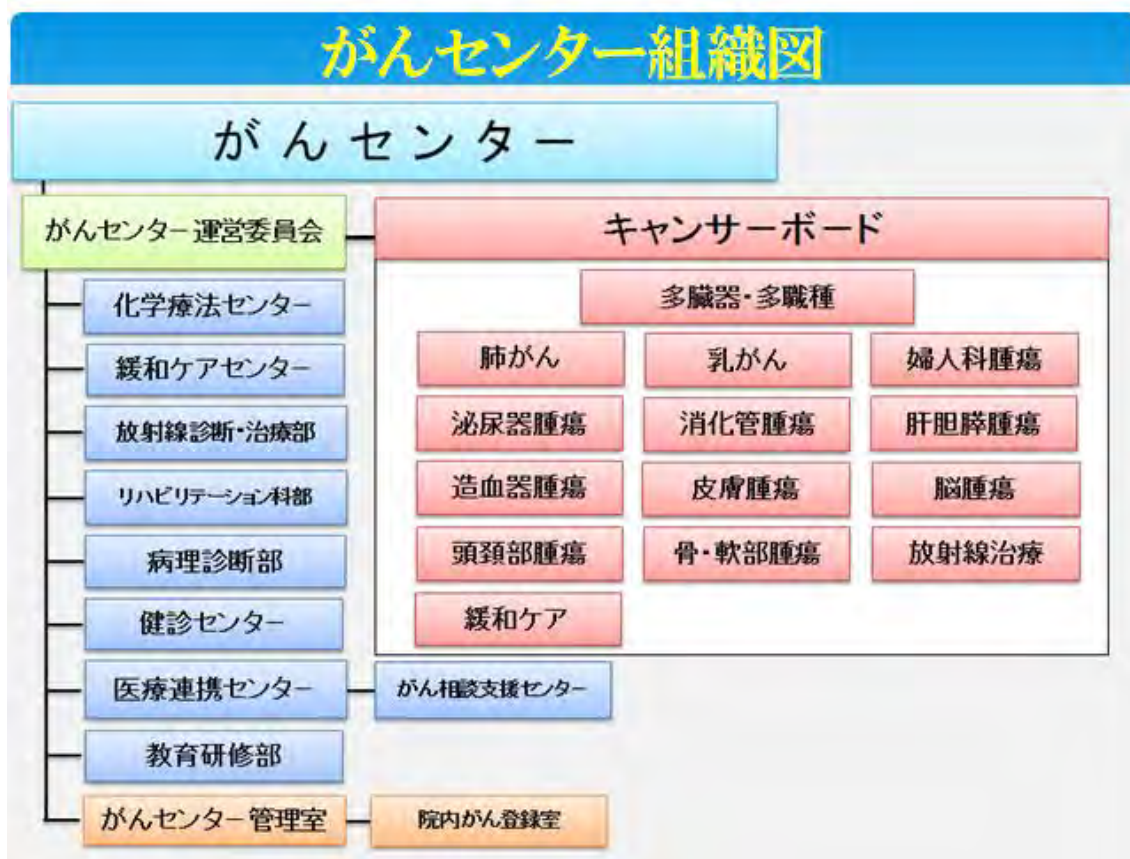
- ・横浜（南）がん病病連携会の拡充と地域がん診療機能の更なる向上
(部署ごとの顔の見える連携の推進)
- ・5 大がんパス等による地域医療連携強化
- ・多施設間の情報交換・共有による連携促進と設備の共同利用推進
- ・口腔ケアに関する地域連携の強化

5 執行体制

(がんセンター運営委員会)

センター長 (1)、副センター長 (1)、センター長補佐 (2)、医師 (17)、
看護 (2)、中央部門 (6)、事務 (8) 合計 37 人

(組織図)



4 地域医療の質の向上に 向けた取組み

4-1 医療における安全管理

1 事業概要

医療安全推進室は、医療安全対策と患者の安全確保を推進するために設置され、専従の安全管理者・ICNを配置し、医療安全ならびに感染予防・感染対策に関する以下の業務を担っている。

- ・医療安全・感染対策に関するマニュアルの更新管理及び職員への周知。
- ・医療安全・感染対策に関する研修の企画・運営と啓発活動。
- ・感染管理に関する各種届出および感染対策に関する業務。
- ・医療安全・感染対策に関する院内外の情報や関連会議からの情報を周知。
- ・医療安全・感染対策に関する相談業務・ラウンド。
- ・インシデントレポートの収集・分析・対策立案。
- ・委員会等の運営及び事務局

2 26年度実績

- ・感染対策マニュアルを平成27年3月に改定した。
- ・安全管理マニュアルを平成26年11月に改訂した。
- ・マニュアルの改訂後、職員、委託業者への周知を行った。
- ・感染に関する研修会は、5月、7月、9月、10月、11月に実施した。
- ・安全に関する研修会は、6月、12月、1月、2月に実施した。
- ・随時、情報（外部からの文書含む）の周知や注意喚起を行った。
- ・インシデントレポートの収集数は3592件であった。事例分析や対策立案を各部署のリスクマネージャーとともに行った。
- ・安全・感染対策に関する依頼・相談に対応した。
- ・ICTによる定期的な院内ラウンドを実施した。
- ・感染事例への具体的な対応・指示、関連機関との連携を図った。
- ・感染防止対策加算1に則り他施設とのカンファレンスを4回開催した。
- ・感染対策地域連携加算に則り他施設と相互ラウンドを実施した。
- ・関連委員会等開催・議事録の管理。

3 目標に対する評価

(1) 医療安全管理

ア 医療安全の知識習得と感性の向上

全職員対象の研修会は、参加型研修と職種別研修を実施した。参加できなかった職員へのフォローアップ研修会を増やし実施した。結果、参加率は約86%となり、昨年度よりも上昇した。講義形式ではなく参加型研修や同内容を数多く開催することやDVDの貸し出しで参加しやすい環境につながるため今後も継続する。

イ 安全な医療の提供

- ・CVCによるインシデント・アクシデント減少のため院内ライセンス制とし、医師への教育体制を整えた。
- ・与薬手順の定期的な調査が注意喚起となりその後の発生件数が低下し

た。また、看護部リスクマネージャーとの面談を通し、自部署の傾向と対策を検討した。

- ・転倒・転落の患者タイプ判断フローを見直し、改訂した。定期的な調査により適切な判断ができるようになっている。

ウ マニュアル活用

- ・定期的に見直し、リスクマネージャー委員会で周知した。

(2) 感染対策

ア 標準予防策・感染経路別予防策の徹底

- ・ICT ラウンドを毎週実施し、問題点を現場にフィードバックした。
- ・感染講演会実施し、参加のための複数回開催や時間帯を変えて開催など行ったところ出席率は約 85.5%と上昇した。

イ サーベイランスによるアウトブレイクの特定

- ・BSI サーベイランス、UTI サーベイランス、SSI サーベイランス継続。
- JANIS サーベイランス：検査部門・全入院患者部門継続。MRSA 検出患者サーベイランス：継続。

サーベイランスではアウトブレイクは特定されなかった。

ウ 抗生物質の適正使用：特定抗生物質使用届け後のフォロー

年度の特定抗菌薬の届出率は72%であった。また、1週間以上の長期使用患者に対しては主治医と部長に適正使用を促した。起炎菌や感染症名から、不適切な使用と考えられる場合にはICDから主治医に適正使用を促した。

エ 帰国者・接触者外来シミュレーション実施

4 次年度以降の取組み

(1) 医療安全管理

年度テーマ：チーム医療の推進

ア 医療安全の知識習得

- ・コミュニケーション力の向上に取り組む。

イ 安全な医療の提供

- ・チューブ抜去対策マニュアル修正
- ・身体抑制に関するマニュアル修正
- ・転倒・転落/薬剤エラーに関する調査

ウ マニュアル活用

(2) 感染対策

ア 標準予防策・感染経路別予防策の徹底

イ サーベイランスによるアウトブレイクの特定：BSI、UTI、SSI。JANIS。MRSA。

ウ 抗菌薬の適正使用：特定抗菌薬使用届け後のフォロー

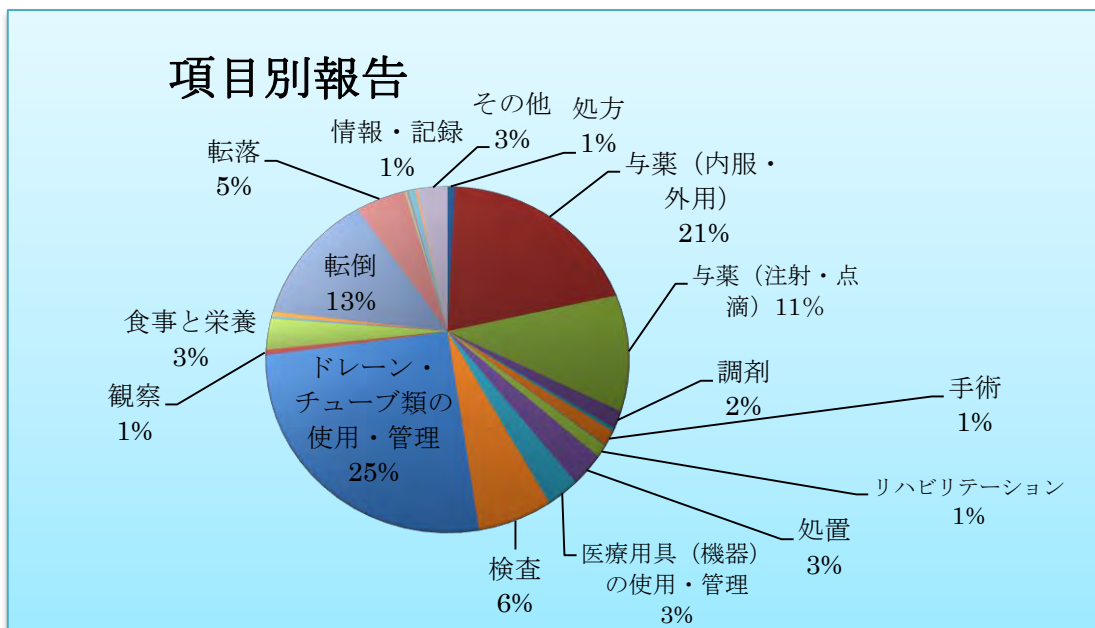
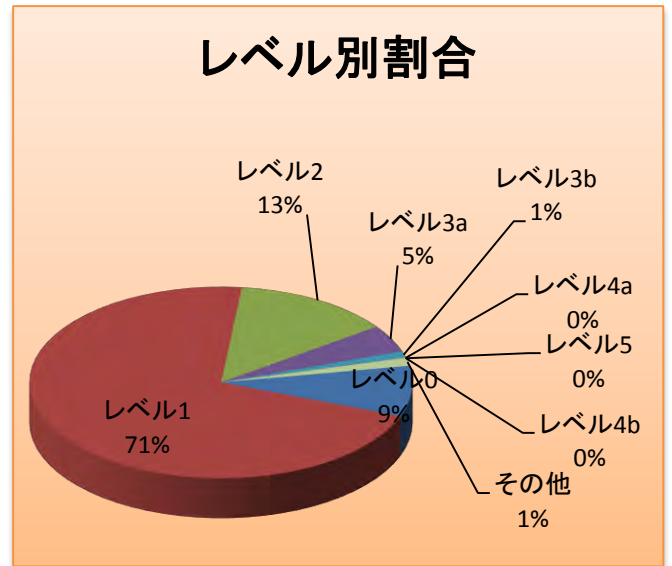
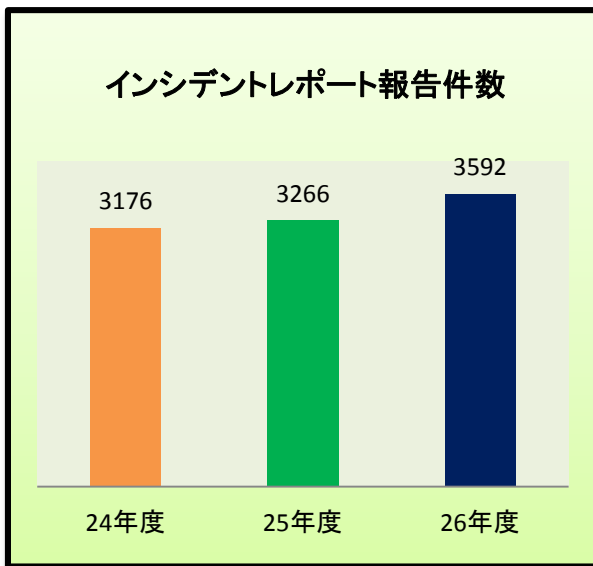
エ 針刺し防止：安全機能付き器具の使用推進

- オ リンクナースの活動支援
- カ 地域連携への取り組み
- キ 流行性ウイルス疾患抗体価検査の推奨
- ク 帰国者・接触者外来シミュレーション実施

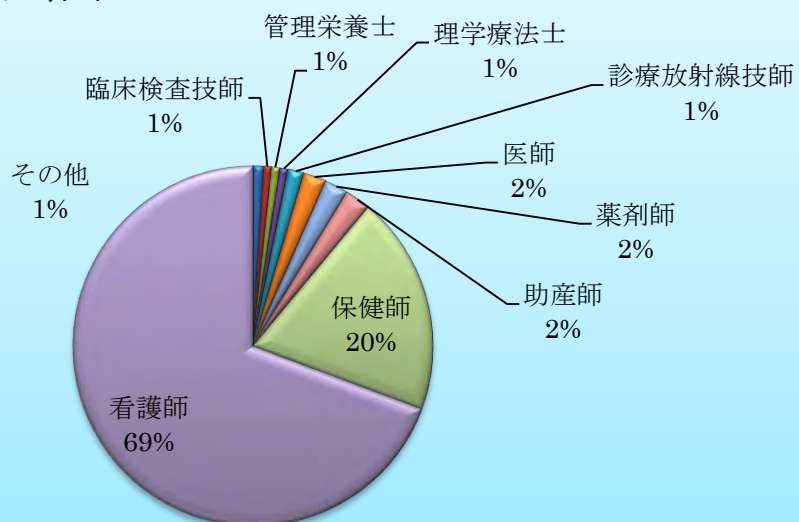
5 執行体制

- ・安全管理委員会、リスクマネージャー委員会、身体抑制検討チーム、チューブ抜去対策チーム、医療安全推進課長
- ・感染対策委員会、ICT、医療安全推進課

6 データ



職種別報告



4-2 医療倫理に基づく医療の提供

1 事業概要

当院において行われる医療行為及び医学研究が倫理的、社会的観点から適切に行われることを目的とする。医療行為及び医学研究をめぐる生命倫理上の事項、および具体的な個々の医学研究の実施に関して申請のあった事項について審議する。

2 26年度実績

医療倫理委員会 開催日	議 題	審議結果
平成 26 年 5 月 27 日	●社会的因子（教育歴）が認知機能検査に与える影響 ●認知機能検査・脳画像による認知症の予後予想	承認
	ステロイド性骨粗鬆症に対するテリパラチド週 1 回製剤の有用性の検討	承認
	インスリン製剤とシタグリプチン併用による有効性の検討 -前向き観察研究-	承認
	口腔ケアの実態調査—電子カルテデータを応用した後ろ向き実態調査	承認
	イマチニブで分子遺伝学的完全寛解を 2 年間以上維持した慢性期の慢性骨髄性白血病症例に対する薬剤中止試験 (JALSG-STIM213 Study)	承認
	がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査	承認
	再発性低悪性度 B 細胞リンパ腫に対する短期化学療法後のイットリウム (90Y) イブリツモマブ チウキセタン投与の有効性に関する第 II 相試験	承認
	心房細動アブレーションを施行予定の非弁膜症性心房細動患者を対象に、心房細動アブレーション周術期におけるダビガトランの安全性及び有効性をワルファリンを対照薬として比較する前向き、多施設共同、並行群間試験	承認
	在日中国人母親の産後うつ状態の関連要因	承認
	自己免疫性溶血性貧血患者の血中 ST2 蛋白質と赤血球結合 IgG サブクタスの定量	承認
	心房細動を有する WPW 症候群患者さんのアブレーション後の経過調査	承認
平成 26 年 7 月 7 日	気管支喘息患児におけるコントロール評価 (C-ACT、JPAL、呼吸一酸化窒素、呼吸機能検査) の相互間の妥当性	承認
	気管支喘息での呼吸機能検査と強制オッシレーション法による	承認

	る呼吸抵抗・リスクタンス検査での可逆性試験	
	各種遊離皮弁の新たな虚血スクリーニング手法の開発	承認
	脂肪幹細胞付加脂肪移植における脂肪の性状と生着に関する研究	承認
	軽度心機能低下を合併した持続性心房細動に対する低用量ベプリジル療法の安全性と有効性の検討	承認
平成 26 年 9 月 5 日	自己血清点耳液による鼓膜穿孔閉鎖術の治療成績の検討	承認
	健常成人におけるモストグラフを用いた呼吸抵抗の予測標準値に関する研究	承認
	心臓血管手術関連の急性腎傷害における心房性ナトリウム利尿ペプチドの腎保護効果と医療費評価ー多施設ランダム化比較試験ー →研究期間及び分担研究者の変更	承認
	乳幼児細菌性副鼻腔炎 (acute bacterial sinusitis:ABS) 治療におけるテビペネム・ピボキシル (TBPM-PI : オラペネム®) の有用性に関する検討	承認
	小児細菌性市中肺炎の入院加療における経口抗菌薬 : テビペネム・ピボキシル (TBPM-PI : オラペネム®) の有用性に関する検討	承認
	中心静脈カテーテル挿入時の適切なダイレーター挿入長の検討	承認
	StageⅢ大腸癌治癒切除例に対する術後 SOX 療法の投与量および治療スケジュール最適化のための探索的ランダム化比較第Ⅱ相試験	承認
	閉塞性大腸癌に対する FOLFOX を用いた術前化学療法の臨床第Ⅱ相試験	承認
日本形成外科学会疾患登録システム →実施計画書の一部変更、期間の変更	承認	
平成 26 年 11 月 7 日	喘息の診断における好酸球由来タンパク質測定の臨床的有用性評価	承認
	アナフィラキシーの診断指標としての呼気一酸化窒素の測定に関する研究	承認
	医師・薬剤師間の吸入指導連携ツールが喘息コントロール、コミュニケーションに及ぼす効果の検討	承認
	急速特異的経口耐性誘導の有効性の検討	承認
	RSV 感染症に対する臨床免疫評価と試作ワクチンの分析評価を目的とした小児 RSV 感染症患者対象の臨床研究	承認
	劇症 1 型糖尿病における感染因子の検討	承認

	プリオン病の自然歴に関する全国調査研究	承認
	前立腺癌に対する2次ホルモン療法としての GnRH アゴニストからデガレリクスへの切替療法の有効性についての検討	承認
	局所進行切除不能膀胱癌に対する FOLFIRINOX 療法後の原発巣切除の有効性及び安全性を検討する第Ⅱ相臨床試験	承認
	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）の治療実態調査	承認
	脳ドックにおける認知機能検査実施率向上のための検証研究	承認
平成 27 年 1 月 9 日	非尿路上皮・尿路悪性腫瘍に関する臨床病理学的検討	承認
	陰茎癌患者の予後追跡調査	承認
	間質性肺炎合併非小細胞肺癌に対するカルボプラチン/ナブパクリタキセル併用療法の第Ⅱ相試験	承認
	コントロール良好な気管支喘息患児における SACRA 質問票による鼻炎重症度と呼気一酸化窒素濃度、呼吸機能の検討	承認
	手術不能進行・再発胃癌既治療例に対する 2nd line 低用量 nab-paclitaxel 療法の安全性及び有効性の検討 -第二相臨床試験-	承認
	進行度Ⅲ胃癌に対する術前化学療法（bi-weekly docetaxel/cisplatin/TS1 療法）の第Ⅰ/Ⅱ相試験	承認
	術前化学療法で cCR が得られた症例に対する針生検-原発巣切除省略に関する探索的研究	承認
	周術期口腔機能管理が入院患者の誤嚥性肺炎の発症および予後に与える効果についての多施設共同研究	承認
	ステロイド性骨粗鬆症に対するテリパラチド週1回製剤の有用性の検討→実施計画書の一部変更、同意説明文書の変更、その他の変更	承認
	健常成人におけるモストグラフを用いた呼吸抵抗の予測標準値に関する研究 →実施計画書の一部変更	承認
	小児細菌性市中肺炎の入院加療における経口抗菌薬：テビペネム・ピボキシル（TBPM-PI：オラペネム®）の有用性に関する検討 →分担医師の変更	承認
	乳幼児細菌性副鼻腔炎（acute bacterial sinusitis:ABS）治療におけるテビペネム・ピボキシル（TBPM-PI：オラペネム®）の有用性に関する検討 →分担医師の変更	承認
	急速特異的経口耐性誘導の有効性の検討 →分担医師の変更	承認

	RSV 感染症に対する臨床免疫評価と試作ワクチンの分析評価を 目的とした小児 RSV 感染症患者対象の臨床研究 →分担医師の変更	承認
平成 27 年 3 月 12 日	人工呼吸療法に関する疫学研究	承認
	当院 ER を受診した成人細菌性髄膜炎症例における来院から検 査、治療開始時間と転帰の検討	承認
	早期胃癌精査のための酢酸インジゴカルミン使用	承認
	クリスタルバイオレット染色による早期大腸癌精査	承認
	可視化した聴診呼吸音を用いた吸入指導の試み	承認
	再発および難治の成人急性リンパ芽球性白血病に対するクロ ファラビン、エトポシド、シクロホスファミド併用化学療法 (CLEC 療法) の第 I/II 相試験 (JALSG RR-ALL214)	承認

3 委員

	委員氏名	役職・性別・任命年月日
1	高橋 誠司	外部委員 (元神奈川県立保健福祉大学教授)・男・平成 24 年 4 月 1 日任命
2	田中 治	外部委員 (弁護士)・男・平成 24 年 4 月 1 日任命
3	中村 陽一	委員長 (アレルギーセンター長)・男・平成 26 年 4 月 1 日任命
4	小森 博達	委員 (副院長)・男・平成 26 年 4 月 1 日任命
5	山本 晃	委員 (血液内科部長)・男・平成 18 年 4 月 1 日任命
6	伊藤 理	委員 (形成外科部長)・男・平成 17 年 4 月 1 日任命
7	田淵 典之	委員 (心臓血管外科部長)・男・平成 25 年 4 月 1 日任命
8	杉田 光隆	委員 (外科部長)・男・平成 26 年 4 月 1 日任命
9	太田 一樹	委員 (糖尿病内分泌内科部長)・男・平成 26 年 4 月 1 日任命
10	福家 修子	委員 (看護師長)・女・平成 22 年 4 月 1 日任命
11	猪股 克彦	委員 (薬剤部長)・男・平成 26 年 4 月 1 日任命
12	蔭山 智彦	委員 (総務課長)・男・平成 26 年 5 月 1 日任命

4-3 地域医療機関との連携・支援（医療連携係）

1 事業概要

地域医療連携課として以下の事業を行う。

- ・地域医療支援委員会
- ・大腿骨頸部骨折地域医療連携パス合同委員会
- ・脳卒中地域医療連携パス合同委員会
- ・みなとセミナー
- ・4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会
- ・地域医療連携担当者交流会
- ・みなとからの風発行
- ・HPの開設
- ・紹介患者外来予約
- ・高度医療機器共同利用 CT（単純・造影）・MRI、PET/CT、RI、マンモグラフィ、リニアック、骨密度検査、上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡）

2 26年度実績

- ・地域医療支援委員会…4回開催
- ・大腿骨頸部骨折地域医療連携パス合同委員会…3回開催
- ・脳卒中地域医療連携パス合同委員会…3回開催
- ・みなとセミナー…20回開催
- ・4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会…1回開催
- ・地域医療連携交流会…6回開催
- ・日赤東部ブロック医療連携研究会…1回開催
- ・みなとからの風…3回発行
- ・HPの開設…随時
- ・紹介患者外来予約…12,583件
- ・高度医療機器共同利用実績…1,809件

3 目標に対する評価

レベルの高い急性期医療を提供するため、地域医療機関とそれぞれ医療機能の分担、連携協力体制を強化し、紹介率・逆紹介率の向上に努めた。

地域医療支援病院として、近隣診療所の支援および地域医療の質向上のためにも、近隣医師会、登録医等関係医療機関との合同研究会、地域医師を対象としたセミナーを開催し、顔の見える医療連携を推進した。

4 次年度以降の取組み

平成27年度は、救命救急センター、がんセンター、周産期母子医療セン

ターの他、新たに新設される低侵襲センター、精神神経センターを掲げる病院として、地域医療機関との役割分担、医療連携を推進する。

また地域医療支援病院として引き続き、登録医をはじめ地域医療機関との医療連携を強化し、紹介率・逆紹介率を維持し、地域医療機関を支援する地域連携を構築する。

5 執行体制

医療連携センター長 持松 泰彦

医療連携副センター長 乾 尚美

医療連携課長兼がんセンター管理室長 課長 池田 充

同 医療連携係長 北村 聖奈

同 がんセンター管理係長 鈴木 拓

同 主事 篠原 美里

同 主事 中川 翔太

同 主事 幡野 里佳

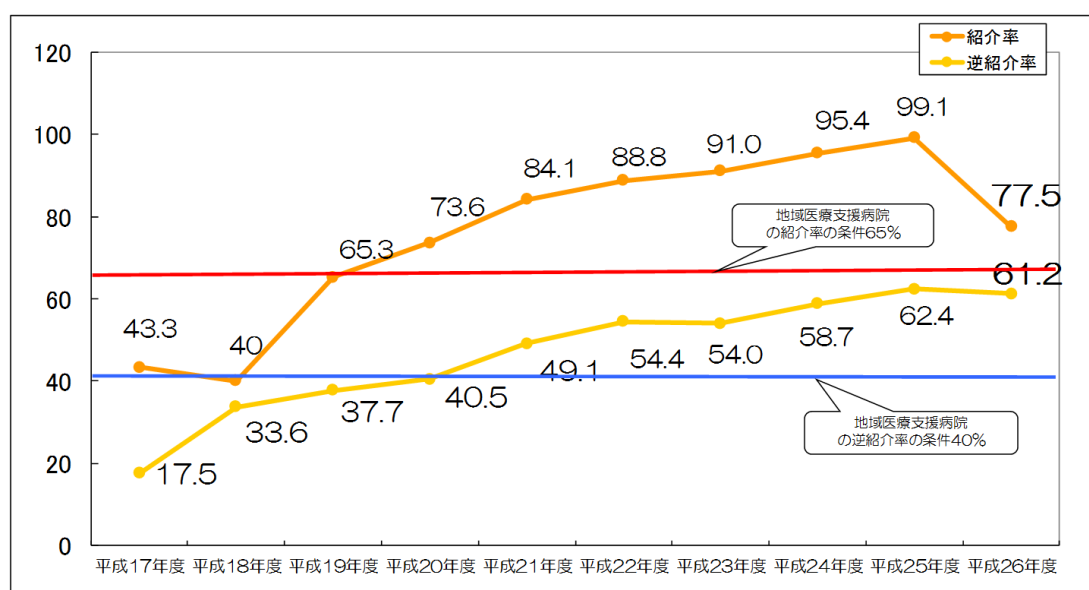
同 パート職員 谷元 博樹

同 委託職員 添谷 由理子

同 委託職員 佐々木 純子

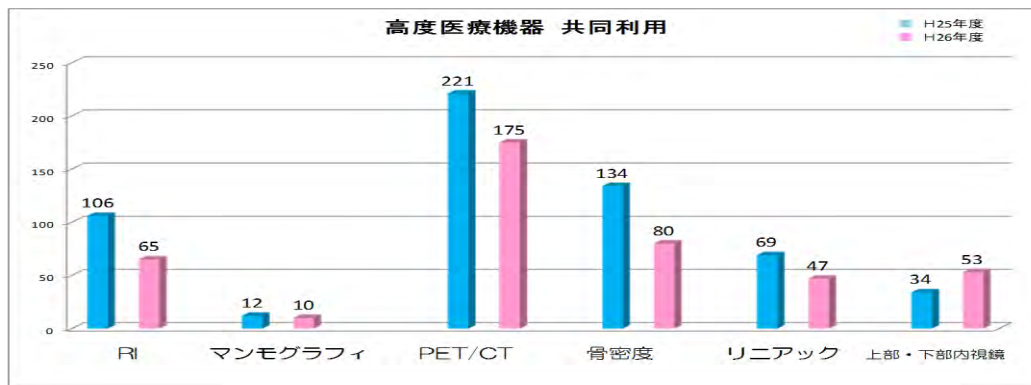
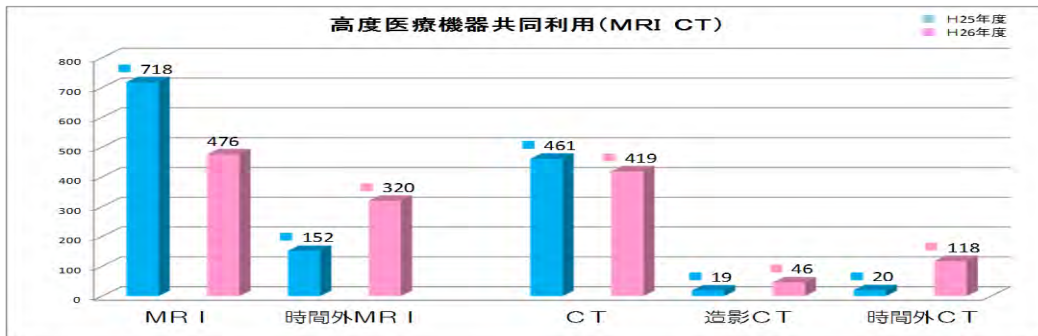
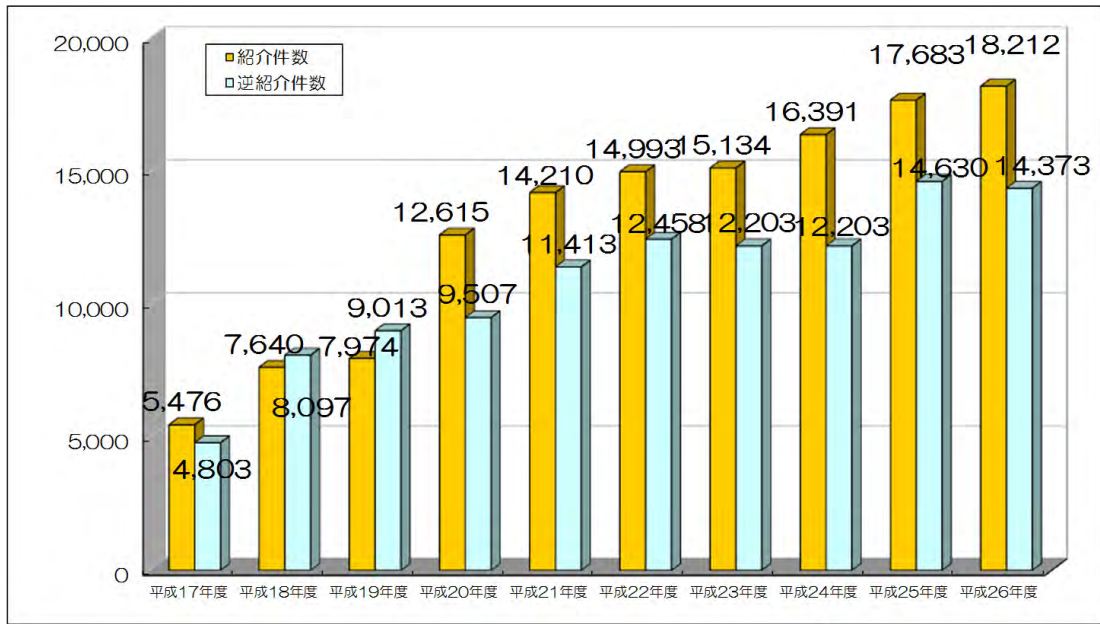
6 データ

紹介率・逆紹介率推移
(年度推移)

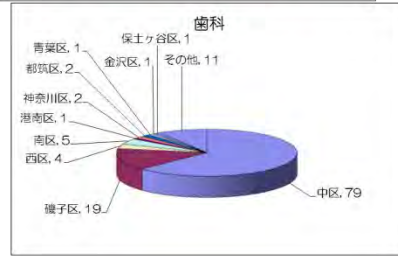
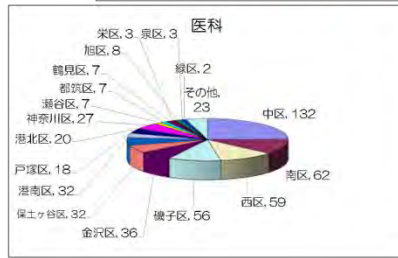
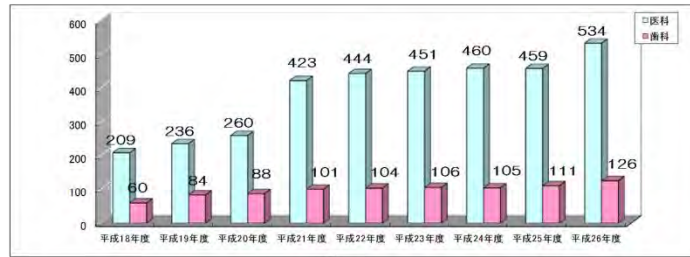


※平成26年度より地域医療支援病院の紹介率の算定方法が変更となりました。

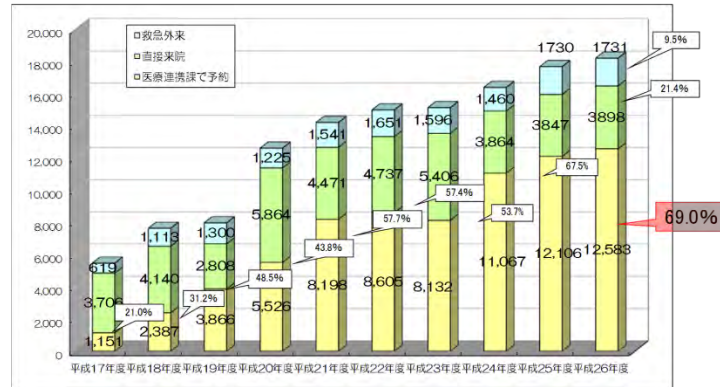
紹介件数・逆紹介件数推移 (年度推移)



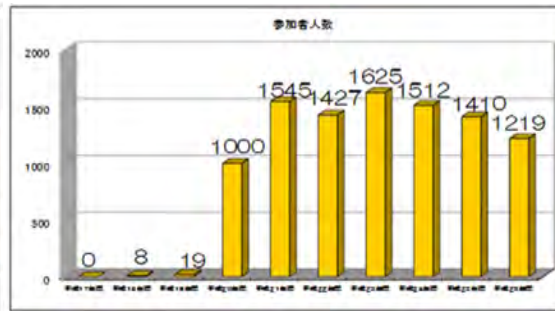
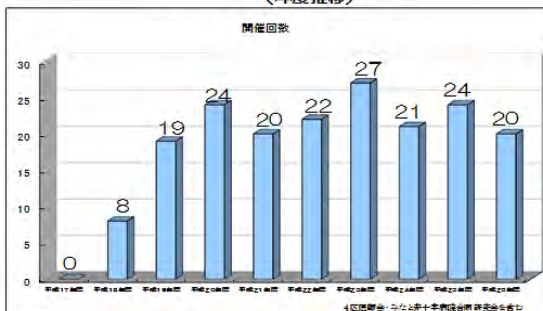
登録医登録状況



紹介方法別紹介件数推移 (年度推移)



みなとセミナー実施状況 (年度推移)



4-4 地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）

1 事業概要

医療連携センターは、横浜市立みなと赤十字病院が地域の求める医療機能を効果的、効率的に果たし、医療を必要とする患者・家族が安心して生活できるように、病院内および地域医療福祉機関等との連携・協働を推進し、地域医療の質向上に努める。多くの市民に質の高い医療を提供するとともに、患者・家族が希望する医療やケアを一貫して提供するためには、病院完結ではなく、地域医療機関をはじめとする保健福祉機関と密接な連携をとり、入院・外来を問わず市民が安心して医療を受けられるシステムを提供することが必要である。

医療社会事業課（療養・福祉相談室）として、在宅療養相談や福祉医療相談を中心に、患者家族からのさまざまな相談を受け対処する。診療部門や看護部門とともに患者や家族の支援をする。また、がん患者の地域での支援体制を整備して、地域で安心して療養していただけるように、周辺のさまざまな調整をしていく。上記目的のため、療養・福祉相談室内にがん相談支援センターを設置し、院内院外の患者を問わず幅広く相談に対応する。

2 26年度実績

(1) 療養・福祉相談の実績報告（資料①）

年度実人数は昨年より403件減少しているが、新規ケース6092件（前年度比+568件）となっている。内訳では院外関係者からの依頼増加が目立つ。今年度から退院支援マニュアルの改訂を行い、外来通院中の患者の療養支援フローを院内・院外へ周知を行ったことからケース数の増加につながったと考えられる。転帰先は、在宅が最も多いことは変わりなく、一般病院への転院割合が若干増加し、施設入所も介護老人保健施設への入所に若干の増加がみられる。今年度から新設された包括ケア病棟への転院は10件であった。援助方法では、院内・院外カンファレンスが著明に増加しており、他職種や地域関係者と連携を図ることができた。算定関連では、退院調整加算、介護支援連携指導料等大幅な伸びがみられ、在宅歯科連携フローを作成したことより3者以上退院時共同指導加算を8件算定することが出来た。（前年度比+7件）

(2) 地域関係機関との取り組み（資料②）

地域関係機関との連携が不可欠であるこの部門として、様々な取り組みを行った。

- ① 行政機関や在宅介護関係機関の会合への参加、「かいごのWA！中」の会合への参加、横浜市退院支援看護師の交流会への参加など、在宅療養支援に関する取り組み
- ② 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステム実務者会議や障害者自立支援協議会への参加、中区3障害一体サービス提供施設運営委員会など、障害児者に関する活動
- ③ 赤十字SW会や医療協SW会、委員会に参加

- ④ 精神科医療に関する活動として、合併症受入病院連絡会や精神保健業務連絡会、医事担当者会議等の参加により必要な情報収集、受入病院としての提言
 - ⑤ 横浜脳卒中地域連携懇談会の参加や横浜脳卒中・リハ連携研究会（Y-CIRCLE）、大腿骨頸部骨折パス合同委員会の当院での開催
 - ⑥ 医師会や地域関係機関と「中区で認知症を考える会」を当院で開催
 - ⑦ 横浜市リハビリテーション事業団とALS患者支援に関する連携
- (3) 専門職育成への取り組み
- 14名の看護学生、1名の社会福祉学生、2名の精神保健福祉学生の実習を受け入れた。がん相談支援センター相談員研修(1)(2)2名(3)2名が受講をした。看護部からクリニカルラダー「退院支援コース」の研修者を13名受け入れた。
- (4) 専門職としての研鑽(詳細は2で挙げた資料の通り)
- 神奈川県看護協会、医療協、神奈川県MSW協会、神奈川県PSW協会やその他自治体主催による各種研修を積極的に受講し、有資格者としての自己研鑽を図った。また、神奈川県MSW協会研修委員、神奈川県PSW協会理事、研修委員、医療観察法における精神保健参与員、自立支援法障害支援区分認定審査会委員、障害者人権擁護モニター活動など、資格の専門性を生かし幅広い活動を通して業務に反映させた。
- (5) 院内他部署、あるいは地域関係機関に向けた取り組み
- 各職種の特性を生かし、様々な勉強会を開催した。消化器内科医師を対象にした勉強会や精神科病棟での精神保健福祉法の勉強会、ICU病棟等での療養先についての勉強会などを開催した。また、最近では、高齢者虐待、児童虐待で入院する患者が増加傾向にあり、行政や地域関係者とのカンファレンスを活発に実施した。例年実施しているリウマチ教室での社会福祉制度の説明会を始め、今年は社会労務士を招いて「がん患者の就労支援について」の研修、がんサロンでは事例を用いた介護保険制度、医療費についての勉強会を行った。

3 目標に対する評価(資料③)

- (1) 脳卒中パス/大腿骨頸部骨折パスについて院内外の連携を深め、円滑な運用を進める。
- 脳卒中パスについては57件で26件増加した。今後は連携施設が拡大し、神奈川県で統一したパス運営をしていく予定であり、更に増加が見込まれる。大腿骨頸部骨折パスについては16件で26件減少であった。今年度は1連携施設が脱退し、連携施設以外の受け入れが多くあったことが要因と考える。引き続き運用方法についての検討を行っていく。
- (2) 自宅退院の増加も踏まえ、退院調整加算、退院時共同指導や介護支援連携をより積極的に行い、昨年度減少した指導料の算定に結びつける。
- 退院支援マニュアルの周知を図り、全ての指導料の算定件数が昨年度より大幅に増加した。
- (3) 政策医療の一つでもある精神科救急医療/身体合併症システムの円滑な運用に向け、院内外との連携を深める。

- 四縣市、他医療機関との連携は、外部研修などで関係性を深めており、院内においても診療科、病棟の理解を深めることが出来た。
- (4) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part8」を実施する。
(資料④)
- 地域の関係機関と連携が取れた3つの事例紹介と当院のチーム活動内容を紹介する発表会を開催し、参加者は104名。アンケート結果より参加者の多数が「参考になった」と評価しており、参加者のニーズにあったセミナーであった。
- (5) がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの体制を、相談員研修の参加などにより強化していく。また、がんサロンの定着を図る。
→がん相談支援センター相談員研修の受講修了者は、(1) (2) 7名 (3) 4名となり、相談体制の強化を図れた。がん相談件数は、1903件で前年度より大幅に増加した。がんサロンの運営をサポートし、定着を図ることが出来た。
- (6) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの円滑な運用を推進する。
→平成26年度は、相談件数が12件あり、受け入れは9件と増加した。今後もニーズが増加していくと思われるため、連携を強化していく。
- (7) 看護師、社会福祉士、精神保健福祉士の専門職養成のため、実習の場を提供する。
→(3) 専門職育成への取り組みにおいて述べた通りである。

4 次年度以降の取組み

- (1) 大腿骨頸部骨折パス／脳卒中パスについて院内外の連携を深め、円滑な運用を進める。
- (2) 退院支援マニュアルを周知し、チーム医療を推進する。
- (3) 政策医療の一つでもある精神科救急医療／身体合併症システムの円滑な運用に向け、院内外との連携を深める。
- (4) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part9」を実施する。
- (5) がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの体制を強化し、円滑な運用を推進する。
- (6) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの円滑な運用を推進する。
- (7) 看護師、社会福祉士の専門職養成のため、実習の場を提供する。

5 執行体制

医療連携センター長 持松 泰彦

医療連携副センター長 乾 尚美

療養・福祉相談室課長 渡邊 貴子 (看護師)

MSW 6名 (内1名は精神保健福祉士資格保持者) PSW 3名 Ns 4名
事務1名

6 データ (資料⑤)

医療社会事業課 平成26年度報告書(資料①)

平成26年度分
横浜市立みなと赤十字病院

(1)取扱人数

区分	人数	(前年度比較)
年度実人数	6422 人	- 403
年度延人数	29611 人	- 516

区分	実人数	
新規介入ケース	入院	3789 人 + 309
	外来、その他	2303 人 + 259
終了ケース	6148 人	+ 674

精神科入院相談件数		件数	
		311 件	- 58
がん相談	実件数	1903 件	+ 1,777
	延べ件数	4935 件	
	(対面)	2216 件	
	(電話)	2144 件	
	(その他)	571 件	

*算定

退院調整加算	14日以内(340点)	168 件	+ 67
	15日～30日(150点)	327 件	+ 136
	31日～(50点)	314 件	+ 183
介護支援連携指導料(300点)	241 件	+ 115	
退院時共同指導料2(300点)	36 件	+ 23	
3者以上退院時共同指導加算(2000点)	8 件	+ 7	

*地域連携パス実施状況

大腿骨頸部骨折パス	16 件	- 26
脳卒中パス	57 件	+ 12

(2)新規ケースの紹介経路

区分	実件数	
医療職Ⅰ	642 件	+ 115
医療職Ⅱ	3 件	+ 2
医療職Ⅲ	1918 件	- 448
一般職Ⅰ	125 件	+ 15
一般職Ⅱ	6 件	- 1
本人	503 件	- 5
家族・親戚縁者	695 件	+ 88
院外関係者	2120 件	+ 754
近隣者・知人	1 件	- 1
ソーシャルワーカー	79 件	+ 49
合計	6092 件	+ 568

(3)取扱内容

区分	実件数	
家族関係の問題	352 件	- 27
介護・療養生活上の問題	1800 件	- 12
経済に関する問題	527 件	+ 20
日常生活上の問題	566 件	- 49
就労・職場の問題	47 件	+ 26
教育の問題	1 件	- 4
医療の確保に関する問題	2308 件	+ 153
人権に関わる問題	69 件	+ 28
心理・情緒的問題	402 件	- 50
制度活用に関する問題	1056 件	+ 148
その他	1880 件	+ 269
合計	9008 件	+ 502

(4)援助方法

方法		延件数	
面接	本人	7772 件	+ 511
	家族等	4444 件	- 197
電話	本人	329 件	+ 108
	家族等	5629 件	+ 783
訪問	本人	37 件	+ 24
	家族等	56 件	+ 52
同行・同伴・代行		36 件	- 30
文書(電子メール、FAX含む)		2782 件	+ 348
情報収集		18173 件	+ 263
院内協議・院内カンファレンス		20863 件	+ 2,096
院外協議・院外カンファレンス		18404 件	+ 3,547
合同カンファレンス		432 件	+ 176
その他		113 件	- 2,075
合計		79070 件	+ 5,606

(5)相談援助調整内容

内容	延件数	
家族関係に関すること	1337 件	- 115
在宅介護に関すること	7839 件	+ 1,320
療養生活に関すること	11259 件	+ 406
経済的問題に関すること	1528 件	- 361
就労・職場環境に関すること	96 件	+ 25
就学・教育環境に関すること	36 件	+ 9
虐待・暴力・人権に関すること	343 件	+ 51
受診・受療に関すること	2763 件	+ 826
転院に関すること(医療機関)	9740 件	+ 1,030
他施設利用に関すること	2183 件	+ 117
心理・情緒的問題に関すること	1381 件	- 187
他福祉関係法に関すること	1803 件	+ 50
高額療養費に関すること	339 件	+ 116
その他	2630 件	+ 442
合計	43277 件	+ 3,729

(6)転帰先

区分	実件数	
一般病院	272 件	+ 46
包括ケア	10 件	
回復期リハビリテーション病院	209 件	- 9
療養型病院	72 件	- 34
精神病院	118 件	- 7
介護老人保健施設	69 件	+ 11
特別養護老人ホーム	35 件	+ 1
有料老人ホーム	74 件	- 21
グループホーム	6 件	- 7
在宅	1041 件	- 172
死亡	168 件	- 25

平成26年度出張記録（資料②）

①地域連携分野

内容	回数
精神医療審査会	12
障害程度区分認定審査会	11
精神医療審査会に関する意見聴取	7
医療観察法における事件のカンファレンス	7
医療観察法における事件の審判期日	4
横浜市重症心身障害児者メテカールジョイントシステム実務者会議	3
西区担当ケアマネジャーとの交流会	1
横浜市中区生活支援センター運営委員会	1
医療連携に関する検討会	1
西区地域ケア懇談会	1
新山下地域ケアプラザ訪問(地域連携)	1
横浜市総合保健医療センター見学実習	1
横浜市児童虐待防止医療ネットワーク	3
就労要談	1
中区要保護児童対策連絡会	3
平成26年度 横浜市精神医療審査会 全体会	1
地域包括ケアにおける中区介護と医療の連携検討会	1
第19回 4区医師会 みなと赤十字病院合同研究会	1
高齢者虐待防止事業 合同連絡会	1
地域ケアプラザ所長会議	1
介護と医療の検討会	1
医療との連携(戸塚区)	1
第45回 地域医療連携に携わる担当者交流会	1
中区自立支援協議会 第2回 合同担当者会議	1
中区精神保健業務連絡会	1
精神科法定書類提出	1
横浜脳卒中地域連携懇話会セミナー	1
金沢区地域医療・在宅支援連絡会	1
平成26年度 神奈川県精神科病院事務長・医事担当者会議	1
精神科救急身体合併症転院事業受入病院連絡会	1
横浜脳卒中・小児連携研究会(Y-CIRCLE)	2
平成26年度 第1回 学術委員会	1
神奈川県卒中中領域シームレス医療研究会セミナー	2
中区自立支援協議会 高齢化プロジェクト	2
平成26年度心臓要失者等医療観察法関係研究協議会	1
横浜退院支援ナースの会	4
神奈川県がん診療連携協議会 相談支援部会	1
かいこのWa!なか	6
見える事例検討会(地域との多職種事例検討会)	4

②研修・勉強会

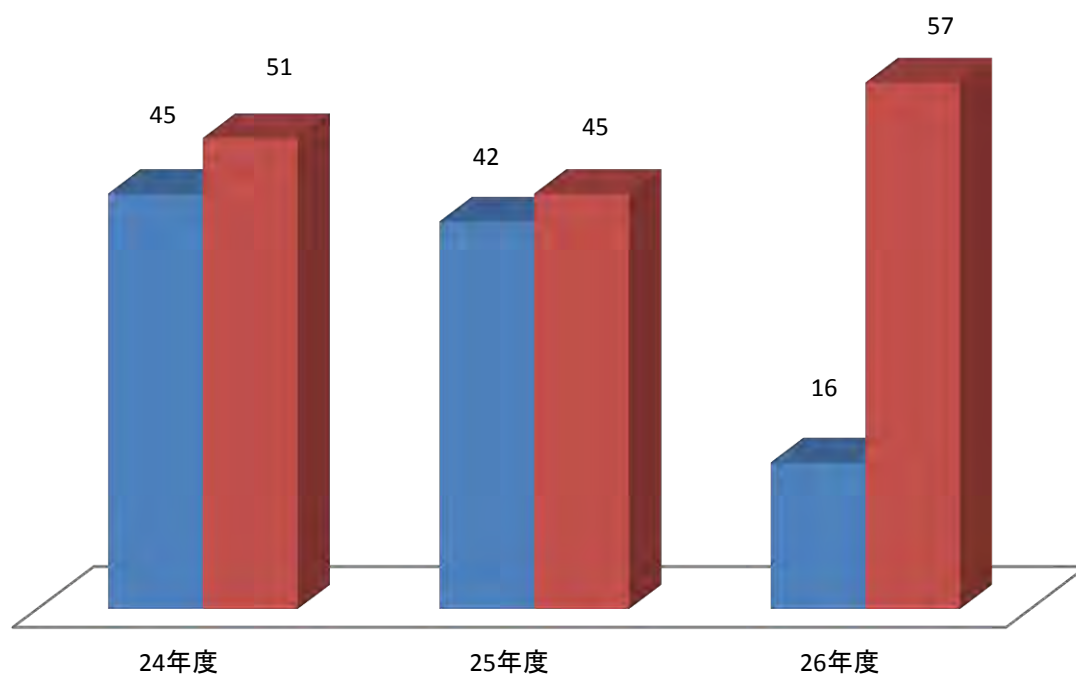
内容	回数
平成26年度 病院と在宅をつなぐ研修会	4
医療協ソーシャルワーカー会	3
神奈川県がん診療連携協議会 相談支援部会	3
平成26年度 エイスクラゼリング研修	2
神奈川県がん診療連携協議会 統計検討ワーキング	2
医療協ソーシャルワーカー会 業務検討委員会	2
医療協ソーシャルワーカー会 世話人会	2
医療協ソーシャルワーカー会 事例検討委員会	1
がん相談員基礎研修(1)(2)	1
「がんになっても働けるといふこと」講演会	1
新人研修 2014年度神奈川県医療社会事業協会	4
就労支援に関する研修会	1
第8回 日本緩和医療学会年会	1
第10回 日赤東部ブロック 医療連携実務研究会	1
平成26年度 テーマ別研修 タイムマネジメント研修	1
管理者育成研修	1
平成26年度 医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修	1
障害児者医療検討委員会 院外研修	1
神奈川県医療社会事業協会 座談会	1
在宅療養を支える看護～それぞれの立場から～	1
第2回 みなと赤十字管理者育成研修	1
中堅職員研修	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会 関東ブロック研修会	1
平成26年度 ころのケア 指導スタッフとして	1
平成26年度 救護員対象ころのケア研修	1
精神保健福祉社の連携研修	1
医療協 施設部拡大幹事会	1
平成26年度 第2回 全国赤十字救護班研修会	1
がん相談支援センター 相談員基礎研修(3)	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会	1
第50回 日本赤十字社医学会総会	1
第50回(公)日本精神保健福祉協会全国大会	1
がん看護専門分野 退院支援・在宅療養支援コース	1
平成26年度 ころのケア 指導者会議	1
第18回 DMORT陽性研修会	1

③その他

内容	回数
患者付き添い外出	16
病院訪問	2
西区役所訪問(未収金WG)	1
中区役所訪問(未収金WG)	1
未収金WG 勉強会(中区役所)	1
MSW面接	1
神奈川県リハビリテーションセンター・七沢更生ライトホーム見学説明会	1
ソーシャルワーカー実習 実習指導者懇談会	1

地域連携パス

■ 大腿骨頸部骨折パス ■ 脳卒中パス



第174回みなとセミナー
～より良い在宅療養支援をめざして part8～(1/20)について
アンケート集計結果 (資料④)

講演参加者: 計104名
 回収率: 76/104 (73%)

①事例1 『VAC療法をした高齢者の患者さんの退院支援』 はいかがでしたか？

とても参考になった	36
参考になった	36
参考にならなかった	0
未記入	4

- ・ VAC療法を初めて学びました。(9名)
- ・ 入院中からの在宅と病院の連携は、とても重要だと感じた(7名)
- ・ 実際に訪問看護より、在宅での状況が聞けてよかった(4名)
- ・ 病院(チーム)から在宅への医療連携がスムーズに出来ている。(3名)
- ・ 退院支援のプロセスと院内のチーム、多職種の間わりが良くわかった。(2名)
- ・ オスメイトが私達の元でサービスを受けるに至るまでの患部の状態や過程を知ることが出来た。
- ・ 病院から在宅へ移行するにあたり、情報の提供の大切さが分かった。
- ・ 在宅での訪看への連携が確実に出来ることが大切。今後のケアプラン作成にも取り入れていきたい勉強になりました。
- ・ 家に戻れた事で食事が出来るようになった。やはり家に戻れるということが大事だと感じた。
- ・ 入院時から退院時、現在の状態が良く分かりました。
- ・ 創部の処置がある状態で、退院する患者さんが多いためとても参考になりました。
- ・ 摂嚥下障害のある方の病院のきめ細やかな支援体制が有り、認定看護師の努力により患者の在宅に戻る希望と自信に繋がった。
- ・ VAC療法のみで良くなったのではなく、色々な人たちの連携で改善されたと思います。
- ・ 大変なお仕事だと思いました。
- ・ 病棟看護師として継続して処置が行えるよう訪問NSやデイサービスNSとのカンファレンスの重要性を改めて実感した。
- ・ 退院在宅は難しいと思う人でも、周囲の間わりで在宅可能になるということが分かった。在宅に戻れてこの方は幸せだなあ～と思った。
- ・ 患者、家族の自立支援の視点が大切だと改めて気付くことができた。
- ・ 患者を全人的に捉え的確なケアを提供した事により、高齢でもトラブルがなく在宅に繋がられて素晴らしかった。
- ・ きらり訪問看護ステーションの方のお話がマイクが遠く一部聞こえず残念だった。

②事例2 『在宅歯科連携をした患者さんの退院支援』 はいかがでしたか？

とても参考になった	42
参考になった	29
参考にならなかった	0
未記入	5

- ・ 口腔ケア重要性と、歯科連携の大切さが分かった。(10名)
- ・ 在宅歯科連携ということをしることができた。(3名)
- ・ 参考になったので今後の仕事に役立てたいと思います。(4名)
- ・ 今回の事例を参考にして利用者の方の訪問歯科の導入を考えたい。(4名)
(薬剤師とも) (2名)
- ・ 口腔ケアをすることで、食事を摂れる様になり、ADLの拡大に繋がることを知った。(2名)
- ・ 口腔ケアをすることで、食欲も意欲も出るので口腔機能のチェックをして歯科医師会とも連携していきたい。
- ・ 退院時のカンファレンスはすごいなあと思いました。
- ・ 関わる中での異常の早期発見や、退院前カンファに医師も参加する間わりがよかった。
- ・ 口腔ケアの大切さを理解していたつもりだったが、別な視点から見ることの大切さを学んだ。
- ・ 嚥下障害機能低下が防止できることが勉強になった。

- ・ 食べること＝ずっと必要なこと。好きなものを口から食べられることは、幸せだと思う。
- ・ 地域の歯科診療の状況を知ることができました。
- ・ 在宅歯科の連携が役立つ事例であるが、在宅医療は？
- ・ ここまで口腔ケアを丁寧になさったのはすばらしい。
- ・ 口腔ケアで唾液を少なくすることが出来ること(改善)を知らなかった。
- ・ その人らしさを大切に。という中で、食事は大きなウエイトを占めると思う。
- ・ 在宅での様子・工夫を具体的に聞くことができ、とても参考になりました。
- ・ パーキンソン病で摂食障害の利用者さんが多く、歯の治療の大切さが分かった。
- ・ 口腔外科、歯科等、ホームページがあること知った。
- ・ 本を読んでみたいと思います。
- ・ 素晴らしい連携で感激しました。

③事例3 『ターミナル期の患者さんの多職種カンファレンス』 はいかがでしたか？

とても参考になった	41
参考になった	26
参考にならなかった	0
未記入	9

- ・ 本人の望むことをきいて最期の時間を大切に過ごせたと感じます(5名)
- ・ ターミナルの患者さんの多職種連携の大切さがわかりました。(6名)
- ・ みなと赤十字病院の緩和ケアに関する取り組みが良く分かった。(2名)
- ・ 病院のスタッフの皆様が患者さんの生活歴と本人の思いを深く汲み取りながら、多職種で連携を図っての治療、看取り素晴らしいと思いました。
- ・ 以前、緩和病棟に入れて、なくなった方を担当しましたが、その時は入院するとその後は分からず、気になってお見舞いに行ってもベッド上での姿しか分からず、ご家族から「亡くなりました。お世話になりました」とのお言葉で終了。こんな連携ができてるのは、素敵です！
- ・ 聞く力→本人の本当の思いに焦点をあて、他スタッフ全員が同じ方向に進んだことがCさんらしい、看取りとなったと思います。
- ・ 周囲が色々情報提供していても、しっかり本人の気持ちを確認することの大切さを改めて学んだ。
- ・ 昨年末担当していたケースで苦労したので。家族の受容がいかに難しいか……。チームっていいですね。感動しました。
- ・ 現在、ターミナル期の利用者様を担当しています。本日救急搬送されたら連絡が入り今後どうなるのかを心配しています。
- ・ その人らしい残された日々を過ごすための情報収集や携わる人々の優しさや思いやり。
- ・ いろいろな人に助け合って素晴らしいことがわかりました。
- ・ 地域の方たちの熱い想いに胸がいっぱいになりました。「聴く力」
- ・ 最期まで連携が取れて、看取る事は感動しました。
- ・ ターミナル患者さんへの関わり方に参考になる事例であった。
- ・ 多方面からのバックアップは、ご本人様の精神面の支えとなりとても心強く感じました。
- ・ ご本人が信頼している人や地域の人と連携することで、よりその人らしい人生を送ることが出来るのではないかと改めて感じる事ができた。ありがとうございました。
- ・ それぞれの立場から、患者によりよい看護を目指していることに改めて患者します。
- ・ 家族にとって、本人にとっても心安らかな最期を迎えていただくための多職種のカンファレンスは大事。小さな事業所のケアマネとして力のなさを感じるかつこんなにたくさんの支援者と協働できる機会が作れると素晴らしい。
- ・ ”切れ目なく”の大切さを改めて考える機会となった。カンファレンスをする事で、何が問題か明確になり、地域の繋がりを大切にすることで本例の患者の思いを引き出したのだと思いました。
- ・ 在宅で関わりがある方だけではないが、カンファレンスに参加することでケアマネジャーとしてご本人の信意が伝えられるといいと思った。
- ・ 外来も入院も一緒にメンバーで対応してくれること。
- ・ 在院日数だけ考えているのではなく、個々の終末期に対する支援を学べた。
- ・ 患者家族が思うように同意できない症例。なかなかICをとるのが困難と思われた。ケアマネジャーの一步踏み込んだ行動がよかった。

- ・ターミナル期の患者の本心をどのように引き出すのか？勉強になった。
- ・在宅と病院では、大きな違いがありわからない事がそれぞれたくさんあるので連携はさらに必要。
- ・最期に思い残すことなく、生活ができるよう考えたい。

④本会の時間配分はいかがでしたか？

ちょうど良い	64
長すぎる	4
短すぎる	0
その他	3
未記入	5

- ・やや長い
- ・少し長くなるのが冬のこの時期には残念。
- ・この時間で3つの事例は短すぎるので、2つが良いかな。

⑤ 次回以降の「より良い在宅療養支援をめざして」の会で、お聞きになりたいテーマ、会への要望などはございますか？

- ・それぞれの立場からの発表、素晴らしいと思います。今後とも連携強化をお願いします。
- ・地域の方のお話があり、地域に戻られた患者さんがどのように生活されていることを知ることができ、よかったです。
- ・独居、生保など家族が1人もいない患者へのアプローチと進め方、支援とは何かを知りたいです。
- ・リウマチの方の支援
- ・地域医療、地域連携活動が日本でも定着してくるかと思うと嬉しい。
- ・わがままな本人より家族の意見が強いこともあり、間に入って困るか医療とかMSWのきちんとしたバックアップで助かることが多い。
- ・若年層のターミナルケア
- ・病院内の連携と在宅の連携について
- ・ありがとうございました。病院側のチーム活動を聞いて、熱意を感じました。
- ・ケアマネさんからの発表もあってよかったです。生活の場にいる患者さんの姿を知ることが理解が深まります。
- ・皆様お疲れ様でした。毎年開催してくれて嬉しく思います。今回も大盛況でしたね！みなさんの発表がとてもよかったです。できればそろそろどんなテーマでもいいので、グループワークがしたいです。経験年数や職種、立場や所属を超えて、本音で地域のことを話し合うような場を提供したいと思っています。手伝いたいのでいつでも声かけて下さいね～。
- ・事例を通して連携ができていると思いますが、検討会などあったらと思います。
- ・資料が欲しいです。在宅での様子が実際の地域の方からお話が聞けて励みになった。
- ・地域医療ケアに携わっている方々のフィードバックもあり、とてもよかったです。勉強になりました。ありがとうございました。
- ・病院→在宅医療、在宅支援チームの連携について
- ・認知症に対しての家族及び本人の支援について、在宅での生活を行うに当たっての工夫や家族の負担軽減するにはどうしたら良いか。
- ・食事について
- ・普段在宅に向けての支援を行う機会が少ないので、勉強になりました。
- ・地域ケア会議の開催についての具体例。在宅支援の為の多職種連携の必要な事柄。
- ・引き続き連携されている病例について聞きたい。地域で活躍されている方たちの話を聞きたい。

⑥職種

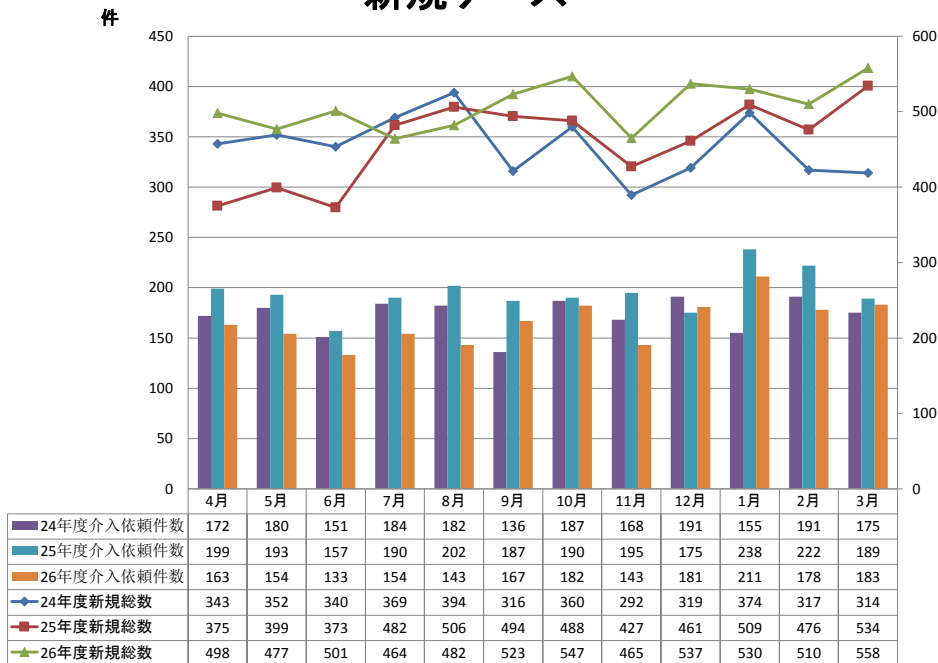
<院外>

退院調整看護師	3
地域ケアプラザ	4
介護支援専門員	26
訪問介護員	2
医師	1
歯科医師	1
歯科衛生士	1
訪問看護師	7
横浜市歯科医師会	1
訪問看護ステーション 事務員	1
医療相談員	1
夜間訪問診療MSW	1
その他介護支援関係者	1
未記入	6

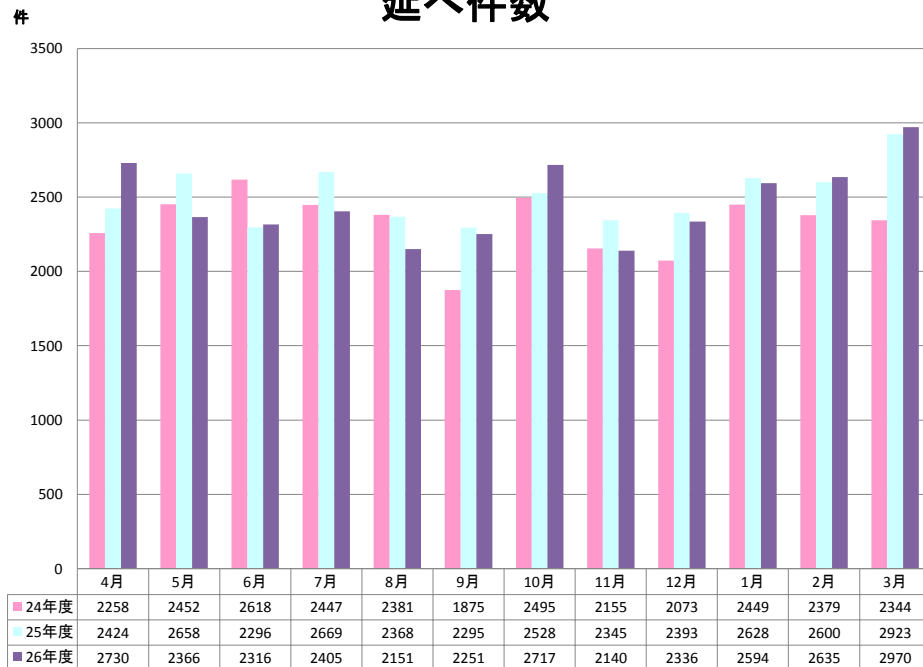
<院内>

医師	2
病棟看護師	11
外来看護師	0
コメディカル	2
その他	2
未記入	3

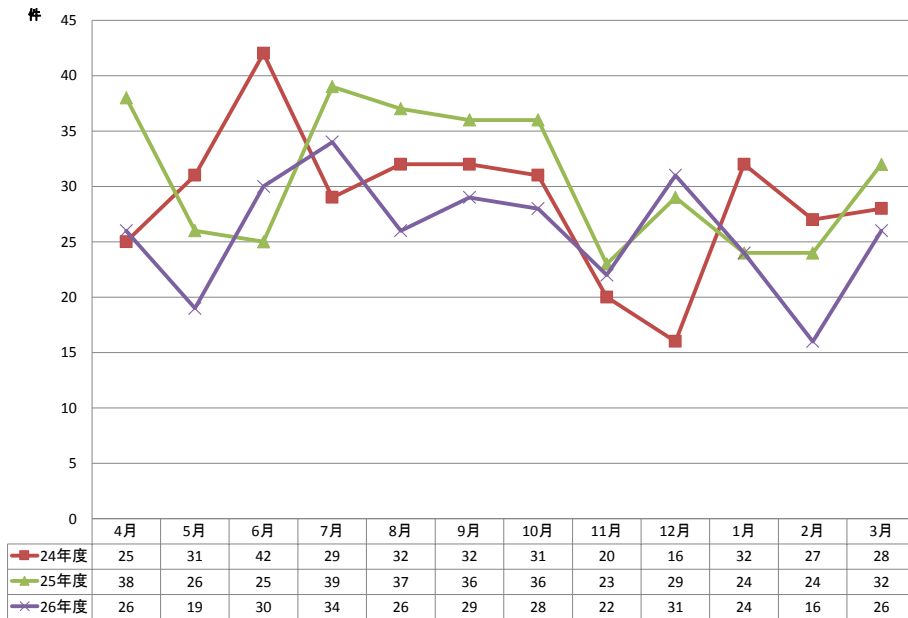
新規ケース



延べ件数

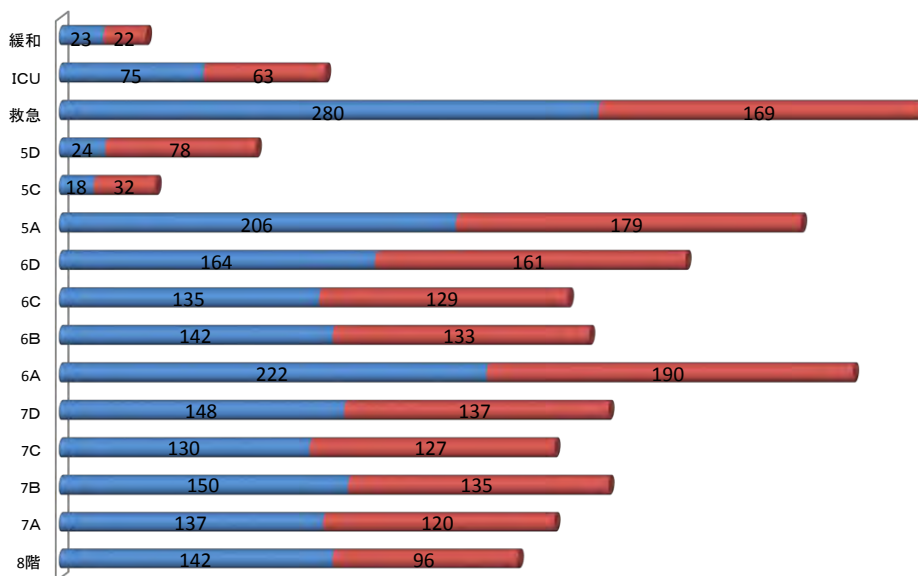


精神科入院相談

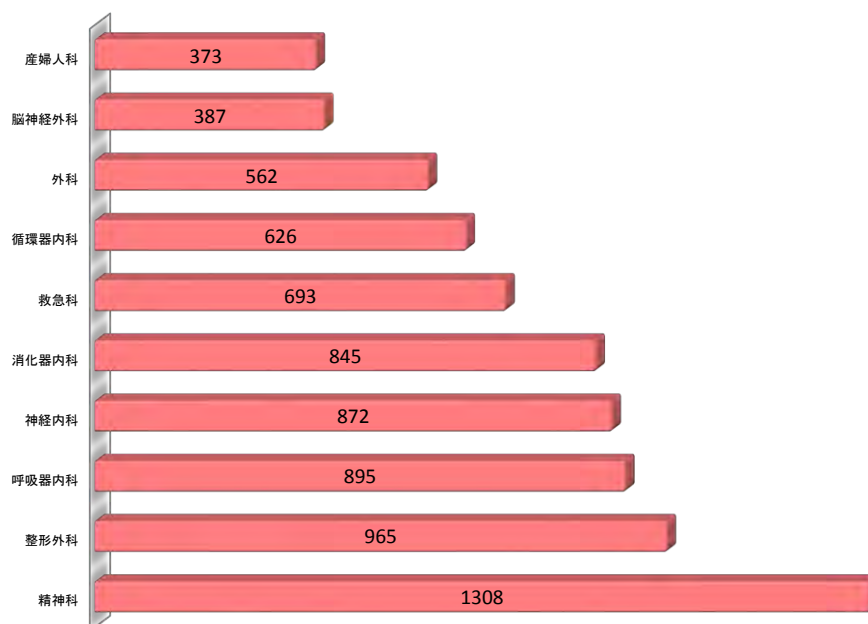


病棟別

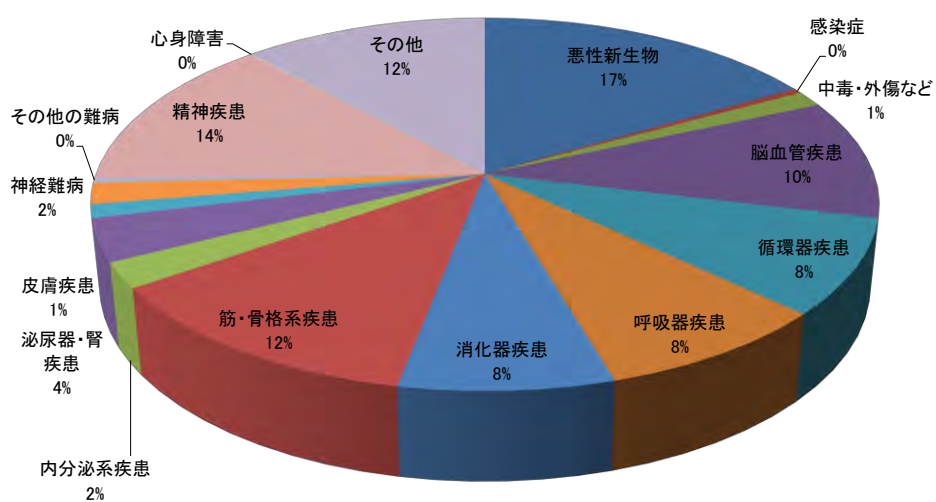
■ 依頼あり ■ 依頼なし



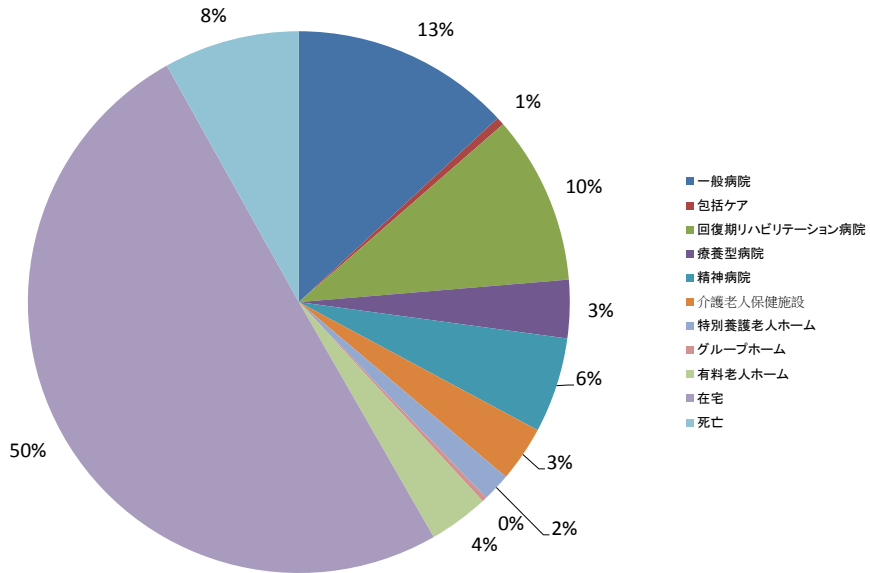
診療科別(トップ10)



疾患別



転帰先



病院ランキング

【一般】

①野村病院	62
②ふれあい横浜ホスピタル	31
③港南台病院	20
④横浜悠愛クリニック	16
⑤生麦病院	13

【回復期】

①横浜市立脳卒中・神経脊椎センター	53
②佐藤病院	18
③横浜なみきりリハビリテーション病院	15
④新横浜リハビリテーション病院	11
④ふれあい東戸塚ホスピタル	11

【療養型】

①関東病院	9
②横浜いずみ台病院	5
③本牧病院	3
④横浜悠愛クリニック	2
④元気会横浜病院	2
④佐藤病院	2
④育生会横浜病院	2

【精神】

①横浜舞岡病院	10
②あさひの丘病院	8
③フシン坂病院	7
③東横恵愛病院	7
④神奈川県立精神医療センター	6
④日向台病院	6

4-5 市民委員会

1 事業概要

市民の意見を反映させることによって、適切な役割・機能の確保と、提供する医療・サービスの質の向上を図ることを目的とする。

2 26年度実績

平成27年3月6日（金）18:30～20:00

（主な議題）

- ・横浜市立みなと赤十字病院のこれまでの歩みについて
- ・病院満足度調査報告について
- ・医師人事考課制度について
- ・心臓血管外科の取り組みについて
- ・開院10周年を迎えて
- ・質疑

3 委員

	委員氏名	役職
1	行天 良雄	医事評論家
2	荻野 アンナ	作家 慶應義塾大学文学部教授
3	西川 哲男	独立行政法人労働者健康福祉機構横浜労災病院 院長
4	向山 秀樹	横浜市中区医師会 会長
5	玉村 和巳	日本発条株式会社 代表取締役社長
6	川本 守彦	川本工業株式会社 代表取締役社長
7	河村 朋子	横浜市磯子区医療センター訪問看護ステーション 管理者
8	平山 正晴	横浜市中区連合町内会長連絡協議会 会長
9	松田 史朗	横浜市立みなと赤十字病院奉仕団 団員

4-6 治験・受託研究

1 事業概要

臨床試験（治験）の推進と迅速な審査体制による安全性の確保

2 26年度実績

26年度新規治験 14件

(内訳)

- ・小児喘息患者対象試験 1件
- ・慢性心不全患者対象試験 1件
- ・2型糖尿病患者対象試験 2件
- ・関節リウマチ患者対象試験 2件
- ・急性心不全患者対象試験 1件
- ・成人喘息患者対象試験 4件
- ・NOAC服用中の緊急で止血が必要な患者対象試験 1件
- ・糖尿病性末梢神経障害性疼痛患者対象試験 1件
- ・帯状疱疹後神経痛を有する患者対象試験 1件

3 目標に対する評価

今年度の目標であった治験受託件数増加については4件増であり、新規診療科での新たな実施にもつながった。臨床研究は21件増加したが、実施状況が管理されておらず、今後の課題としてあがった。

4 次年度以降の取組み

センター化に伴い、自主臨床研究および治験の両面から実施体制の整備および手順書等の見直しを行い、治験受託件数アップを目標に積極的に治験業務を推進する。自主臨床研究については、新たな指針に対応した実施に向け管理体制を整える。

5 執行体制

臨床試験管理センター

センター長 : 不在

副センター長 : 猪股克彦 (薬剤部)

治験担当薬剤師 : 鏑木 真理子

治験担当事務 : 相澤 早苗、野村 豪 (H26.10月～)

6 データ

年度	24年度	25年度	26年度
治験受託件数	19件	20件	26件
臨床研究	58件	36件	57件
市販後調査	56件	63件	70件

4-7 患者・市民に対する相談・啓発活動

1 事業概要

赤十字事業には救急法等の赤十字安全講習会があり、これらの講習会を開催することで患者・市民に対して健康・安全への啓蒙活動を行い、健康管理の支援を行う。

2 26年度実績

- (1) 赤十字救急法短期講習会 1回
 - ・ 7月31日 参加者12名
- (2) 赤十字救急法基礎講習会 1回
 - ・ 3月28日 参加者32名
- (3) 赤十字救急法救急員養成講習会 1回
 - ・ 3月28日～3月30日 参加者29名
- (4) 赤十字救急法救急員資格継続研修 1回
 - ・ 3月13日 参加者3名
- (5) 健康生活支援講習会 3回
 - ・ 8月5日 参加者14名
 - ・ 10月10日 参加者21名
 - ・ 10月15日 参加者40名
 - ・ 2月20日 参加者22名

3 目標に対する評価

例年通り、救急法、健康生活支援講習会は実施できた。幼児安全法講習会は参加者の応募が少ないこともあり、開催に至らないので、講習会を開催できるような対策を引き続き検討する。

4 次年度以降の取組み

市民対象の安全講習会の他、病院職員を対象とした講習会も開催していく。院内で講習会を開催する場合は、指導員となる職員の勤務調整が必要となるが、今後も積極的に安全講習会を開催し、市民、病院職員への啓蒙活動を行う。また、各講習会の職員指導員の養成も取り組んでいきたい。

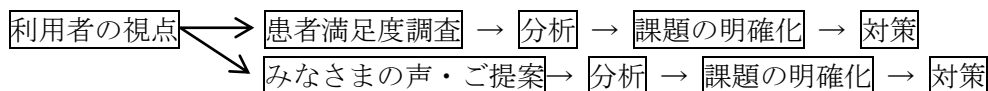
5 執行体制

- (1) 指導員有資格職員数
 - ・ 救急法 講師1名、指導員11名
 - ・ 水上安全法 4名
 - ・ 健康生活支援講習 4名
 - ・ 幼児安全法 8名
- (2) 赤十字安全講習会主管課
総務課総務・社会係

4-8 患者サービス

1 事業概要

利用者の声を分析してサービス向上に取り組む。



一昨年度に構築した上記のサイクルを廻しながらフィードバックをする方法を検討し、前年度の課題や反省点を整理した上で年間計画を組織化した。

2 26年度実績

- ・ 外国語対応職員の委譲
- ・ 患者・職員満足度調査の実施、結果分析、結果分析後の対策
- ・ みなさまの声の分析と報告
- ・ 病院コンテンツの改定と運用
- ・ 病院ホール及び外来掲示板の整備
- ・ 院内の案内表示等の検討
- ・ 接遇指針を基にした職種別職員研修の開催

3 目標に対する評価

(1) 利用者の声を分析してサービス向上に取り組む

昨年構築した利用者の評価をサービス向上に効果的に反映する体制を更に充実させ、活動のプロセスを管理しながら効果に実施することができた。今年度は接遇に関する職員研修を職種別に開催し、現状分析から接遇や説明の質向上で患者満足度を高めることを図った。全職種対象の新入職者オリエンテーションで患者評価や接遇指針を中心に伝えた。

(2) 成果を効果的に病院内外にフィードバックする

みなさまの声や満足度調査に関する情報をホームページや院内掲示板。また、外来に設置されているモニター等を活用して、定期的にお知らせやフィードバック等を行った。

4 次年度以降の取組み

(1) 利用者から寄せられるみなさまの声・ご提案は、定期的に内容検討や回答作成を行い、リアルタイムな広報が行える体制づくりを検討する。

(2) 接遇指針に則った研修を職種別（医師、看護師、コメディカル・事務）に実施し、接遇・説明等のパフォーマンスを向上させ、病院全体のサービス向上を進める。

(3) 総合受付の改修を委員会が中心となり下部組織のワーキングチームで効率的に検討し、さらに患者さんの視点で利用しやすい病院の表示や案内の整備をする。

4-9 医療データベースの構築と情報提供

1 事業概要

電子カルテシステムからの情報を中心としたデータの蓄積、診療DWHや医事DWHなどを活用し、2次利用できるよう構築。各部門の必要な統計データの提供の実施を行っています。また、必要なデータ抽出のためのシステム検討とメンテナンスを行っています。

2 26年度実績

- ・月次の診療データ、患者数、稼働額等の統計データ抽出。
- ・日本赤十字社、横浜市等へのデータ抽出
- ・各診療科、部門の統計データ抽出のサポート
- ・業務に関するデータ抽出を考慮した、電子カルテシステム（書式の検討等）と統計データの提出

3 目標に対する評価

診療科の細分化に伴いシステム改修を実施し、2年分の詳細データが蓄積でき、月次の統計データについては、定期的に抽出し、各部門への情報提供を実施した。

医師の症例登録等、直接の診療業務以外でのデータ利活用については、個人のデータ収集に頼る部分があるため、病院全体としてのシステム構築が課題となった。

情報提供、データ分析においては、前年度に引き続き外部講師の活用によりDPCデータの分析等、病院の立ち位置を含む情報提供を定期的にも実施できた。

4 次年度以降の取組み

- ・全体的なデータベースの構築
- ・診療報酬改定に伴うデータの蓄積及びそのしくみの検討。
- ・システムを活用したデータの2次利用についての検討。
- ・統計データについての定期的な情報提供の実施。

5 執行体制

- ・医療情報センター長 山本晃、医療情報課長 谷文恵、係長 小泉敬一

5 職員研修

5-1 職員研修（総括）

1 概要

医療機能を向上していくためには、一人ひとりの職員の資質向上が不可欠であることから、職員研修に重点的に取り組んでいる。

医師に対する臨床教育、看護師レベル別研修、事務職員に対する研修に加えて、メディカルスタッフに対する研修を実施している。

2 実施内容

5-2～5-4参照

5-2 職員研修（医師）

1 事業概要（臨床教育研修センターの取組み）

- ・ 医師臨床研修、歯科医師臨床研修の研修プログラム作成および研修管理
- ・ 研修医・指導医対象の各種セミナーや全職員向け講習会の企画運営
- ・ 研修医・後期研修医の採用活動のための見学会の企画運営、見学対応
- ・ 研修医・後期研修医の採用試験の企画運営
- ・ 全新入職員対象オリエンテーションの企画運営
- ・ 全新人職員対象のチーム医療に関する研修会の企画運営
- ・ 各部署で行われる研修の統括（臨床教育研修センター委員会）
- ・ 技術向上のための院内ライセンス制度の管理（腹腔鏡・CVC）

2 26年度実績

（研修医関係）

- ・ 医師臨床研修：採用研修医 6 名
- ・ 歯科医師臨床研修：採用研修歯科医 1 名
- ・ 病院見学医学生受入：延べ 1 1 1 名
- ・ 病院見学歯学生受入：延べ 1 6 名

（後期研修医関係）

- ・ 専門医研修プログラムの作成・募集・採用

（研修会関係）

- ・ 研修医向けモーニングセミナー 年間 5 7 回開催
- ・ 医学生向け見学会 年間 3 回開催
- ・ Morbidity and Mortality Conference 年間 5 回開催
- ・ 講演会 3 回開催
- ・ 平成 2 6 年度新規採用者オリエンテーション企画
- ・ チーム医療ワークショップの企画・運営 年 2 回
- ・ 院内 CVC ライセンス制度事務局
- ・ 院内腹腔鏡手術技術認定試験事務局 6 回試験開催
- ・ 指導医養成講習会開催（2 月）

（その他）

- ・ 「みなとスキルラボ」の管理
- ・ 管理者育成研修 年間 2 回開催

3 目標に対する評価

- ・ 個別面談・意見交換会を開催することにより、研修を行う上での問題点やニーズについて適宜改善を行った。
- ・ 地域医療研修に関して平成 27 年度より置戸赤十字病院を追加申請し、研修医の選択の幅を広げた。
- ・ スキルトレーニングセンター「スキルラボ」の運営管理をし、医師・看護師をはじめとした医療職の技術向上の場を提供した。

- ・指導医養成講習会を開催し、研修体制の充実をはかった。

4 次年度以降の取組み

- ・管理者向けの研修制度により力を入れて、職員の育成に努める。
- ・研修医採用試験の見直し
- ・専門医認定支援事業の取り組み
- ・卒後臨床研修評価機構の認定取得準備
- ・スキルラボを活用し、研修会やセミナーを企画して医療技術の向上に努める。

5 執行体制

臨床教育研修センター長 八木 啓一（救命救急センター長）

臨床教育研修センター副センター長 萩山 裕之（膠原病リウマチ内科部長）

若林 良明

（手外科・上肢外傷整形外科部長）

6 データ

①定員数（採用数）

（研修医）定員数（採用数）

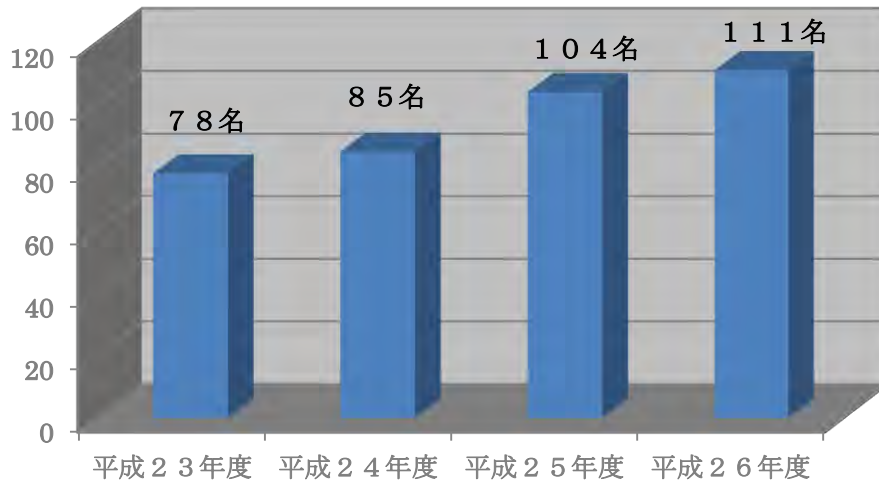
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
6	7（6）	7（6）	13

（研修歯科医）定員数（採用数）

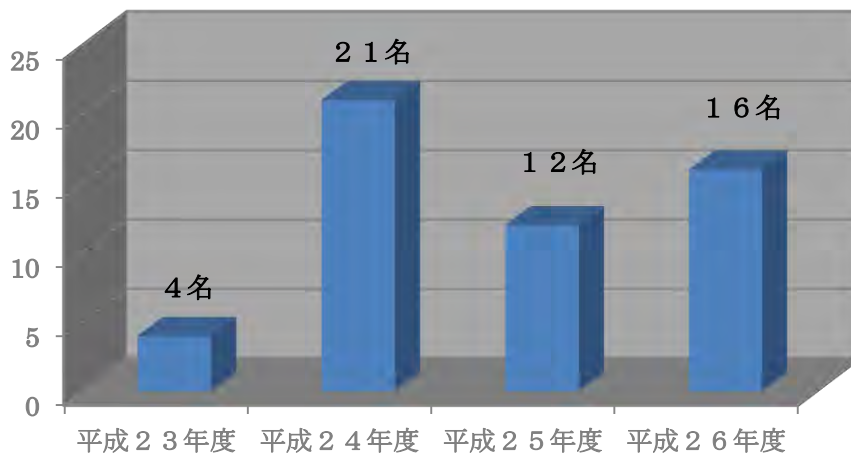
平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1（1）	1（1）	1（1）	1

②病院見学者数（のべ人数）

医学生見学者数



歯学生見学者数



5-3 職員研修(看護部)

1 事業概要

- 1) 効率性を高める現任教育
- 2) 看護職員の離職防止
- 3) 看護管理者の管理実践能力向上のキャリア開発ラダーの導入

以上の3点を目標に、看護師研修委員会、教育委員会、管理者を中心に off-
OJT の場を効率的に活用して職員研修を進めた。

2 26年度実績

院内研修実績については別添付(平成26年度 レベル別 研修計画)

院内ラダーレベル研修認定

レベルⅠ認定	44人
レベルⅡ認定	38人
レベルⅢ認定	4人

院外研修

看護協会・その他研修	133人
看護管理者ファースト研修	6人
看護管理者セカンド研修	1人
看護管理者サード研修	0人
臨床指導者研修	4人
認定看護師研修	0人
学会発表・参加	59人
国際救護開発協力要員集中英語研修	1人

3 評価

- 1) 効率性を高める現任教育

現任教育は、本社の「看護実践向上のためのキャリア開発ラダー」に準じ、実践者ラダーレベルの指標に基づいた研修を実施している。企画・運営上の問題はタイムリーに評価修正できている。25年度に実施したアンケート調査から卒後4年目は、部署の役割も増える時期であり研修が多いと感じていたため、主にラダーレベルⅢの研修をスリム化した。具体的には、がん関連の研修をラダー研修外とし、専門・認定看護師が運営する研修にした。また、実習指導者の短期研修を日本赤十字看護大学の研修に一本化した。

また、開院10年目となり師長・係長が協働し「当院が求める看護師像」を改めて具現化し、管理者全員で共有した。看護職員全員が、求める看護師像を目標にキャリア開発できるように効率的に育成していきたい。

各自が受けた研修を主体的に管理できるよう、電子カルテのシステムを構築し年度末に運用を開始した。今後1年をかけて電子化の運用を進めていきたい。

さらに、全ての看護職員が求める看護師像に成長できるよう、一人ひとりが主体的にキャリア開発することを、部署の管理者が支援していく。

2) 看護職員の離職防止

新人看護職員臨床研修体制は厚生労働省のガイドラインに沿ってOJT、off-JTを実施している。離職防止には継続的に力をいれており、入職時のリアリティーショックへの対処として成果が出ている。具体的には、看護技術は2週間の集合技術研修をスキルラボで実施後、各部署で指導を得ながらWeb上の「ナーシング・スキル」を活用し、学習・評価を行っている。また、24年度より病院の臨床研修センターが主催する年2回の新卒入職者研修に参加し、新人自身で職種を越えた同期とのつながりを実感している。特に4月に行う宿泊研修は満足度が高い。

メンタルヘルスの対策としては、リエゾン看護師・臨床心理士の協力も得て年3回の研修を実施している。また、OJTではポジティブ・フィードバックを推進し、全部署で学習会を行い実践できた。結果、新人看護師の離職率は8.5%に減少した。

卒後2年目以上の離職防止対策としては、今年度は2・3年目の看護師の語り会を実施した。同期との交流により、部署以外でも互いに支援し合える人間関係が継続できることを期待している。また、仕事へのモチベーションにつながるよう認定・専門看護師の活動報告会を実施し、多くの看護師が参加できた。

課題は、各世代の看護職員が専門職として活力を持って職業継続でき、離職率がさらに低下することである。

3) 看護管理者実践能力向上のためのキャリア開発ラダーの導入

日本赤十字社の「看護管理者実践能力向上のためのキャリア開発ラダー」に準じ26年度に運用を開始した。集合研修としては、管理者ラダーレベルIの新任係長研修を開始し9名の育成を実施した。その他、積極的に院外研修を活用し主体的に学べる機会としている。

課題は、管理者ラダーを活用した管理実践能力の向上である。まずは、ラダーの指標を意識した目標管理ができ、レベル認定者が出るように目指したい。

4 次年度以降の取り組み

1) 自律した看護職員の育成

- ・ 部署や部内の役割をポジティブに捉え取り組む
- ・ 実践者ラダー研修と役割を活用し、キャリア開発に取り組む
- ・ 目標管理を活用し自己成長できる

2) 看護職員の離職防止

- ・ 新人看護職員臨床研修の実施
- ・ 離職防止に向けての継続的な支援
- ・ 多職種との協働による研修の実施および参加
- ・ 一人ひとりの目標管理の支援

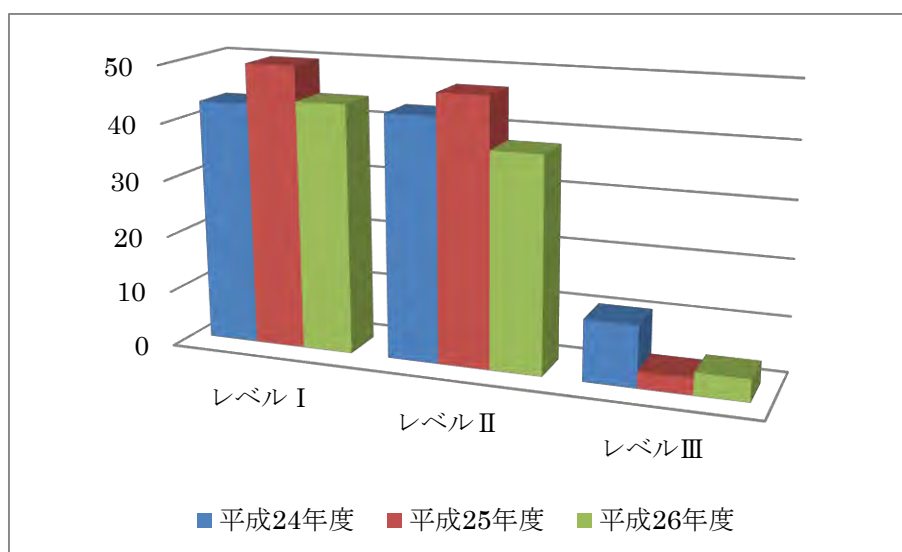
- 3) 看護管理者の管理実践能力向上のためのキャリア開発
 - ・ ラダーの指標を意識した目標管理
 - ・ 主体的な研修受講の推進
 - ・ ラダー取得へのチャレンジ
- 4) 一人ひとりがシステムを活用した主体的なキャリア管理
 - ・ 看護職員が活用しやすい電子カルテのキャリア管理システムの構築
 - ・ システムを活用した研修運営の効率化(出欠管理、評価等)

5 データ

表1 院内外研修実績

項目	24年度	25年度	26年度
院内実践者ラダーレベルⅠ認定	43人	50人	44人
レベルⅡ認定	43人	47人	38人
レベルⅢ認定	11人	3人	4人
院外研修	62人	95人	133人
看護管理者ファースト研修	5人	6人	6人
看護管理者セカンド研修	0人	1人	1人
看護管理者サード研修	0人	1人	0人
臨床指導者研修	2人	2人 短期6人	4人 短期12人
認定看護師研修	1人	2人	0人
学会発表・参加	51人	55人	59人

表2 実践者ラダー 認定者数



平成26年度 受講者・管理者ラダー レベル別研修計画

*ラダー

レベル分類	研修者名	担当	教育委員	本研修員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
レベルⅠ		*石田 (副) 藤田 今成 新谷	*山田 (副) 藤田 今成 新谷	横	オリエンテーション (院内) (支所) ラクニエック コレgium 集合技術研修	ファイロアップ研修① (15:30~17:00)	医療と診療情報 (医療従事者) 7/3 (16:00~17:00)	ファイナルアセスメント (最終時のアセスメント) 8/24 (16:00~17:30) 白井ラダー	多量腫瘍講習 (16:00~18:00)	診療注釈 初級コース② 11/28	フォローアップ研修② (16:30~17:30)									
レベルⅡ	ファイナルアセスメント	*白井 新井	*田原 新井	三好	研修① 3/12 (17:30~19:30)	研修① 5/20 (16:00~17:30)	研修② 6/16 (16:00~17:30)	研修② 7/1 (16:00~17:30)	研修③ 9/2 (16:00~17:30)	研修④ 11/7 (16:00~17:30)	研修⑤ 12/8 (16:00~17:30)									
					研修② 5/2 (16:00~17:30)	研修③ 5/23 (16:00~17:30)	研修④ 6/16 (16:00~17:30)	研修⑤ 7/1 (16:00~17:30)	研修⑥ 8/1 (16:00~17:30)	研修⑦ 8/5 (16:00~17:30)	研修⑧ 11/10 (16:00~17:30)									
					研修① 5/30 (16:00~17:30)	研修② 5/2 (16:00~17:30)	研修③ 6/16 (16:00~17:30)	研修④ 7/1 (16:00~17:30)	研修⑤ 8/1 (16:00~17:30)	研修⑥ 8/5 (16:00~17:30)	研修⑦ 11/10 (16:00~17:30)									
					研修① 5/30 (16:00~17:30)	研修② 5/2 (16:00~17:30)	研修③ 6/16 (16:00~17:30)	研修④ 7/1 (16:00~17:30)	研修⑤ 8/1 (16:00~17:30)	研修⑥ 8/5 (16:00~17:30)	研修⑦ 11/10 (16:00~17:30)									
レベルⅢ	マネジメント入門	*丸 登田	*登田	上野	研修① 3/12 (17:30~19:30)	研修① 5/21 (16:00~17:30)	研修② 6/30 (16:00~17:00)	研修③ 8/18 (16:00~17:30)	研修④ 8/20 (16:00~17:30)	研修⑤ 8/19 (16:00~17:30)	研修⑥ 10/3 (16:00~17:30)	研修⑦ 11/19 (16:00~17:30)	研修⑧ 12/10 (16:00~17:30)	研修⑨ 1/28 (16:00~17:30)	研修⑩ 2/18 (16:00~17:30)					
					研修② 5/2 (16:00~17:30)	研修③ 5/23 (16:00~17:30)	研修④ 6/16 (16:00~17:30)	研修⑤ 7/1 (16:00~17:30)	研修⑥ 8/1 (16:00~17:30)	研修⑦ 8/5 (16:00~17:30)	研修⑧ 11/10 (16:00~17:30)									
					研修① 5/30 (16:00~17:30)	研修② 5/2 (16:00~17:30)	研修③ 6/16 (16:00~17:30)	研修④ 7/1 (16:00~17:30)	研修⑤ 8/1 (16:00~17:30)	研修⑥ 8/5 (16:00~17:30)	研修⑦ 11/10 (16:00~17:30)									
					研修① 5/30 (16:00~17:30)	研修② 5/2 (16:00~17:30)	研修③ 6/16 (16:00~17:30)	研修④ 7/1 (16:00~17:30)	研修⑤ 8/1 (16:00~17:30)	研修⑥ 8/5 (16:00~17:30)	研修⑦ 11/10 (16:00~17:30)									
レベルⅣ	急性期患者支援	*藤田 三津	*藤田 三津	上野	研修① 6/3 (16:00~18:00)	研修① 6/23 (16:00~17:30)	研修② 6/23 (16:00~17:30)	研修③ 7/28 (16:00~17:30)	研修④ 8/22 (16:00~17:30)	研修⑤ 9/28 (16:00~17:30)	研修⑥ 10/16 (16:00~17:00)	研修⑦ 10/29 (16:00~17:00)	研修⑧ 12/10 (16:00~18:00)	研修⑨ 12/1 (16:00~17:30)	研修⑩ 1/14 (16:00~17:30)					
					研修② 6/3 (16:00~18:00)	研修③ 6/18 (16:00~17:30)	研修④ 6/23 (16:00~17:30)	研修⑤ 7/28 (16:00~17:30)	研修⑥ 8/22 (16:00~17:30)	研修⑦ 9/28 (16:00~17:30)	研修⑧ 10/16 (16:00~17:00)	研修⑨ 10/29 (16:00~17:00)	研修⑩ 12/10 (16:00~18:00)	研修⑪ 12/1 (16:00~17:30)	研修⑫ 1/14 (16:00~17:30)	研修⑬ 2/18 (16:00~17:30)				
					研修③ 6/18 (16:00~17:30)	研修④ 6/23 (16:00~17:30)	研修⑤ 6/23 (16:00~17:30)	研修⑥ 7/28 (16:00~17:30)	研修⑦ 8/22 (16:00~17:30)	研修⑧ 9/28 (16:00~17:30)	研修⑨ 10/16 (16:00~17:00)	研修⑩ 10/29 (16:00~17:00)	研修⑪ 12/10 (16:00~18:00)	研修⑫ 12/1 (16:00~17:30)	研修⑬ 1/14 (16:00~17:30)	研修⑭ 2/18 (16:00~17:30)				
					研修④ 6/18 (16:00~17:30)	研修⑤ 6/23 (16:00~17:30)	研修⑥ 6/23 (16:00~17:30)	研修⑦ 7/28 (16:00~17:30)	研修⑧ 8/22 (16:00~17:30)	研修⑨ 9/28 (16:00~17:30)	研修⑩ 10/16 (16:00~17:00)	研修⑪ 10/29 (16:00~17:00)	研修⑫ 12/10 (16:00~18:00)	研修⑬ 12/1 (16:00~17:30)	研修⑭ 1/14 (16:00~17:30)	研修⑮ 2/18 (16:00~17:30)				
レベルⅤ	マネジメント実践	*野村 名波	*野村 名波	三好	研修① 4/28 (16:00~17:30)	研修① 5/19 (16:00~18:00)	研修② 6/4 (16:00~17:30)	研修③ 6/4 (16:00~17:30)	研修④ 8/25 (16:00~17:30)	研修⑤ 9/25 (16:00~17:30)	研修⑥ 10/7 (17:00~19:00)	研修⑦ 10/29 (17:00~19:00)	研修⑧ 11/17 (16:00~18:00)	研修⑨ 12/2 (16:00~17:30)	研修⑩ 1/14 (16:00~17:30)					
					研修② 5/19 (16:00~18:00)	研修③ 6/4 (16:00~17:30)	研修④ 6/4 (16:00~17:30)	研修⑤ 8/25 (16:00~17:30)	研修⑥ 9/25 (16:00~17:30)	研修⑦ 10/7 (17:00~19:00)	研修⑧ 10/29 (17:00~19:00)	研修⑨ 11/17 (16:00~18:00)	研修⑩ 12/2 (16:00~17:30)	研修⑪ 1/14 (16:00~17:30)	研修⑫ 2/18 (16:00~17:30)					
					研修③ 6/4 (16:00~17:30)	研修④ 6/4 (16:00~17:30)	研修⑤ 8/25 (16:00~17:30)	研修⑥ 9/25 (16:00~17:30)	研修⑦ 10/7 (17:00~19:00)	研修⑧ 10/29 (17:00~19:00)	研修⑨ 11/17 (16:00~18:00)	研修⑩ 12/2 (16:00~17:30)	研修⑪ 1/14 (16:00~17:30)	研修⑫ 2/18 (16:00~17:30)						
					研修④ 6/4 (16:00~17:30)	研修⑤ 8/25 (16:00~17:30)	研修⑥ 9/25 (16:00~17:30)	研修⑦ 10/7 (17:00~19:00)	研修⑧ 10/29 (17:00~19:00)	研修⑨ 11/17 (16:00~18:00)	研修⑩ 12/2 (16:00~17:30)	研修⑪ 1/14 (16:00~17:30)	研修⑫ 2/18 (16:00~17:30)							
管理者ラダー レベルⅠ	研修担当者研修	*船大 (副) 藤田	*船大 (副) 藤田	上野	研修① 3/12 (17:30~19:30)	研修① 5/16 (17:30~19:30)	研修② 4/30 (16:00~18:30)	研修③ 6/11 (16:00~18:30)	研修④ 6/11 (16:00~18:30)	研修⑤ 9/10 (16:00~17:30)	研修⑥ 10/3 (16:00~17:30)	研修⑦ 11/19 (16:00~17:30)	研修⑧ 12/2 (16:00~17:30)	研修⑨ 1/25 (16:00~17:30)						
					研修② 4/30 (16:00~18:30)	研修③ 6/11 (16:00~18:30)	研修④ 6/11 (16:00~18:30)	研修⑤ 9/10 (16:00~17:30)	研修⑥ 10/3 (16:00~17:30)	研修⑦ 11/19 (16:00~17:30)	研修⑧ 12/2 (16:00~17:30)	研修⑨ 1/25 (16:00~17:30)								
					研修③ 6/11 (16:00~18:30)	研修④ 6/11 (16:00~18:30)	研修⑤ 9/10 (16:00~17:30)	研修⑥ 10/3 (16:00~17:30)	研修⑦ 11/19 (16:00~17:30)	研修⑧ 12/2 (16:00~17:30)	研修⑨ 1/25 (16:00~17:30)									
					研修④ 6/11 (16:00~18:30)	研修⑤ 9/10 (16:00~17:30)	研修⑥ 10/3 (16:00~17:30)	研修⑦ 11/19 (16:00~17:30)	研修⑧ 12/2 (16:00~17:30)	研修⑨ 1/25 (16:00~17:30)										

5-4 職員研修（薬剤師）

1 事業概要

- ・各種専門・認定薬剤師取得を見据えたプログラムの作成・研修の管理
- ・薬剤部部員会における研修の企画運営

2 26年度実績

（プログラム作成実績）

- ・薬剤部部員会でのプログラムの作成および薬剤師研修委員による精査
- ・各種専門・認定薬剤師取得を見据えた教育ラダーの作成評価

（研修会実績）

- ・バランススコアカード（BSC）に関する研修（個人目標へのつなげ方）3回
- ・新薬に関する説明会5回
- ・治験薬に関する勉強会7回
- ・がんに関する勉強会10回
- ・学会報告会 11回
- ・病棟関連業務に関するオーディット及び勉強会10回
- ・各種抄読会10回
- ・外部の講師を招聘した勉強会1回

3 目標に対する評価

- ・専門・認定薬剤師の取得を鑑みた教育ラダーを作成し実行する中、認定薬剤師を1名が取得できた
- ・BSCをもとに、各個人の目標管理シートを作成し面談を行いながら目標達成に向かって実施継続
- ・臨床研修センターで協働で行っている新人研修により、新入時から他職種との連携の必要性を学びとれる体制が確立されたことから、チーム医療を早くから意識した業務展開に持ち込めた

4 次年度以降の取り組み

- ・他職種での臨床研修プログラムを協力関係により、さらに充実させ病院全体の医療の質の向上を図る。
- ・26年度のプログラムへは職員からの意見を取り入れさらに内容を充実させる。

5-5 職員研修（医療技術部門）

1 事業概要

- ・地域医療及び専門医療を担うための広範な分野の知識・技術・経験をもつジェネラリスト、専門分野について深い知識やすぐれた技術をもつスペシャリストの育成。
- ・医療技術部門（放射線科部、検査部、臨床工学部、栄養部、リハビリテーション科部）における研修の企画・運営。

2 26年度実績

- ・医療技術研修委員会の開催。（毎月 計12回開催）
- ・院内研修実施（別表参照）

3 目標に対する評価

- ・混合職種に共通して行える研修を企画・運営を行った。

4 次年度以降の取組み

- ・各部門メディカルスタッフへの啓蒙。
- ・メディカルスタッフとしての災害医療への取組み。
- ・能力別到達目標に則した研修プログラムの企画・実践。

5 執行体制

委員長	猪狩	三朗	（放射線科部課長）
委員	皆川	宗輝	（臨床工学部課長）
〃	小河	純	（検査部係長）
〃	小泉	茂雄	（リハビリテーション科部係長）
〃	興水	恵子	（栄養部係長）
〃	落石	祐一	（放射線科部係長）

平成26年度院内研修報告(医療技術部門)		
開催日	研修内容	対象
6月12日	放射線勉強会	検査部
6月19日	放射線被曝勉強会	全医療技術系
6月23日	緊急時対応訓練	放射線科部、看護部、他
6月26日	ファントル君(インシデント報告ツール)の使い方	全医療技術系新入職員
7月1日	アナフィラキシー勉強会	放射線科部、看護部、他
7月8日	造影剤勉強会	放射線科部、看護部、他
7月15日	プレゼンテーション研修	全医療技術系レベルⅢ以上
8月19日	プレゼンテーション研修	全医療技術系レベルⅢ以上
8月26日	プレゼンテーション研修①-1	全医療技術系レベルⅢ以上
9月3日	プレゼンテーション研修①-2	全医療技術系レベルⅢ以上
9月4日	プレゼンテーション研修①-3	全医療技術系レベルⅢ以上
9月12日	プレゼンテーション研修①-4	全医療技術系レベルⅢ以上
9月19日	プレゼンテーション研修②-1	全医療技術系レベルⅢ以上
10月7日	プレゼンテーション研修②-2	全医療技術系レベルⅢ以上
10月16日	患者移動における研修	放射線科部、検査部、リハ部
10月24日	プレゼンテーション研修②-3	全医療技術系レベルⅢ以上
12月4日	プレゼンテーション研修③-1	全医療技術系レベルⅢ以上
2月3日	医療機器安全管理に関する講演	全医療技術系
2月24日	プレゼンテーション研修③-2	全医療技術系レベルⅢ以上

5-6 職員研修（事務部）

1 事業概要

体制を組んで平成24年度から取り組んでいる事務系職員の研修が3年目を迎えた。事務研修委員会の委員が、入職1年目（レベルⅠ）、入職2年目（レベルⅡ）、中堅職員（レベルⅢ）、係長（レベルⅣ）、課長（レベルⅤ）の担当ごとにプログラムを企画し、実施した。特にレベルⅠ、レベルⅡの新人・若手の育成に重きをおき、プログラムを適宜変更しながら、レベルⅠについては体験型研修を導入するなど、コミュニケーションを重視し、職場適応の促進に努めた。

2 平成26年度実績

別表一覧による（「5-6 職員研修(事務研修)」参照）

3 目標に対する評価

レベルⅠについては、知識や業務スキルの習得より、研修を通じて人間関係の円滑化を図るとともに、看護部体験を通じて医療現場に触れたほか、臨床教育研修センター主催の「チーム医療ワークショップ」に参加し、他職種との連携を意識させることができた。

レベルⅡについては、一年目で学習した内容について専門的に学び、また対象者自身が選定した業務上の課題改善に取り組んだ。

レベルⅢについては、外部研修の報告（伝達）を中心に実施し、発表者は研修内容を振り返るとともに、発表のスキルを向上させる機会となり、併せて他職員と研修内容の共有化を図ることができた。

レベルⅣ、Ⅴについては、事務部の目標を意識し、情報の共有化及び組織体制の強化を目的に、業務上の改善課題を抽出し、改善に向けた取り組みを行った。また、病院主催の宿泊研修に参加し、ワークショップを通じて病院の置かれた現状分析及び目指すべき方向性などを討議し、情報共有を行った。

4 次年度以降の取組み

レベルⅣ・Ⅴにおいて、運営側の人員を増員し、研修の充実を図る。

5 執行体制（事務研修委員会）

委員長	事務副部長兼人事課長	三橋 文武
委員	医療情報課長兼経営企画課長	谷 文恵
委員	調度課長	柳田 幸夫
委員	調度課調度係長	鬼頭 仁美
委員	総務課広報係長	土田 文彦
委員	会計課経理係長	林 大輔
委員	外来業務課主任	竹下 奈津実
委員	施設課主事	大野 肇
委員	入院業務課主事	小笠原 聡
事務局	総務課主任	吉田 真沙子

5-6 職員研修（事務職員）

(1) 入職1年目研修【レベルⅠ】対象者：10人

	開催日	研修（勉強会）名称	内容
1	4月1日	【導入研修】 新規採用職員オリエンテーション	「病院の理念・方針」「就業規則・院内各種規程」「社会保険・福利厚生」「医療安全」「個人情報保護法」他
2	4月2日	【導入研修】 新規採用事務職員オリエンテーション	「病院の事務職員としての心構え」「事務の組織体制・役割」「事務部門各部署紹介」「接遇の基本」「研修計画」「院内見学」
3	4月3日～4日	【日赤支部主催研修】 日赤神奈川県支部主催 「新規採用職員基礎研修」	「赤十字の理念・歴史」「災害救護事業」「健康安全事業」「青少年・ボランティア事業」「血液事業」「ライトセンター事業」等
4	4月18日～19日	【基礎研修】 臨床教育研修センター主催 「チーム医療ワークショップ」	「患者が医療者に望むこと」「よい病院とは」「よいチーム医療とは」（以上KJ法）「危険予知トレーニング」等
5	5月12日 ～20日	【体験研修】 事務部門他部署体験研修	他部署の仕事の内容についての理解
6	5月22日～30日	【実務研修】 総合案内シャドー研修	総合案内業務の基本的な知識と対応方法
7	5月29日	【実務研修】 当直業務オリエンテーション	当直業務にかかる必須業務の理解
8	6月初旬 ～6月中旬	【実務研修】 当直業務シャドー研修～1クール目～	先輩職員に付いて当直業務を体験する
9	6月20日 ・26日	【体験研修】 看護部体験オリエンテーション	看護部体験の目的と当日の流れの理解
10	7月2日	【体験研修】 看護部体験研修	各病棟にて「患者とのコミュニケーション」「診療の流れ」「看護実践の見学」「申し送り」「カンファレンスへの参加」「クラーク業務見学」
11	7月初旬 ～7月中旬	【実務研修】 当直業務シャドー研修～2クール目～	先輩職員に付いて当直業務の理解を深める
12	8月12日	【基礎研修】 コミュニケーションスキル研修	「心的距離」「言語的／非言語的コミュニケーション」「危機回避の方法」等
13	8月27日	【実務研修】 当直業務振り返り研修	必須業務の確認、事例検討、トラブル時の対応の仕方等
14	10月30日	【基礎研修】 組織理解研修「病院のしくみ」	当院の沿革、横浜市とのかかわり、病院運営の基本を学ぶ
15	9月18日～ 9月19日他	【日赤支部主催研修】 日赤神奈川県支部主催 「新規採用1年目フォロー研修」	「赤十字の現状と課題」「SNSとの付き合い方」「報告・連絡・相談の基本」「コミュニケーション」
16	11月26日	【基礎研修】 文書研修	文書とは、文書作成の基本、その心がまえ等について学ぶ
17	12月12日	【全職種合同研修】 臨床教育研修センター主催 チーム医療ワークショップ	「良いチーム医療とは」をテーマとしてのワークショップ
18	12月18日	【基礎研修】 会計の基礎（レベルⅡと合同）	仕訳の実務、財務諸表の見方・考え方及び経営分析の考え方について学ぶ
19	2月12日	【実務研修】 総合案内フォロー研修	総合案内業務の経験の摺合せ
20	2月18日	【基礎研修】 理解度テスト	今期の各学習テーマごとの習熟度チェック（効果測定）
21	3月13日	【まとめ研修】 1年間のフォローアップ研修	仕事のこと、その他のことにつき、一年の振り返り

(2) 入職2年目研修【レベルⅡ】対象者：7人

22	6月24日	【基礎研修】 購買・物流研修	物品のコストの意識化 院内物流システムの理解
23	8月22日	【課題抽出】 業務改善のテーマの検討	取り組む業務改善課題の検討～絞り込み
24	9月30日	【基礎研修】 医療保険制度	医療関係法規、保険制度の概要の理解
25	10月24日	【基礎研修】 診療報酬及びDPCについて	診療報酬の仕組み、レセプト作成の実際及びDPCの基本についての理解
26	12月18日	【基礎研修】 会計の基礎（レベルⅠと合同）	仕訳の実務、財務諸表の見方・考え方及び経営分析の考え方について学ぶ
27	1月21日・ 2月13日	【日赤支部主催研修】 新規採用職員2年目フォロー研修会	「赤十字事業全般への参画意識の醸成」「コンプライアンス」「安全（危機）管理」等
28	2月24日	【課題発表】 業務改善成果発表会	取り組んだ業務改善の成果についての発表
29	3月19日	【基礎研修】 理解度テスト	今期の各学習テーマごとの習熟度チェック（効果測定）

(3) 中堅職員(入職3年以上)研修【レベルⅢ】対象者：43人

30	7月29日	【伝達研修】 出張内容伝達の発表会	出張内容について報告する機会を得ることで研修内容の振り返り、他職員との情報共有と併せて発表のスキルを学ぶ
31	11月13日	【日赤支部主催研修】 タイムマネジメント研修	時間管理の基本及びそのスキルについて学ぶ
32	11月21日	【伝達研修】 出張内容伝達の発表会	出張内容について報告する機会を得ることで業務への波及効果を認識すると同時に発表のスキルを学ぶ
33	1月28日 ～1月29日	【日赤支部主催研修】 中堅職員研修会	「赤十字の現状と課題」「中堅職員の立場と役割」「職場の問題発見と改善方法」等
34	2月20日	【日赤支部主催研修】 アサーティブコミュニケーション研修	「アサーティブコミュニケーションにおける聴き方・伝え方」「コミュニケーション上の自身の課題」等
35	2月20日	【伝達研修】 出張内容伝達の発表会	出張内容について報告する機会を得ることで業務への波及効果を認識すると同時に発表のスキルを学ぶ

(4) 係長研修【レベルⅣ】対象者：14人 ・ 課長研修【レベルⅤ】対象者：12人

36	6月17日 ～6月18日	【日赤本社主催研修】 評定者能力向上研修指導者養成研修会	勤務評定における評価の視点、実施上のポイント等について学ぶ
37	9月25日 ～9月26日	【日赤支部主催研修】 現任係長級職員研修会	係長級職員としての責任と役割を再認識させるとともに、部下指導能力の向上を図る
38	10月28日	【管理研修】 課長・係長合同会議	グループごとに業務改善課題を抽出し、策を検討する
39	11月8日	【管理研修】 管理者育成会議	人事評価の視点、ノウハウを学ぶ
40	11月19日	【管理研修】 課長・係長合同会議	グループごとに業務改善課題を抽出し、策を検討する
41	1月22日	【管理研修】 課長・係長合同会議	事務部の年度目標に対する行動評価
42	1月30日 ～1月31日	【管理者育成研修】 多職種合同研修	「当院の強み・弱み」「当院のミッション」「当院のビジョン」(以上KJ法)、「医療BSC」「急性期病院の近未来」(受講)

6 院外からの研修受入れ

6-1 院外からの研修受入れ（看護部）

1 事業概要

看護教育への貢献及び当院職員の資質向上のために教育研修を受け入れている。

2 26年度実績

(1) 看護基礎教育実習：326名

（日本赤十字看護大学、創価大学、神奈川県立よこはま看護専門学校、神奈川県立衛生看護専門学校、横浜市病院協会看護専門学校、横浜市医師会看護専門学校）

(2) 卒後教育研修：14名

・大学院修士課程：8名

日本赤十字看護大学大学院：がん看護学4名・国際助産学2名
看護教育学1名、災害看護学1名

・認定看護師課程：2名

日本赤十字看護大学看護実践・教育・研究フロンティアセンター
：認知症看護2名

・認定看護管理者課程4名

日本赤十字幹部看護師研修センター：認定看護管理/ファーストレベル2名
神奈川県立保健福祉大学教育実践センター：認定看護管理/サードレベル1名
独立行政法人地域医療機能推進機構本部センター：

認定看護管理/サードレベル1名

(3) その他：10名

・赤十字医療施設東部ブロック施設体験：10名

3 目標に対する評価

今年度、看護基礎教育は昨年受け入れた大学（創価大学）の基礎看護学実習Ⅱ、看護専門学校（神奈川県立衛生看護専門学校）の精神看護学実習の受け入れを追加した。基礎教育実習指導については、学校との間で教員と実習指導者の役割を明確にして、教員と実習指導者との連携を密にして取り組み、実習目標達成に向けて支援ができた。

また、臨床指導委員会では部署の特性がわかるオリエンテーションマニュアルの作成や指導事例を共有して問題解決を進めた。

日本赤十字看護大学実習指導者研修が2年目となり、実習指導者の育成に効果を挙げている。研修で他院の実習指導を直接見る機会があるため、自己の実習指導の評価ができ好評である。

卒後教育研修については、実習指導はその領域の専門看護師・認定看護師・看護管理者が中心に指導し実習目標達成を支援した

実習を受け入れることで、看護職員の役割開発や今後のキャリア開発において効果的な動機づけになり有意義である。

4 次年度以降の取組み

次年度は、神奈川県立の看護専門学校の学生の受け入れを増やすことに協力する。大学の实習についても小児看護学実習の追加やカリキュラムの変更に伴う実習を増やしていく予定である。

学生の受け入れにあたり、次年度も外部の実習指導者研修課程、日本赤十字看護大学

での実習指導者研修を活用して実習指導者の養成に力を入れていく。

5 執行体制

- ・看護副部長：高橋 千香子（実習担当）
- ・看護師長：池脇 美和（臨床指導委員会）
- ・実習指導者：各病棟実習指導者

6 データ（※平成 26 年度実績 資料添付）

1) 実習受け入れ人数

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
看護基礎教育実習	414	330	306	314	326
卒後教育	14	12	9	19	14
その他	0	1	1	1	10

2) 実習指導者研修修了者数

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
実習指導者研修修了者数	9 名	11 名	15 名
<u>(新規実習指導者研修修了者数)</u>	<u>2 名</u>	<u>2 名</u>	<u>2 名</u>
内訳			
神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター実習指導者養成 教育	2 名	2 名	1 名
東海大学実習指導者講習会	0 名	0 名	1 名
昭和大学看護師実習指導者講習会	0 名	0 名	0 名
※日本赤十字看護大学 実習指導者研修終了者数		5 名	15 名

実習指導者研修修了者数には看護師長、日本赤十字看護大学実習指導者研修終了者数は含めず

平成26年度 看護基礎教育実習病棟別受入実績 2015.3.31現在

	4月				5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
8階	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
	日本赤十字看護大学																																																						
7A	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
	創価大学																																																						
7B	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
	創価大学																																																						
7C	日本赤十字看護大学																																																						
	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
7D	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
	日本赤十字看護大学																																																						
6A	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
	日本赤十字看護大学																																																						
6B	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
	横浜市医師会看護専門学校																																																						
6C	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
	日本赤十字看護大学																																																						
6D	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
	横浜市医師会看護専門学校																																																						
5C(産科)	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
	横浜市医師会看護専門学校																																																						
5D(小児科)	横浜市医師会看護専門学校																																																						
5A(精神科)	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
在宅	神奈川県立よこはま看護専門学校																																																						
	一般病棟の学生数合計																																																						
	0	0	2	20	20	20	20	20	25	30	25	13	13	15	25	10	0	0	20	40	34	34	36	9	24	26	5	10	13	21	23	25	12	16	6	0	0	0	40	40	20	35	25	0	0	0	0								
	*参考																																																						
	日本赤十字看護大学(国際助産学専攻)																																																						

23年度	24年度	25年度	26年度
実習回数	実習回数	実習回数	実習回数

5	6	7	7
5	6	7	8
5	6	6	6
8	6	6	5
7	6	6	6
8	6	7	6
7	5	6	7
5	6	6	7
6	6	7	6
9	9	7	8
5	5	6	5
			3
			7

平成26年度卒業後教育受入実績 2015.3.31現在

	4月		5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月																									
			5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	6	13	20	27	2	9	16	23	30	6	13	20
5C	日本赤十字看護大学大学院 (国際助産学)																																																									
5A・7B	日本赤十字看護大学 看護実践・教育・研究フロンティアセンター (認知症看護コース)																																																									
7D	日本赤十字看護大学大学院 (看護教育学)																																																									
2F(緩和)	日本赤十字看護大学大学院 (がん看護学 I)																																																									
災害	日本赤十字看護大学大学院 (災害看護学)																																																									
7D・救急	日本赤十字社幹部看護師研修センター (赤十字看護管理研修 I)																																																									
看護部	神奈川県立保健福祉大学教育・実践センター (認定看護管理者サードレベル)																																																									
看護部	独立行政法人地域医療機能推進機構本部研修センター (認定看護管理者サードレベル)																																																									
卒業教育の学生数合計																																																										

6-2 院外からの研修受入れ（薬剤部）

1 事業概要

薬科大学実務実習（11週間）の実務教育を中心に、薬科大学早期体験実習や要請があれば国際医療技術財団によるJICA集団研修「病院薬学」コースの実習病院として院外学生受入を実施している

2 26年度実績

- ・実務実習 I期4名 II期 3名 III期3名 計10名
（横浜薬科大学5名 東京薬科大学1名 星薬科大学2名 帝京大学2名）
- ・早期体験実習 2大学24名（横浜薬科大学、星薬科大学）

3 目標に対する評価

実務実習では、主にコアカリキュラムに則したプログラムを前提に、臨床現場での充実した実践的な実習を目的として、学生一人一人に指導担当者を置くチューター制を導入し、きめ細かい指導を行った。

4 次年度以降の取組み

27年度は26年度の全病棟において病棟薬剤師2病棟3人体制が完成したことから、更なる病棟薬剤業務の充実を目指しており、実務実習においてもより臨床に近い形で病棟業務の理解を深めていけるように症例報告等においても充実を図りたい。また、提携大学数の拡大も行う。

5 執行体制

- ・実務実習担当責任者 猪股 克彦（部長）
- ・実務実習担当窓口 井口 恵美子（副部長）
- ・認定実務実習指導薬剤師 8名

6 データ

研修名	23年	24年	25年	26年
実務実習	13名	12名	12名	10名
早期体験実習	12名	15名	20名	24名
JICA研修	4名	4名	4名	0名※

※26年度は研修自体が実施されず

6-3 院外からの研修受け入れ（リハビリテーション科部）

1 事業概要

リハビリテーション実習生の受け入れ

2 26年度実績

理学療法士学生評価実習	1名
理学療法士学生臨床実習	2名
作業療法士学生臨床実習	1名

3 目標に対する評価

理学療法士学生評価実習については、当初の予定1名を受け入れた。
理学療法士学生臨床実習については、当初の予定2名を受け入れた。
作業療法士学生臨床実習については、当初の予定1名を受け入れた。
いずれも実習生に対し、十分な臨床体験をさせることができた。

4 次年度以降の取り組み

次年度について、理学療法士実習生は前年度同様の受け入れを行う。また、作業療法士実習生についても昨年同様の受け入れを行う。なお、言語聴覚士実習生については、今後受け入れの方向で準備を進める。

5 執行体制

実習指導責任者:高木 明 高瀬 美季

実習指導者:福澤 賢 桑田 淳子 引頭 彩 木村 翠 竹下 昌広
吉武 秀和 高橋 有加 芹澤 健輔 林 悟

6 データ

【実習生受け入れ状況】

平成24年度	5名
平成25年度	3名
平成26年度	4名

7 職員

7-2職員配置状況

職 種	配置 人員数	内 訳			備 考	
		常勤	非常勤	派遣職員等		
管 理 部 門	事 務 職 員	181.1	54	13.1	114	看護師3名含む
	技 術 職 員	4.0	4	-	-	
	運 転 手	0.0	-	-	-	
	ボイラー技師	0.0	-	-	-	
	電 話 交 換 手	2.0	1	-	1	
診 療 部 門	医 師	197.7	186	11.7	-	
	歯 科 医 師	3.1	3	0.1	-	
看 護 部 門	看 護 師	596.4	585	11.4	-	
	准 看 護 師	2.0	2	-	-	
	看 護 助 手	71.3	23	30.3	18	
	事 務 職 員	19.0	2	1	16	保育士1人含む
健 診 部 門	看 護 師	6.0	6	-	-	
	事 務 職 員	8.0	2	-	6	
連 携 部 門	社 会 福 祉 士	4.0	4	-	-	
	精神保健福祉士	3.0	3	-	-	
	看 護 師	5.0	5	-	-	
	事 務 職 員	10.0	6	1.0	3	
検 査 ・ 医 療 技 術 部 門	薬 剤 師	35.0	35	-	-	
	診療放射線技師	31.0	31	-	-	
	臨床検査技師	41.0	41	-	-	衛生検査技師1含む
	理学療法士	17.0	17	-	-	
	作業療法士	6.0	6	-	-	
	言語聴覚士	5.0	5	-	-	
	マッサージ師	0.0	-	-	-	
	臨床工学技士	11.0	11	-	-	
	視能訓練士	2.0	2	-	-	
	歯科衛生士	4.0	3	1.0	-	
	臨床心理士	2.0	2	-	-	
	管理栄養士	7.1	7	0.1	-	
	栄 養 士	0.0	-	-	-	
	調 理 師	6.0	6	-	-	
	事 務 職 員	2.0	-	-	2	治験事務の派遣
その他	5.1	2	1.1	2	アレルギーセンター事務5.0 同臨床検査技師0.1	
合 計	1286.8	1054	70.8	162		

7-3診療科責任体制

部門名	現員	職名	氏名	備考
1 (幹部)	4.0	院長	四宮 謙一	
		副院長	小森 博達	
		副院長	渡辺 孝之	
		副院長	持松 泰彦	
2 救命救急センター	1.0	センター長	八木 啓一	
		副センター長	欠	
3 救急部	8.5	診療科部長	伊藤 敏孝	
		副部長	中山 祐介	
4 集中治療部	9.1	診療科部長	武居 哲洋	
		副部長	欠	
5 内科	6.0	診療科部長	(渡辺 孝之)	兼務
		副部長	欠	
6 糖尿病内科	6.0	診療科部長	(渡辺 孝之)	兼務
		副部長	欠	
7 内分泌内科	6.0	診療科部長	太田 一樹	
		副部長	欠	
8 血液内科	4.0	診療科部長	山本 晃	
		副部長	欠	
9 腎臓内科	3.0	診療科部長	欠	
		副部長	藤澤 三	
10 膠原病リウマチ内科	3.2	診療科部長	萩山 裕之	
		副部長	欠	
11 緩和ケア内科	1.3	診療科部長	小尾 芳郎	
		副部長	欠	
12 呼吸器内科	7.0	診療科部長	河崎 勉	
		副部長	欠	
13 消化器内科	12.1	診療科部長	有村 明彦	
		副部長	永山 和直	
14 肝・胆・膵内科	11.0	診療科部長	先田 信哉	
		副部長	欠	
15 心臓不整脈先進診療科	11.0	診療科部長	沖重 薫	
		副部長	青柳 秀史	
16 心臓血管先進診療科	11.0	診療科部長	欠	
		副部長	倉林 学	
17 神経内科	5.1	診療科部長	田中 宏明	
		副部長	欠	
18 総合アレルギー内科	2.4	診療科部長	中村 陽一	
		副部長	欠	
19 喘息アレルギー内科	7.0	診療科部長	遠藤 順治	
		副部長	欠	
20 精神科	7.0	診療科部長	嶋津 奈	
		副部長	欠	
21 小児科	13.3	診療科部長	菊池 信行	
		副部長	堀口 晴子	
22 小児神経科	13.3	診療科部長	欠	
		副部長	欠	
23 外科	10.7	診療科部長	杉田 光隆	
		副部長	欠	
24 食道・胃外科	10.7	診療科部長	小野 秀高	
		副部長	欠	
25 大腸外科	10.7	診療科部長	欠	
		副部長	(杉田 光隆)	兼務
26 肝・胆・膵外科	10.7	診療科部長	欠	
		副部長	馬場 裕之	
27 救急外科	3.3	診療科部長	清水 大輔	
		副部長	欠	
29 整形外科	9.1	診療科部長	(小森 博達)	兼務
		副部長	欠	
30 手外科・上肢外傷	9.1	診療科部長	若林 良明	
		副部長	品田 春生	
31 整形・脊椎外科	9.1	診療科部長	佐々木 真一	
		副部長	沼野 藤希	
32 整形・関節外科	9.1	診療科部長	浅野 浩司	
		副部長	欠	
33 形成外科	3.3	診療科部長	伊藤 理	
		副部長	矢野 智之	
34 脳神経外科	4.1	診療科部長	(持松 泰彦)	兼務
		副部長	欠	
35 間脳下垂体外科	4.1	診療科部長	(持松 泰彦)	兼務
		副部長	欠	
36 呼吸器外科	1.1	診療科部長	下山 武彦	
		副部長	欠	
37 心臓血管外科	4.9	診療科部長	田淵 典之	
		副部長	欠	
38 心臓大動脈外科	4.9	診療科部長	伊藤 智	
		副部長	欠	
39 皮膚科	3.1	診療科部長	渡邊 薫	
		副部長	欠	
40 泌尿器科	5.0	診療科部長	土屋 公弘	
		副部長	村上 貴之	
41 産婦人科	9.1	診療科部長	多田 聖郎	
		副部長	和知 敏樹	
42 婦人腫瘍外科	9.1	診療科部長	(多田 聖郎)	兼務
		副部長	高橋 慎治	
43 眼科	2.4	診療科部長	椎野 めぐみ	
		副部長	欠	
44 耳鼻咽喉科	3.3	診療科部長	新井 基洋	
		副部長	牧山 祐希	
45 リハビリテーション科	1.6	診療科担当部長	新井 雅信	
		副部長	日野 太郎	
46 放射線診断科	2.6	診療科部長	大谷 洋一	
		副部長	欠	
47 放射線治療科	2.6	診療科部長	(大谷 洋一)	兼務
		副部長	荻 成行	
48 麻酔科	6.1	診療科部長	西村 一彦	
		副部長	欠	
49 歯科口腔外科	3.1	診療科部長	向山 仁	
		副部長	中島 雄介	
50 病理診断科	1.9	診療科部長	熊谷 二朗	
		副部長	欠	
51 健診部	1.1	診療科部長	伊藤 美奈子	
		副部長	欠	
52 臨床研修医	27.0	初期研修医	27名	
診療科計	200.8			

7-4看護部門責任体制

	部門名	職名	氏名	看護師・ 助産師等	看護助手	事務・ クレーク
1	看護部	部長	鈴木 恵子	51.1	1.0	2.0
		副部長	乾 尚美			
		副部長	高橋 千香子			
		副部長	間瀬 照美			
		師長	小笠原 利枝			
2	外来	師長	君 めぐみ	30.0	5.8	0.0
		係長	小森 悦子			
		係長	丸 京子			
3	手術室	師長	永井 妙子	34.0	1.0	1.0
		係長	安慶名あすか			
4	8階病棟	師長	鈴木 美由紀	27.8	3.0	1.0
		係長	日高 一枝			
5	7階A病棟	師長	才間 良子	29.0	5.0	1.0
		係長	金丸 由香里			
		係長	金井 奏子			
6	7階B病棟	師長	曾我 智恵子	26.0	6.0	1.0
		係長	服部 祐子			
7	7階C病棟	師長	水野 桂子	28.0	4.0	1.0
		係長	欠			
8	7階D病棟	師長	三好 礼子	28.0	5.0	1.0
		係長	岩崎 薫			
9	6階A病棟	師長	欠	31.7	6.0	1.0
		係長	大坪 千智			
		係長	角屋 真紀			
		係長	名波 会里子			
10	6階B病棟	師長	池脇 美和	32.0	4.0	1.0
		係長	熊谷 宏子			
11	6階C病棟	師長	中島 まさ子	28.0	4.0	1.0
		係長	黒高 恵			
		係長	岡崎 春美			
12	6階D病棟	師長	宮内 まゆみ	28.0	7.0	1.0
		係長	吉田 晴代			
13	精神科病棟	師長	上野 優美	27.0	1.0	1.0
		係長	橋村 抄子			
		係長	角崎 幸子			
14	産婦人科病棟	師長	藤木 佳代子	36.0	3.0	1.0
		係長	高野 恵			
15	小児科病棟	師長	堤 亜希子	34.4	2.0	2.0
		係長	藤田 紀子			
16	救急病棟	師長	石鉢 一美	36.6	4.5	1.0
		係長	葦沢 樹美栄			
		係長	今成 亮			
17	集中治療室	師長	橋本 幸子	48.0	3.0	1.0
		係長	鈴木 聡子			
		係長	石田 和美			
		係長	佐藤 里美			
18	緩和ケア病棟	師長	角藤 厚美	22.8	2.0	1.0
		係長	中川 幸枝			
19	透析・検査	師長	福家 修子	20.0	4.0	0.0
		係長	高松 直子			
	職種別計			598.4	71.3	19.0
	看護部計			688.7		

*派遣・委託職員を含む。事務・クレークに保育士を含む。

7-5健診部門責任体制

	部門名	現員	職 名	氏 名	備 考
	健診センター	14.0	センター長	(伊藤 美奈子)	医師・兼務
			健診課長	安倍 美枝	事務職員
			健診係長	欠	

7-6医療連携部門責任体制

	部門名	現員	職 名	氏 名	備 考
	医療連携センター	22	センター長	(持松 泰彦)	医師・兼務
			地域医療連携課	池田 充	事務職員
			地域医療連携係	北村 聖奈	事務職員
			医療社会事業課	渡邊 貴子	看護職員
			医療社会事業係	金井 緑	社会福祉士

*派遣の事務職員を含む。

7-7検査・医療技術部門責任体制

	部門名	現員	職名	氏名	備考
1	薬剂部	37	部長	猪股 克彦	薬剂師
			副部长	井口 恵美子	薬剂師
			調剂課長	(井口 恵美子)	薬剂師・兼務
			医薬品管理課長	平田 周佑	薬剂師
			薬剂部付係長	吉見 哲	薬剂師
			薬剂部付係長	細内 和政	薬剂師
			薬剂部付係長	宮崎 百合	薬剂師
			薬剂部付係長	阿部 多一	薬剂師
2	放射線科診断部	31	部長	(大谷 洋一)	医師・兼務
			副部长	欠	
			放射線診断課長	宮沢 明	診療放射線技師
			放射線科部付係長	青木 敏博	診療放射線技師
			放射線科部付係長	猪狩 三朗	診療放射線技師
3	放射線科治療部		部長	(大谷 洋一)	医師・兼務
			副部长	(荻 成行)	医師・兼務
			放射線治療課長	(宮沢 明)	診療放射線技師・兼務
4	病理診断科部		部長	(熊谷 二郎)	医師・兼務
5	検査部	41	部長	(熊谷 二郎)	医師・兼務
			臨床検査課長	鈴木 清	臨床検査技師
			検査部付係長	山村 信一	臨床検査技師
			検査部付係長	熊谷 正純	臨床検査技師
			検査部付係長	酒井 雄一郎	臨床検査技師
			病理検査課長	欠	
6	リハビリテーション科部	28	担当部長	(新井 雅信)	医師・兼務
			副部长	(日野 太郎)	医師・兼務
			リハビリテーション課長	池田 潔	理学療法士
			リハビリテーション係長	小泉 茂雄	理学療法士
7	精神科部	2	部長	(嶋津 奈)	医師・兼務
			副部长	欠	
			臨床心理課長	欠	
			臨床心理係長	欠	
8	眼科部	2	部長	(椎野 めぐみ)	医師・兼務
			副部长	欠	
			視能訓練課長	欠	
			視能訓練係長	欠	
9	歯科口腔外科	4	部長	(向山 仁)	医師・兼務
			副部长	(中島 雄介)	医師・兼務
			歯科衛生・技工課長	欠	
			歯科衛生・技工係長	欠	
10	臨床工学部	11	部長	(田渕 典之)	医師・兼務
			副部长	欠	
			臨床工学課長	皆川 宗輝	臨床工学技士
			臨床工学係長	大谷 英彦	臨床工学技士
11	栄養部	13.1	部長	(太田 一樹)	医師・兼務
			副部长	(藤澤 一)	医師・兼務
			栄養課長	(柳田 幸夫)	事務職員・兼務
			栄養係長	輿水 恵子	管理栄養士
			調理係長	欠	
	検査・医療技術部門計	169.1			

7-8 管理部門責任体制

	部門名	現員	職名	氏名	備考
1	医療情報センター	15.2	センター長	(山本 晃)	医師・兼務
			医療情報課長	谷 文恵	看護職員
			医療情報係長	小泉 敬一	事務職員
			経営企画課長	(谷 文恵)	看護職員・兼務
			経営企画係長	(小泉 敬一)	事務職員・兼務
2	医療安全推進室	3.0	室長	(小森 博達)	医師・兼務
			医療安全推進課長	三上 久美子	看護職員
			安全推進係長	欠	
			サービス係長	欠	
3	事務部	168.9	部長	小山田 茂夫	事務職員
			副部長	三橋 文武	事務職員
			総務課長	蔭山 智彦	事務職員
			総務・社会係長	高野 雄太	事務職員
			広報係長	土田 文彦	事務職員
			横浜市担当係長	永田 恵	事務職員
			人事課長	(三橋 文武)	事務職員・兼務
			人事係長	浅井 道久	事務職員
			職員係長	青木 めぐみ	事務職員
			会計課長	三浦 裕之	事務職員
			経理係長	林 大輔	事務職員
			出納係長	欠	
			調度課長	柳田 幸夫	事務職員
			調度係長	鬼頭 仁美	事務職員
			物品管理係長	欠	
			物流係長	欠	
			施設課長	久慈 直彦	事務職員
			施設係長	欠	
			供給係長	欠	
			入院業務課長	大堀 浩	事務職員
			入院係長	照木 信晴	事務職員
			救急係長	欠	
			病歴係長	芳野 知子	事務職員
外来業務課長	津々楽 泰江	事務職員			
外来係長	欠				
医療秘書係長	欠				
管 理 部 門 計		187.1			

8 施設管理

8-1 医療機器の整備状況

購入単価500万円以上のもの

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管 理・診療等)	機器名称	用途	新規・更新
1	診療	循環器系 X線診断装置	循環器内科治療用	更新
2	看護	ナースコールシステム	病棟用	更新
3	診療	結石破砕装置	泌尿器科治療用	更新
4	管理	勤怠管理支援システム	コメディカル勤務管理用	新規
5	診療	電動式ドリルシステム	脳神経外科手術用	更新
6	診療	高周波手術装置	外科手術用	新規
7	中央	電動式手術台	手術用	更新
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

8 - 2 施設設備改修報告

(平成26年度)

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管理・診療等)	施設・設備名称	面積(m ²)	用途	新規・修繕
1	敷地内屋外	敷地内屋外サイン改修工事		敷地内案内	修繕
2	3階心臓カテーテル室	機器更新に伴う室内改修工事	89.1m ²	心臓カテーテル手術用	修繕
3	3階第一医局	医局室内改修工事	643.6m ²	医師増員に伴う医局室内のレイアウト変更	修繕
4	3階第三医局・当直室	用途変更に伴う室内改修工事	78.3m ²	研修医師増員及び当直室不足に伴う改修工事	修繕
5					
6					
7					

8-3 施設設備管理報告 法定及び自主点検業務

法定点検業務等	点検種別	周期	平成26年(2014年)												平成27年(2015年)			関連法規及び保守管理基準
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
			実 施 月															
特定建築物	定期検査	1回/1~3年								●								建築基準法
昇降機設備	定期検査	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
自家用電気工作物	定期検査	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	電気事業法
ボイラー	性能検査	1回/年			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
第1種圧力容器	性能検査	1回/年		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
コンドミニアム	性能検査	1回/年				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
第2種圧力容器	自主検査	1回/年			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
小型ボイラ設備	自主検査	1回/年			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
簡易専用水道	定期検査	1回/年								●	●	●	●	●	●	●	●	水道法
カスタービン(ガス圧縮機)	定期検査	1回/3年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	電気事業法
消防設備	定期検査	2回/年				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	消防法
地下タンク貯蔵所	定期検査	1回/3年																消防法(27年度実施予定)
避難はしご点検設備	自主点検	2回/年				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	消防法
高圧ガス製造設備	自主点検	1回/年								●	●	●	●	●	●	●	●	高圧ガス保安法
医療ガス設備	定期点検	4回/年		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	高圧ガス保安法
特定施設(水質測定)	定期点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	下水道法
ばい煙測定	定期検査	2回/年		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	大気汚染防止法
特高受変電設備定期検査	定期検査	1回/年								●	●	●	●	●	●	●	●	電気事業法
高圧受変電設備定期検査	定期検査	1回/年								●	●	●	●	●	●	●	●	電気事業法
無停電電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年										●	●	●	●	●	●	電気事業法
(非常用照明)	定期検査	(1回/年)																電気事業法
直流電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年																電気事業法
電力中央監視設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年													●	●	●	電気事業法
建築設備定期検査	定期検査	1回/年								●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
受水槽・高架水槽定期清掃	定期検査	1回/年									●	●	●	●	●	●	●	水道法
飲料水水質検査	定期検査	2回/年									●	●	●	●	●	●	●	水道法
害虫定期駆除	定期検査	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法

機能維持に関する保守管理等	管理種別	周期	平成26年(2014年)												関連法規及び保守管理基準			
			実施月															
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
放送呼出装置	自主点検	2回/年				●									●			消防法
アースコントロール・インターホン設備	自主点検	2回/年				●									●			メーカー標準点検
昇降機設備	自主点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
冷凍機設備	自主点検	3回/年	●	●														メーカー標準点検
冷却塔設備	自主点検	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
空調調和設備	機能点検	2回/年																自主点検
空調自動制御設備	自主点検	1回/年																メーカー標準点検
各種水槽設備	清掃	1回/年		●														横浜市条例
検査系排水処理設備	定期点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検
R1排水処理設備	自主点検	2回/年				●											●	放射線障害防止法
自動ドア設備	自主点検	2回/年				●												メーカー標準点検
駐車場管制設備	自主点検	2回/年				●												メーカー標準点検
搬送設備	自主点検	2回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検
冷却塔補給水薬注装置	自主点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
厨房グリスタフィルター定期清掃業務	清掃	4回/年			●													自主管理
厨房グリスタラップ定期清掃業務	清掃	6回/年	●	●		●												ビル管理法

その他の保守管理業務	管理種別	実施回数	平成26年(2014年)												関連法規及び保守管理基準			
			実施月															
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
空調機等フィルター交換(洗浄)	洗浄	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	汚れが認められたら交換
窓清掃	清掃	2回/年			●							●						汚れにより適宜行う
エチレンオキシド環境測定	定期点検	2回/年		●								●						労働安全衛生法
ホルムアルデヒド作業環境測定	定期点検	2回/年				●									●			労働安全衛生法

8-4 外部委託

1 事業概要

病院業務の効率化を図るため、業務の一部を外部委託する

2 26年度実績

別紙1のとおり24の業務について外部委託した

3 目標に対する評価

それぞれの業務について主管部署による評価を行い、一部を除き概ね良好な結果であった

4 次年度以降の取組み

主管部署からの評価が著しく悪く、改善の見込みのない受託者は次年度から変更する

5 執行体制

平成26年度の業務委託状況

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者（会社名）	主管部署
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	エームサービス 株式会社	栄養課
2	中央滅菌材料室・手術室器材の洗浄・滅菌業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務	日本ステリ株式会社	調度課
3	検体検査業務	検体検査業務	株式会社ビー・エム・エル	検査部
4	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	株式会社柴橋商会	調度課
5	寝具貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具貸借業務、洗濯全般業務	株式会社サビーム・ランドリー	調度課
6	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPDの白衣及びタオルのリース	株式会社柴橋商会	調度課
7	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPD以外の白衣のリース	株式会社サビーム・ランドリー	調度課
8	SPD物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	ホスピタルパートナーズ株式会社	調度課
9	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務 薬品在庫管理業務 配置定数薬の補充管理業務 搬送業務等	東邦薬品株式会社	薬剤部
10	医事関連業務	外來部門の計算・受付・ケア業務及び保険請求関連業務	株式会社 ソラスト	入院業務課 外來業務課
11	健診センター関連業務	受診者対応、会計・計算業務等	株式会社 ソラスト	健診センター
12	医療情報センター関連業務	医事統計の作成、データ分析、システム障害対応等	株式会社 ソラスト	医療情報課
13	病棟クラーク業務	入退院手続、書類作成、入院患者の面会者対応	株式会社日本教育クリエイト	看護部
14	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	株式会社ホビンスコーポレーション	総務課
15	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	高砂丸誠 エンジニアリングサービス株式会社	施設課
16	警備業務	院内外の警備業務	国際警備株式会社	施設課
17	清掃業務	外回り外來部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	高砂丸誠 エンジニアリングサービス株式会社	施設課
18	産業廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
19	一般廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
20	感染性廃棄物収集運搬処理業務	院内から出される感染性廃棄物の収集運搬及び処理業務	株式会社トキヨ薬品化工	施設課
21	医薬品（医療ガス）供給業務	医療用液体酸素・医療用液体窒素・医療用酸素ガス等の供給業務	株式会社イワサワ	施設課
22	ナースコール設備保守点検	ナースコール設備保守点検	株式会社ケアコム	施設課
23	院内ネットワークシステム保守点検	院内LANシステム保守点検	富士ゼロックス神奈川株式会社	医療情報課
24	自動尿測定システム保守点検	自動尿測定システム保守点検	円田医科工業株式会社	施設課

9 經營報告

9 - 1 稼働状況等報告

別紙のとおり

平成26年度

診療科別患者数等管理数値

診療科	外来(244日)						入院(365日)						救急患者							
	新患者数		延患者数		1日平均		新入院数		退院数		延患者数		1日平均		在院日数		全体	救急車	入院	入院率
	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度
	1,067	1,022	1,820	1,729	7	7	140	91	4	222	161	0	1.1	13.2	1,327	171	198	14.9		
総合内科	600	644	14,784	12,864	61	53	261	274	311	4,609	4,887	13	13.2	93	66	73	78.5			
糖尿病内分泌内科	224	221	3,864	3,416	16	14	328	266	337	7,925	7,075	22	25.6	64	39	59	92.2			
血液内科	260	190	4,447	3,816	18	16	195	106	252	4,004	2,201	11	17.0	73	54	69	94.5			
腎臓内科	258	291	6,766	6,656	28	27	100	139	128	2,720	2,918	7	17.6	35	17	26	74.3			
膠原病リウマチ科	174	156	474	328	2	2	117	118	224	6,860	6,799	19	33.0	6	4	6	100.0			
緩和ケア内科	1,327	1,379	11,470	11,302	47	46	1,147	1,064	1,110	19,502	20,619	53	18.6	811	514	612	75.5			
呼吸器内科	2,912	3,113	23,374	21,090	96	86	1,852	1,634	1,798	21,174	22,522	58	12.7	1,543	541	748	48.5			
消化器内科	1,238	1,281	14,014	13,582	57	56	1,686	1,740	1,684	15,545	15,496	43	7.7	695	404	509	73.2			
循環器内科	636	622	6,162	6,111	25	32	518	432	534	14,184	10,608	39	24.1	439	314	384	87.5			
神経内科	289	315	4,909	4,535	20	19	46	33	48	237	373	1	7.3	97	28	35	36.1			
アレルギー科	4,617	4,674	17,483	16,621	72	68	1,345	1,218	1,348	6,868	6,828	19	3.2	3,369	675	447	13.3			
小児科	655	659	10,135	10,283	42	42	1,157	1,136	1,192	13,385	16,414	37	12.0	343	166	255	74.3			
外科	540	501	6,604	5,559	34	32	226	187	221	1,953	1,756	5	8.3	56	11	18	32.1			
乳腺外科	17	20	1,339	1,465	9	10	72	59	80	792	856	2	10.2	6	2	2	33.3			
呼吸器外科	106	61	789	649	8	6	104	91	118	2,538	2,372	7	20.7	30	21	26	86.7			
心臓血管外科	730	783	3,664	3,888	25	27	307	265	327	6,914	6,723	19	20.1	569	223	252	44.3			
脳神経外科	3,139	3,481	23,961	26,636	124	138	1,277	1,232	1,362	22,380	23,346	61	16.6	955	309	311	32.6			
整形外科	841	910	6,509	6,395	34	33	176	181	188	2,126	2,373	6	9.7	386	22	17	4.4			
形成外科	1,722	1,993	11,409	12,758	47	52	121	148	123	1,640	2,277	4	12.7	236	19	31	13.1			
皮膚科	1,242	1,234	15,014	14,607	62	60	816	793	801	6,886	6,361	18	6.8	375	68	78	20.8			
泌尿器科	2,172	1,942	33,011	29,774	135	122	1,478	1,408	1,481	10,972	10,017	30	5.7	1,164	109	754	64.8			
産婦人科	465	763	7,745	9,158	32	38	115	234	116	410	905	1	2.9	25	2	2	8.0			
眼科	1,932	2,227	11,268	11,446	46	59	413	308	414	2,362	2,146	6	5.8	142	19	24	16.9			
耳鼻いんこう科	12	8	712	511	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0			
リハビリテーション科	388	479	9,699	10,381	50	54	177	194	207	9,287	9,334	25	46.7	62	26	53	85.5			
精神科	1,363	1,415	1,581	1,652	6	7	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0			
放射線診断科	63	76	4,576	4,482	19	18	34	58	29	739	1,071	2	17.4	1	1	1	100.0			
放射線治療科	2,225	1,873	12,207	11,271	50	46	292	218	290	623	658	2	1.2	16	6	3	18.8			
歯科口腔外科	7,930	6,895	11,379	9,864	31	27	838	762	643	8,116	8,016	22	8.8	10,995	8,870	862	7.8			
救急科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
平成26年度 合計	39,144	39,228	281,169	272,829	1,152	1,118	15,338	14,389	15,370	194,773	195,112	534	11.4	23,913	12,701	5,855	24.5			
平成26年度統計	病床利用率・・・84.2%	紹介率・・・77.5%	逆紹介率・・・61.2%	分娩件数・・・1071件																
平成25年度統計	病床利用率・・・86.4%	紹介率・・・95.4%	逆紹介率・・・58.7%	分娩件数・・・958件																

診療科	外来診療収入						入院診療収入						入外合計額				手術		
	診療収入		収入単価		診療収入		診療収入(室料差額除)		収入単価		当年度	前年度	当年度平均	前年度平均	当年度	前年度	当年度	前年度	
	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度	当年度	前年度									
総合内科	23,981	23,039	13,177	13,325	22,139	17,141	21,222	16,725	103,882	95,595	103,882	46,120	40,180	3,348	0	0	0	0	
糖尿病内分泌内科	186,023	162,299	12,583	12,617	212,091	225,227	204,093	217,658	44,538	44,281	44,538	398,114	387,526	32,294	0	1	1	1	
血液内科	175,824	169,556	45,503	49,636	595,328	521,650	581,551	510,814	72,200	73,382	72,200	771,151	691,206	57,601	0	0	0	0	
腎臓内科	68,863	58,683	15,485	15,378	231,572	113,988	228,165	110,490	50,200	56,984	50,200	300,435	172,671	14,389	67	33	33	33	
膠原病リウマチ科	170,218	176,118	25,158	26,460	121,043	147,246	116,500	142,565	48,857	42,831	48,857	291,260	323,364	26,947	0	0	0	0	
緩和ケア内科	2,563	2,122	5,407	6,469	368,018	355,842	324,904	313,697	46,139	47,362	46,139	370,581	357,964	29,830	0	0	0	0	
呼吸器内科	176,078	164,641	15,351	14,567	947,668	1,016,858	888,975	954,596	46,297	45,584	46,297	1,123,746	1,181,498	98,458	2	0	0	0	
消化器内科	313,040	270,485	13,393	12,825	1,258,504	1,271,445	1,193,344	1,207,685	53,622	56,359	53,622	1,571,544	1,541,930	128,494	0	0	0	0	
循環器内科	204,000	179,728	14,557	13,233	2,491,486	2,529,477	2,458,732	2,497,899	161,196	158,169	161,196	2,695,465	2,709,205	225,767	17	27	27	27	
神経内科	61,261	61,978	9,942	10,142	727,957	586,596	705,480	565,195	53,280	49,738	53,280	789,218	648,574	54,048	0	0	0	0	
アレルギー科	39,011	40,719	7,947	8,979	14,237	18,556	13,540	17,527	46,988	57,131	46,988	53,247	59,274	4,940	0	0	0	0	
小児科	174,954	169,647	10,007	10,207	411,474	442,834	404,610	436,385	63,911	58,912	63,911	586,428	612,481	51,040	0	0	0	0	
外科	243,553	285,356	24,031	27,750	1,073,418	1,195,727	1,042,325	1,146,327	69,838	77,873	69,838	1,316,970	1,481,083	123,424	914	890	890	890	
乳腺外科	195,838	165,400	29,654	29,754	178,564	151,405	169,380	143,730	81,851	86,728	81,851	374,402	316,805	26,400	210	167	167	167	
呼吸器外科	29,871	28,139	22,308	19,208	95,706	92,178	93,827	89,254	104,269	118,469	104,269	125,576	120,317	10,026	65	61	61	61	
心臓血管外科	10,239	9,223	12,977	14,211	531,698	444,251	527,891	440,884	185,870	207,995	185,870	541,937	453,474	37,789	141	102	102	102	
脳神経外科	48,934	49,761	13,355	12,799	485,000	456,629	475,448	446,991	66,487	68,766	66,487	533,933	506,390	42,199	118	120	120	120	
整形外科	179,316	197,904	7,484	7,430	1,644,220	1,619,586	1,591,317	1,575,660	67,492	71,104	67,492	1,823,536	1,817,490	151,457	1,231	1,207	1,207	1,207	
形成外科	39,901	46,536	6,130	7,277	144,438	150,565	140,493	143,989	60,670	66,083	60,670	184,338	197,101	16,425	437	484	484	484	
皮膚科	38,577	42,754	3,381	3,351	64,101	89,998	61,032	85,716	37,644	37,215	37,644	102,678	132,752	11,063	109	151	151	151	
泌尿器科	222,763	217,467	14,837	14,888	468,851	407,868	451,682	391,474	61,543	67,556	61,543	691,614	625,335	52,111	641	526	526	526	
産婦人科	206,080	182,106	6,243	6,116	926,122	838,974	890,363	811,068	80,969	81,149	80,969	1,132,201	1,021,080	85,090	479	458	458	458	
眼科	49,129	66,847	6,343	7,299	34,549	68,720	33,757	66,678	73,677	82,333	73,677	83,679	135,567	11,297	137	262	262	262	
耳鼻いんこう科	74,826	79,941	6,641	6,984	126,477	114,231	102,048	105,150	48,998	43,204	48,998	201,303	194,172	16,181	62	116	116	116	
リハビリテーション科	2,838	2,068	3,986	4,046	0	0	0	0	0	0	0	2,838	2,068	172	0	0	0	0	
精神科	58,835	64,728	6,066	6,235	326,828	322,626	322,153	314,941	33,741	34,689	33,741	385,663	387,354	32,279	128	213	213	213	
放射線診断科	54,213	57,312	34,290	34,692	0	0	0	0	0	0	0	54,213	57,312	4,776	0	0	0	0	
放射線治療科	89,818	84,230	19,628	18,793	35,902	57,361	32,579	55,150	51,494	44,085	51,494	125,720	141,591	11,799	0	0	0	0	
歯科口腔外科	70,078	63,085	5,741	5,597	47,199	48,723	44,711	47,137	71,636	71,768	71,636	117,277	111,809	9,317	299	218	218	218	
救急科	276,676	237,352	24,315	24,062	817,240	872,222	808,605	862,981	107,657	99,631	107,657	1,093,916	1,109,574	92,465	6	2	2	2	
麻酔科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	1	1	1
平成26年度 合計	3,487,299	3,359,222	12,403	12,313	14,401,825	14,177,925	13,928,729	13,718,347	70,310	71,513	70,310	17,889,124	17,537,148	1,461,429	5,063	5,039	5,039	5,039	

単位/千円	人間ドック		健康診断		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成26年	1,843	124,293	8,130	57,267	9,973	181,560
平成25年	1,954	119,961	7,106	46,937	9,060	166,898

9-2 中央部門業務報告

別紙のとおり

中央部門業務報告(放射線部)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
X線	胸部撮影 人数	3123	3158	3278	3335	3046	3277	3554	3252	3572	3569	3377	3835	40376	
	腹部撮影 人数	602	639	631	708	611	676	684	605	660	611	625	689	7741	
	骨部撮影 人数	1726	1651	1773	1764	1652	1645	1879	1632	1765	1746	1581	1924	20738	
	その他単純撮影 人数	161	127	136	163	145	146	137	116	131	123	142	168	1695	
	血管造影 人数	155	168	164	161	124	153	181	156	174	159	167	148	1910	
	消化器造影 人数	157	215	259	273	250	287	297	261	281	290	263	332	3165	
	泌尿器造影 人数	35	44	36	46	40	37	50	41	50	41	34	51	505	
	透視他造影 人数	44	41	57	66	64	51	55	84	61	61	43	52	57	675
	骨塩定量 人数	100	96	109	127	98	118	141	149	121	121	94	105	146	1404
	合計 人数	6103	6139	6443	6643	6030	6390	6978	6296	6815	6676	6346	7350	78209	
	上記の 内数	1503	1305	1236	1429	1256	1231	1584	1399	1727	1643	1410	1607	17330	
CT検査	ポータブル 人数	100	96	109	127	98	118	141	149	121	94	105	146	1404	
	頭頸部 人数	695	723	764	741	741	807	776	803	982	954	837	862	9685	
	躯幹部 人数	1560	1644	1596	1733	1670	1699	1812	1656	1877	1980	1748	2025	21000	
MRI 検査	合計 人数	2255	2367	2360	2474	2411	2506	2588	2459	2859	2934	2585	2887	30685	
	頭頸部 人数	301	307	352	376	326	320	369	350	310	313	323	393	4040	
RI PET/CT	その他 人数	410	370	399	437	415	378	414	339	378	360	381	416	4697	
	合計 人数	711	677	751	813	743	698	783	689	688	673	704	809	8739	
放射線 治療	体外測定 件数	88	94	115	119	95	87	97	102	103	96	116	125	1237	
	体外測定 人数	63	75	70	85	61	68	87	68	100	81	83	106	947	
	照射件数(入院) 件数	109	168	200	331	232	195	160	60	141	148	129	231	2104	
	照射件数(外来) 件数	365	394	389	334	332	433	597	385	290	302	404	280	4505	
延べ照射件数 件数	474	562	589	665	564	628	757	445	445	431	450	533	511	6609	

中央部門業務報告(臨床検査部)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
一般(ブランチ)	件数	6333	6493	6957	7593	7236	7394	8070	6790	7476	7495	6822	8214	86873
血液	件数	17169	17280	17762	18957	18000	18346	19610	17964	19974	20099	18151	20190	223502
血液(外注)	件数	6791	7079	7544	8136	7789	8227	8915	8276	9526	9293	8496	9147	99219
生化学(ブランチ)	件数	13825	138698	144740	153877	144978	148756	159332	145192	160688	163042	147658	165166	1810652
免疫血清(ブランチ)	件数	6599	6690	7016	7294	6679	6878	7608	6458	7439	7891	7053	7885	85490
細菌(一般)	件数	2782	2989	2843	3085	3357	3177	3390	2824	3524	3524	2818	3310	37379
細菌(結核)	件数	122	139	92	134	130	144	137	153	151	169	156	162	1689
血液ガス(ブランチ)	件数	860	782	829	877	871	945	872	957	1163	1195	923	1018	11292
検体検査合計	件数	179181	180150	187783	199953	189040	193867	207934	188614	209697	212708	192077	215092	2356096
心電図	件数	2270	2357	2404	2469	2315	2394	2631	2484	2627	2721	2454	2711	29837
脳波	件数	51	75	43	47	52	41	51	50	44	50	51	52	607
呼吸機能	件数	429	482	497	550	426	435	486	397	481	425	509	530	5627
超音波	件数	1211	1234	1377	1414	1314	1345	1540	1229	1291	1306	1340	1534	16135
心カテ	件数	113	121	117	124	101	118	141	112	130	116	128	109	1430
耳鼻科検査	件数	244	262	245	244	199	234	255	175	239	208	202	229	2736
筋電図・脈波・その他	件数	224	234	241	241	242	236	232	206	215	223	239	269	2802
生理検査合計	件数	4542	4745	4924	5089	4649	4803	5336	4653	5027	5049	4923	5434	59174
時間外検査	患者数	2254	2428	2194	2415	2320	2403	2599	2903	3554	3451	2506	2481	31508
外注検査	件数	13234	13324	13234	13545	14320	12792	14559	12385	14126	13340	12465	13971	161402
外来採血患者数	患者数	5479	5382	5525	5777	5294	5627	5872	5060	5492	5667	5242	5927	66344
入院患者採血管準備数	患者数	3262	3184	3577	3524	3546	3141	3799	3220	3550	3383	3518	4010	41694
栄養課従事者検便検査	従事者数	13	14	28	28	26	26	13	13	13	13	13	13	213
尿薬呼気試験	患者数	37	23	19	28	21	21	24	30	28	22	34	19	306
病理	件数	433	427	459	518	468	427	555	441	573	524	518	640	5983
組織診断	件数	20	14	18	25	19	26	23	15	19	20	17	21	237
迅速診断	件数	343	366	364	452	389	440	459	386	392	401	394	494	4880
細胞診断	件数	54	53	65	67	49	52	61	62	88	61	59	69	740
その他	件数	2	1	2	0	3	3	2	4	3	4	3	0	27
病理解剖	件数	852	861	908	1062	928	948	1100	908	1075	1010	991	1224	11867
合計	単位	484	410	476	598	458	470	624	542	682	520	514	464	6242
MAP	単位	132	81	459	237	84	360	216	183	279	87	525	192	2835
自己血	単位	6	12	23	24	10	11	14	12	8	0	6	10	136
濃厚血小板	単位	620	425	660	1010	885	755	1025	650	805	500	750	495	8580
その他	単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	単位	1242	928	1618	1869	1437	1596	1879	1387	1774	1107	1795	1161	17793
血液型	件数	645	642	640	725	641	611	731	640	731	728	673	706	8113
交差試験	件数	317	235	317	312	322	300	355	319	382	305	300	270	3734
不規則抗体	件数	617	572	581	650	612	586	683	601	647	657	596	627	7429
その他	件数	47	35	57	45	57	44	39	38	43	45	40	49	539
合計	件数	1626	1484	1595	1732	1632	1541	1808	1598	1803	1735	1609	1652	19815
NIOX	件数	419	408	433	441	275	312	321	290	291	280	273	315	4058
モストグラフ	件数	39	57	45	46	34	56	70	50	63	54	61	66	641
スパイロ	件数	39	59	45	47	35	59	71	51	61	52	59	67	645
可逆性検査	件数	11	12	19	6	18	19	20	16	16	12	11	24	178
ブリックテスト	件数	9	6	17	14	14	11	17	11	7	18	15	8	147
精密肺機能	件数	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3
合計	件数	517	542	559	555	376	457	500	418	432	417	419	480	5672

心カテに技師2名、耳鼻科技師1名、アレルギーセンターに1名派遣

備考

中央部門業務報告(処方箋枚数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院 処方	9,111	8,938	9,502	9,755	9,153	8,835	10,026	8,712	10,042	9,375	9,382	10,687	113,518
入院 注射	8,270	8,707	8,276	8,131	8,329	8,017	8,865	8,250	8,832	9,011	8,013	8,787	101,488
外来 処方	50	49	47	42	29	34	34	38	37	47	34	45	486
外来 時間外処方	542	589	605	714	671	651	612	728	803	846	605	656	8,022
外来 注射	836	866	848	844	844	844	994	824	859	771	832	871	10,233
院外処方箋	10,978	10,907	10,774	11,482	10,501	10,978	11,640	9,857	11,346	10,997	10,060	11,319	130,839
抗がん剤混注	414	482	452	516	502	458	522	469	502	477	487	408	5,689
IVH調整	16	27	10	19	19	18	101	69	69	58	73	15	15
服薬指導	1,014	1,009	1,029	1,048	1,104	1,045	1,361	1,162	1,332	1,227	1,352	1,475	14,158

中央部門業務報告（栄養課）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食	25,542 件数	25,071	26,743	27,310	26,617	24,519	29,161	28,561	28,262	29,137	27,589	29,658	328,170
治療食	11,127 件数	11,181	10,847	9,957	9,380	8,851	9,142	9,316	9,768	10,016	8,712	10,450	118,747
調乳	287 件数	119	305	372	409	270	257	256	643	429	227	235	3,809
栄養相談	265 件数	296	218	196	213	187	245	183	182	172	181	205	2,543
合計	37,221 件数	36,667	38,113	37,835	36,619	33,827	38,805	38,316	38,855	39,754	36,709	40,548	453,269

中央部門業務報告(リハビリテーション科部)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
リ ハ ビ リ	理学療法	4,139	3,735	3,503	3,507	3,554	3,226	3,959	3,506	3,504	3,812	3,866	3,739	44,050
	作業療法	1,414	1,340	1,267	1,210	1,215	1,289	1,295	1,062	1,138	1,247	1,336	1,331	15,144
	言語聴覚療法	1,010	968	928	983	909	988	1,129	885	1,008	1,112	899	997	11,816
	合計	6,563	6,043	5,698	5,700	5,678	5,503	6,383	5,453	5,650	6,171	6,101	6,067	71,010

中央部門業務報告(内視鏡室)

	2012年度	2013年度	2014年度
上部消化管内視鏡	4,777	4,735	4,949
(内ドック件数)	1,142	1,249	1,313
下部消化管内視鏡	1,966	1,695	1,991
(内ドック件数)	91	115	106
気管支鏡	177	162	215
ERCP	361	514	464

中央部門業務報告（透析室）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
透 析	血液浄化療法 件数	283	271	231	195	198	196	280	253	319	335	262	243	3,066

中央部門業務報告（手術室）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
全身麻酔	276	267	289	308	312	257	330	264	306	284	299	283	3,475
局所麻酔	105	99	122	113	113	104	86	62	75	78	81	102	1,140
その他麻酔	39	30	35	43	40	32	41	29	48	40	30	41	448
合計	420	396	446	464	465	393	457	355	429	402	410	426	5,063

9-3 決算書

別紙のとおり

損益計算書（平成26年度）

収 益	予算(A)	26年決算(B)	25年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業収益	18,841,476,000	18,907,135,215	18,467,874,267	65,659,215	439,260,948	2.38%
医業収益	18,113,134,000	18,045,673,322	17,667,359,630	-67,460,678	378,313,692	2.14%
入院収益	14,027,674,000	13,902,114,503	13,680,641,418	-125,559,497	221,473,085	1.62%
患者延べ数(人)	199,830	194,773	195,112	-5,057	-339	-0.17%
患者1日平均(人)	548	534	535	-14	-1	-0.26%
診療単価(円)	70,198	71,376	70,117	1,178	1,259	1.80%
病床利用率(%)	86.40%	84.16%	84.30%	-2.24%	-0.14%	-0.17%
平均入院日数(日)	11.50	11.50	11.70	-0.20	-0.20	-1.71%
外来収益	3,286,438,000	3,342,357,958	3,232,083,737	55,919,958	110,274,221	3.41%
患者延べ数(人)	280,000	281,169	272,829	1,169	8,340	3.06%
患者1日平均(人)	1,148	1,152	1,118	4	34	3.07%
診療単価(円)	11,737	11,887	11,847	150	40	0.34%
室料差額収益	461,433,000	456,780,980	446,463,510	-4,652,020	10,317,470	2.31%
保健予防活動収益	266,950,000	263,933,105	243,060,334	-3,016,895	20,872,771	8.59%
受託検査・施設利用収益	0	2,328,550	0	2,328,550	2,328,550	
その他の医業収益	108,730,000	117,146,438	105,917,715	8,416,438	11,228,723	10.60%
保険等査定減	-38,091,000	-38,988,212	-40,807,084	-897,212	1,818,872	-4.46%
医業外収益	728,342,000	781,945,820	789,004,410	53,603,820	-7,058,590	-0.89%
受取利息	0	83,394	60	83,394	83,334	138890.00%
本部繰入金	0	349,380	379,318	349,380	-29,938	-7.89%
他会計繰入金	0	0	0	0	0	
運営費補助金等収益	465,780,000	471,313,418	487,313,267	5,533,418	-15,999,849	-3.28%
施設設備費補助金等収益	55,242,000	59,743,294	73,058,964	4,501,294	-13,315,670	-18.23%
患者外給食収益	0	10,000	7,500	10,000	2,500	33.33%
その他の医業外収益	207,320,000	250,446,334	228,245,301	43,126,334	22,201,033	9.73%
特別利益	0	79,516,073	11,510,227	79,516,073	68,005,846	590.83%
固定資産売却益	0	0	0	0	0	
貸倒引当金戻入益	0	0	1,815,385	0	-1,815,385	-100.00%
その他前期損益修正益	0	79,383,473	8,578,576	79,383,473	70,804,897	825.37%
その他特別利益	0	132,600	1,116,266	132,600	-983,666	-88.12%

費 用	予算(A)	26年決算(B)	25年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	昨年度比(B-C)
みなと赤十字病院事業費用	18,607,654,000	18,831,550,660	17,853,214,877	223,896,660	978,335,783	5.48%
医業費用	18,113,102,000	18,347,051,314	17,300,160,962	233,949,314	1,046,890,352	6.05%
材料費	4,661,800,000	4,735,215,797	4,389,622,668	73,415,797	345,593,129	7.87%
薬品費	1,712,293,000	1,732,861,458	1,659,185,946	20,568,458	73,675,512	4.44%
診療材料費	2,714,591,000	2,787,327,743	2,506,184,643	72,736,743	281,143,100	11.22%
給食材料費	125,367,000	121,450,632	118,857,628	-3,916,368	2,593,004	2.18%
医療消耗備品費	109,549,000	93,575,964	105,394,451	-15,973,036	-11,818,487	-11.21%
給与費	8,900,229,000	8,874,594,131	8,496,799,086	-25,634,869	377,795,045	4.45%
委託費	1,738,609,000	1,746,694,464	1,652,586,262	8,085,464	94,108,202	5.69%
設備関係費	1,904,629,000	1,987,394,279	1,880,559,091	82,765,279	106,835,188	5.68%
減価償却費	801,392,000	821,434,777	810,300,405	20,042,777	11,134,372	1.37%
機器賃借料	9,000,000	6,465,410	8,750,934	-2,534,590	-2,285,524	-26.12%
指定管理者負担金他	671,266,000	671,095,156	653,752,611	-170,844	17,342,545	2.65%
修繕費	184,346,000	268,014,785	205,187,568	83,668,785	62,827,217	30.62%
機器保守料	237,876,000	219,424,948	201,953,457	-18,451,052	17,471,491	8.65%
その他	749,000	959,203	614,116	210,203	345,087	56.19%
研究研修費	34,051,000	57,992,258	38,139,949	23,941,258	19,852,309	52.05%
経費	873,784,000	945,160,385	842,453,906	71,376,385	102,706,479	12.19%
通信費	15,030,000	20,459,328	16,785,098	5,429,328	3,674,230	21.89%
消耗品費	81,379,000	81,521,554	80,324,698	142,554	1,196,856	1.49%
水道光熱費	467,877,000	496,877,651	458,997,671	29,000,651	37,879,980	8.25%
賃借料	117,105,000	140,276,122	116,732,446	23,171,122	23,543,676	20.17%
租税公課	13,738,000	11,824,236	13,003,831	-1,913,764	-1,179,595	-9.07%
その他	178,655,000	194,201,494	156,610,162	15,546,494	37,591,332	24.00%
医業外費用	494,552,000	464,198,563	537,045,296	-30,353,437	-72,846,733	-13.56%
支払利息	49,668,000	47,814,387	58,537,085	-1,853,613	-10,722,698	-18.32%
患者外給食用材料費	1,827,000	1,838,241	1,790,350	11,241	47,891	2.67%
看護師等委託養成費	30,000,000	23,400,000	27,000,000	-6,600,000	-3,600,000	-13.33%
診療費減免額	5,609,000	7,958,500	9,878,430	2,349,500	-1,919,930	-19.44%
本部繰入金	3,629,000	3,629,772	3,566,204	772	63,568	1.78%
他会計繰入金	2,662,000	3,126,164	2,601,329	464,164	524,835	20.18%
退職給付債務変更時差異	107,062,000	107,061,691	107,061,691	-309	0	0.00%
その他医業外費用	294,095,000	269,369,808	326,610,207	-24,725,192	-57,240,399	-17.53%
特別損失	0	20,300,783	16,008,619	20,300,783	4,292,164	26.81%
固定資産売却損	0	46,925	0	46,925	46,925	
固定資産除却損	0	12,805,517	11,116,749	12,805,517	1,688,768	15.19%
前期損益修正損	0	7,447,341	4,891,870	7,447,341	2,555,471	52.24%
その他特別損失	0	1,000	0	1,000	1,000	

経常損益(特別収支を除いたもの)	233,822,000	16,369,265	619,157,782	-217,452,735	-602,788,517	-97.36%
医業損益	32,000	-301,377,992	367,198,668	-301,409,992	-668,576,660	-182.07%
純損益	233,822,000	75,584,555	614,659,390	-158,237,445	-539,074,835	-87.70%

貸 借 対 照 表

平成27年 3月31日

(施設名) 横浜市立みなと赤十字病院

(単位：円)

資 産 の 部			負 債 及 び 基 金 の 部		
1. 流動資産			1. 流動負債		
現金		4,600,950	買掛金		1,069,574,925
預金		2,200,569,673	未払金		1,163,304,398
医療未収金	3,133,635,527		短期借入金		1,237,600,000
貸倒引当金	43,362,427	3,090,273,100	未払費用		79,910,225
未収金		86,381,768	未払法人税等		0
有価証券		0	前受金		0
医薬品		70,893,816	預り金		3,533,907
診療材料		0	職員預り金		53,640,364
給食用材料		2,881,992	前受収益		0
貯蔵品		605,489	賞与引当金		322,317,623
前払費用		0	その他の流動負債		30,000
前払費用		19,289,507	流動負債合計		3,929,911,442
未収益		6,379,354			
短期貸付金		0	2. 固定負債		
繰延税金資産		0	長期借入金		2,189,600,000
その他の流動資産		183,982,363	長期未払金		374,529,861
流動資産合計		5,665,858,012	預り出資金		0
			退職交付受入金		0
2. 固定資産			退職給付引当金		2,638,427,938
(1) 有形固定資産			医療訴訟引当金		0
建物	128,259,810		長期前受補助金等		299,717,786
建物減価償却累計額	12,404,072	115,855,738	その他の固定負債		0
建物付属設備	593,689,062		固定負債合計		5,502,275,585
建物付属設備減価償却累計額	157,242,683	436,446,379			
構築物	20,522,740		負債合計		9,432,187,027
構築物減価償却累計額	5,467,984	15,054,756			
医療用器械備品	6,385,161,718		3. 基本金		15,986,453
医療用器械備品減価償却累計額	4,992,611,385	1,392,550,333			
その他の器械備品	1,623,953,044		4. 基金積立金		
その他の器械備品減価償却累計額	1,224,837,492	399,115,552	本社交付金		0
車両	21,121,030		支部繰入金		0
車両減価償却累計額	14,051,769	7,069,261	その他の繰入金		0
放射性同位元素	0		補助金		0
放射性同位元素減価償却累計額	0	0	寄付金		54,040,000
その他の有形固定資産	60,271,500		固定資産再評価益(損)金		2,566,395
その他の有形固定資産減価償却累計額	5,514,622	54,756,878	固定資産処分益(損)金		0
土地		0	基金積立金合計		56,606,395
建設仮勘定		0			
有形固定資産合計		2,420,848,897	5. 利益剰余金		
			利益積立金		19,150,000
(2) 無形固定資産			特別積立金		0
借地権		0	当期末処分利益(損失)		439,307,041
ソフトウェア		37,723,472	利益剰余金合計		458,457,041
その他の無形固定資産		114,625			
無形固定資産合計		37,838,097	6. 有価証券評価差額金		0
(3) その他の資産			基金合計		531,049,889
有価証券		0			
長期貸付金		109,200,000			
預金		500,000,000			
長期未収金		0			
長期前払費用		5,492,725			
施設整備準備積立金		0			
病院建物建設資金出資金		546,420,497			
病院財政調整事業資金出資金		264,131,883			
出資金		217,850			
退職拠出金		411,379,925			
預託金		1,849,030			
繰延税金資産		0			
その他の固定資産		0			
その他の資産合計		1,838,691,910			
固定資産合計		4,297,378,904			
資産合計		9,963,236,916	負債及び基金合計		9,963,236,916

平成26年度キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

	金額
1. 業務活動によるキャッシュ・フロー	
税引前当期純利益	75,584,555
減価償却費	833,103,865
所有有形固定資産減価償却費	473,018,236
リース有形固定資産減価償却費	350,700,650
所有無形固定資産減価償却費	9,384,979
リース無形固定資産減価償却費	0
長期前払費用減価償却費	0
貸倒引当金の増減	-2,703,963
賞与引当金の増減	-30,480,437
医療訴訟引当金の増減	0
退職給付引当金の増減	309,683,064
退職拠出金の増減	46,090,389
退職交付受入金の増減	0
その他の引当金の増減	0
施設設備補助金等収益	-71,412,379
受取利息	-83,394
支払利息	47,814,387
有形固定資産売却損	47,368
有形固定資産除却損	12,805,517
無形固定資産売却損	0
無形固定資産除却損	0
前期損益修正損	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別損失	0
有形固定資産売却益	0
無形固定資産売却益	0
前期損益修正益	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別利益	0
医業未収金の増減	-133,952,256
未収金の増減	5,410,704
医薬品の増減	15,973,647
診療材料の増減	14,033,177
給食用材料の増減	175,216
貯蔵品の増減	-540,169
前渡金の増減	0
前払費用の増減	-1,450,466
未収収益の増減	2,183,243
その他流動資産の増減	18,286,760
買掛金の増減	134,924,658
未払金の増減	105,174,122
未払費用の増減	3,507,012
前受金の増減	0
預り金の増減	1,650,387
職員預り金の増減	-57,612,492
前受収益の増減	0
その他の流動負債の増減	-33,067
その他	23,400,000
小計	1,351,579,448
利息の受取額	60
利息の支払額	-47,814,387
法人税等の支払額	0
業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	1,303,765,121

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー		-5
定期預金の預入による支出		-1,000,000,000
定期預金の払戻による収入		0
有価証券の取得による支出		0
有価証券の償還等による収入		0
所有有形固定資産の取得による支出		-458,092,658
所有有形固定資産の売却による収入		0
所有無形固定資産の取得による支出		-9,018,000
所有無形固定資産の売却による収入		0
長期前払費用の取得による支出		-5,460,000
施設設備補助金等の受入による収入		13,494,674
短期貸付金の増減		1,800,000
長期貸付による支出		-30,000,000
長期貸付金の回収による収入		9,600,000
病院建物建設資金出資金の払込による支出		-35,314,962
病院建物建設資金出資金の返還による収入		0
病院財政調整事業資金出資金の払込による支出		-17,667,359
病院財政調整事業資金出資金の返還による収入		0
出資金の払込による支出		0
出資金の返還による収入		0
預託金の預入による支出		0
預託金の払戻による収入		0
その他の固定資産による支出		0
その他の固定資産による収入		0
その他		1,000
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)		-1,530,657,305
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減		-200,000,000
長期借入による収入		100,000,000
長期借入金の返済による支出		-316,000,000
リース債務未払金の返済による支出		-323,844,318
預り出資金の受入による収入		0
預り出資金の払戻による支出		0
その他の固定負債による支出		0
その他の固定負債による収入		0
財務活動によるキャッシュ・フロー (C)		-739,844,318
4. 現金及び現金同等物の増加額 (A+B+C)		-966,736,502
5. 現金及び現金同等物期首残高		2,671,907,125
6. 現金及び現金同等物期末残高		1,705,170,623
※ 病院収益合計		18,907,135,215
※ 病院費用合計		18,831,550,660
※ 法人税等計		0